

抑モ此事項ニ於テハ善良ノ法律ヲ要スヘキニ前章ノ如キハ善良ノ法律ト謂フ可キ乎是レ今  
 余カ論セントスル所ナリ  
 該案ノ末々十分ノ正義ヲ満足セシムルニ足ラス且社會ノ利益ヲ保護スルニ足ラサルコトハ  
 證明スルニ難カラス或場合ニ於テ罪人ノ數罪ヲ犯セルハ社會ノ怠慢ニ出ツルコトナキヲ保セ  
 ズト雖田其數罪ヲ犯セルモノハ唯一罪ヲ犯セルモノニ比スレハ多罪ナルコトハ論ヲ待タス一  
 瞬時間ノ發情ニ依テ罪ヲ犯シタルモノニ非サルヤ明カナリ彼レハ再犯者ヨリ危險ナラスト  
 雖唯一罪ヲ犯セル者ヨリ危險ナラサルヲ得ス是故ニ佛律ヨリ後ニ設ケタル歐洲ノ刑法ハ大  
 抵最重ノ刑ヲ科スルノミナラス其期限ノ幾分ヲ加フ或ハ少クトモ判官ヲシテ必ス其最長期  
 ヲ宣告セシム  
 本案ノ起草者モ始メテ此方法ヲ採用セシカ後ハ之ヲ廢シタリ然レモ余一人ノ考ニテハ之  
 ヲ廢セサルヲ可トスルニ非ズ且其期限ノ短キ刑ヲ併科スルヲ禁ズルニ非ズ且其期限ノ短キ刑  
 且又期限ヲ異ニスルニ刑ヲ孰レカヲ宣告スル時ニ方リテ期限短キ刑ヲ併科スルヲ禁ズル者ナ  
 レハ三刑ヲ併科スルモ妨ケナシ例ニ照シテ輕懲役ト重懲役トニ該ルノ二罪ヲ犯セル者又ハ重懲役  
 ト有期流刑トニ該ル者又ハ有期徒刑ト無期流刑トニ該ル者ハ先ツ苦役ヲ付スルノ刑ヲ實行  
 シ次キ罪之ヲ付セサル刑ヨリ其期限差引キテ之ヲ實行スル此以テ如ク苦役ヲ付スル短期  
 ノ刑ト之ヲ付セサル長期ノ刑トヲ併科スルコト正理ニ合スヘシ若シ此ノ如クセサル時ハ輕

重懲役ニ該ル罪人其苦役ヲ免ル、カ爲メニ重懲獄或ハ有期流刑ニ該ル所ノ國事犯罪ヲ行フ  
 コトナキヲ保セス刑期ハ長シト雖田方法ハ却テ寛テレハナリ  
 此法律ニ於テハ刑ノ輕キ者其重キ者ノ内ニ混入スルコト唯或ル非常ノ場合ニ限ルナリ即チ之  
 ヲ左ニ論セン

第一 其刑ノ中死刑アル時ハ他ノ刑ヲ科スヘカラス此場合ニ方リ先ツ有期ノ刑ノ實行シテ  
 後死刑ヲ行フハ尤モ嫌フ可キ法ト云ハサル可ラス且ツ犯人ヲシテ此ノ如キ地位ニ在ラシメ  
 ハ彼レ必ス百方逃走ノ手段ヲ求ム可ク之カ爲メニハ謀殺等ノ惡事ヲ爲スヲモ厭ハサルヘシ  
 實ニ此罪ヲ犯スモ更ニ其身ノ有様ヲ惡クスルコトナケレハナリ

第二 無期ノ徒刑ハ總テ有期ノ刑ヲ吸取スルノミナラス無期流刑ヲモ吸取スヘシ

第三 無期流刑ハ他ノ國事犯罪ノ三刑ヲ吸取ス可シ

第四 重罪ノ刑ハ總テ輕罪ノ刑ヲ吸取スヘク輕罪ノ刑ハ違警罪ノ刑ヲ吸取スヘシ  
 又爰ニ禁錮ニ該ル所ノ數罪ヲ犯セル者アリト假定セン必ス其最多限ノ最モ重キモノヲ科ス  
 ルヲ以テ允當ナリトス然ノミナラス其諸刑ノ最寡限ヲ加ヘテ右ノ最多限ニ起ニル時ハ其最  
 寡限ヲ加ヘタルモノヲ宣告スルモ可ナリ

輕禁錮ニ該ル罪ト之レヨリ期限短キ重禁錮ニ該ル罪ト俱發セル時ハ先ツ重禁錮ニ處シ其日  
 限ヲ輕禁錮ノ中ヨリ差引ク可シ

禁錮ニ該ル罪ト罰金ニ該ル罪ト俱發セル時ハ兩刑ヲ科ス可シ罰金ニ該ル數個ノ罪俱發セル時ハ其最寡數ヲ加ヘテ之ヲ宣告スヘシ若シ其最高多數ヨリ寡キ時ハ其多數ヲ宣告スヘシ違警罪モ亦同様ニ處分シ拘留ト科料トハ併科スヘク最寡數ヲ加ヘテ最多數ニ起ユル時ハ其加ヘタル者ヲ宣告スヘシ

此法律ハ一ノ重キニ從フ法ニ比スレハ簡單ナラサルヲ疑テ容レス然レモ其嚴酷ナルカ爲メニ却テ正理ニ合ス可ク且ツ社會ノ利益ヲ保護スルヲ得ヘシ

其上判官ノ判決ヲ檢束センカ爲メニ之ヲシテ各罪ニ付テ各自ニ判決シテ其刑ヲ定メシムルノ法ヲ設定シ以テ其併科吸取差引並ニ最多最寡限ヲ定ムルニ於テ法律ニ背クコトナキヤ否ヲ檢査スルノ手段ヲ大審院ニ與フヘシ

余ハ左ニ委員ノ廢止セル舊案ヲ記シ以テ右ニ論シタル事項ヲ讀者ニ示サン

本案ノ舊文

第百十二條 未タ裁判ヲ經サル數罪俱發スル時ハ各自ニ刑ヲ科スト雖モ唯左ノ制限區別ニ從ヒ之ヲ宣告實施スルモノトス

- 一 其犯人若シ死刑若クハ無期徒刑ニ該ル時ハ他ノ主刑ヲ宣告セス
- 二 有期徒刑及兩懲役ノ一ニ該ル時ハ唯刑期ノ長キモノヲ宣告スルノミ
- 三 兩流刑ノ一及兩禁獄ノ一ニ該ル時ハ唯其刑期ノ長キモノヲ宣告ス

四 同種ノ重罪刑數個ニ該ル時ハ此刑ノ最多限ニ處シ尙ホ四分ノ一ヲ加ルヲ得而シテ其一罪原來最多期ニ處ス可キモノナレハ必ス四分ノ一ヲ加フヘシ

五 第二項ニ掲ケタル刑ト第三項ノ刑トニ該リ法律或ハ審廳ノ決斷ニヨリ第三項ノ刑期ヲ長クセサルヲ得サル時ハ兩刑ヲ宣告ス而シテ第二項ノ刑ハ先ツ之ヲ實行シ其期限ヲ第三項ノ刑ニ算入スベシ

六 重罪刑ト輕罪刑ト違警罪刑トニ該ル時ハ唯重罪刑ヲ宣告ス

七 同種ノ數禁錮ニ該ル時ハ其最寡限ヲ加ヘタル總計ヨリ寡キ禁錮又最重キ最多限ヨリ寡キ禁錮ヲ宣告スヘカラス

八 重禁錮ト輕禁錮トニ該ル時輕禁錮ノ刑期若シ長ケレハ先ツ重禁錮ヲ實行シ其期限ヲ輕禁錮ノ刑ニ算入ス

九 數個ノ罰金ニ該ル時ハ其刑ノ最寡數ヲ加ヘタル總額ヨリ寡キ罰金ヲ科セス又最重キ最多數ヨリ多キ罰金ヲ宣告スヘカラス

十 罰金ト禁錮トハ兩ナカラ之ヲ宣告ス但シ其各刑中別罪ノ爲メニ宣告スルモノアル時ハ前項ノ制限ニ從フヘシ

十一 違警罪ノ刑ハ併科ス輕罪ノ刑ト同シ

十二 特別ノ沒収ハ總テ之ヲ宣告ス一モ制限ナシ

第一百十三條ハ前條ノ第二項トナレリ

第一百十四條及第一百十五條ハ本案ノ如シ

第一百十六條ハ第一百十二條ノ第十二項トナレリ

○第八章 數人共犯

○第一節 正犯

○第一百十七條 二人以上連合シテ現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス但

法律ニ於テ人ノ多數ニ因リ別ニ其刑ヲ加重スル者ハ共ニ加重ノ刑ヲ科ス

正犯即共犯人ト附從トハ相同カラス正犯ハ直接ニ犯罪ニ加功スルモノ附從ハ補助ノ手段ヲ

以テ間接ニ加功スルモノナレハナリ

日本法律ニ於テハ佛國ノ如ク正犯ト附從トヲ同様に罰セサルカ故ニ正犯ト附從トノ區別ハ

甚ダ緊要ナリ

一犯人ノ正犯ナルカ將ダ附從ナルカヲ知ラント欲スル時ハ其犯人ヲ一個ナリト假認シタル

上其行爲ハ犯罪ヲ組成スルカ將ダ其豫備ニ過キサル乎ヲ搜索スベシ忽チ其正犯カ附從カヲ

知ルヲ得ン

正犯二人以上アル時其直接加功ノ度ニ多少ノ差異アルヲ論スルヲ要セス一罪ノ遂ケタル以

上ハ其罪ヲ各人ノ全業トス即チ各人カ一個ニテ爲シタルカ如クニ看做スベシ數人ノ爲ス所ニ

係ルトノ事情ハ各人ノ刑ヲ減セス加之或場合ニ於テ數人罪ヲ犯セルノ事情ハ却テ加重ノ理

由トスヘシ何トナレバ數人ニテ犯ストキハ罪ヲ遂ケ易キヲ以テ社會ノ危難隨テ大ナレハナ

リ本條ノ未此事ニ論及ス其實例ハ第三編殊ニ盜罪ノ部ニ見ヘタリ

又一事ノ注意スヘキアリ數人カ同時ニ一犯罪ニ加功シタルノミヲ以テ其犯人ト爲スヘカ

ラス其同意連合シテ働キタルニ非レハ共犯人ト爲サス例ヘハ謀反一揆ノ時ニ於テ或兇徒ハ

其混雜ニ乘シ之レニ與ミセスシテ盜罪暴行ヲ犯ストアレハナリ

○第一百十八條 脅迫贈與結約威權其他故意ヲ以テ人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者

亦正犯ト爲ス

論說ヲ公衆ニ演述シ若クハ文書ヲ刊行公布シテ國ノ安寧ニ關シ又ハ人民ニ對シタル重罪

輕罪ヲ犯ストチ教唆シタル者亦同シ但法律ニ於テ別ニ教唆者ノ刑ヲ加重シ又ハ出版演說

ノ條例ニ依テ教唆ニ止ル者ヲ罰スルハ各其法律條例ニ從テ

時トシテハ一人一罪ヲ犯ストチ決シテ他人其教唆ニヨリ之ヲ施行スルヲアリ

佛國ノ法ハ教唆スル者ヲ看テ唯ニ附從トナシタリ勿論該法ニ於テハ之ヲ附從トスルモ刑ヲ

輕クスルニ非ス然レモ斯ク名クル時ハ教唆者ノ役目ヲ輕クスルガ如シ是レ不正ノ考ヘナレ

バ近來ノ法律ハ之ヲ採用セズ

本案ハ此點ニ於テ日本舊來ノ法律ニ從ヒ教唆者ヲ正犯トセリ實ニ此徒ハ第一ノ犯者ナリ犯

罪ノ思考ヲ以テ其思考ナキ犯者ニ勸メタル者ナリ猶豫セル犯者ヲ心ヲ決セシメタル者ナリ

本條ハ使用スヘキ手段ヲ列記シ贈與約束脅迫威權ト云フ然レモ唯之ニ止メズ其他罪スベキ手段ノ數語ヲ加ヘタリ外國ノ法律ハ罪スベキ僞術ノ字ヲ加フ甚タ廣シ例ヘハ他人ヲシテ故殺ヲ行ハシメンカ爲ニ其被殺人ガ殺者ニ殺サルハノ畫ヲ示ス場合或ハ毒殺ヲ決心セシムルガ爲メニ一獸畜ニ就テ毒藥ノ効ヲ示シ或ハ其毒藥ノ毫モ證據ヲ殘サハルコトヲ示シタル場合ヲモ教唆ノ中ニ含蓄スルヲ得ヘシ

人或ハ間ハニ唯助言ヲナシタルモ教唆トスルニ足ル乎ト余ハ答テ然リト云ハン但シ左ノ二件ノ緊要ナル約款ナキヲ得ズ一ハ其行爲ノ實行セラレタルトテ要シ一ハ其助言ノ實ニ犯者ヲ批唆シ決心セシメタルトノ明白ナルヲ要ス人又間ハン教唆シ且ツ決心セシムルノ二事ヲ兼テサレバ教唆ト爲ス可カラサル乎曰ク唯挑唆ニ止ミタルハ教唆トスルニ足ラス決心セシメタルトハ此一事ニテ教唆ト云フニ足ルベシ

人ヲ教唆シテ之ニ罪ヲ行フトテ決心セシムル其手段ハ如何様ナルニ拘ラス此ノ如キ目的ヲ以テ使用シタル時其手段効驗アリテ其目的ヲ達スルヲ得ハ教唆者ハ道德上或ハ智力上ノ正犯ナルヲ以テ正犯トシ罰スベシ

其外法律ニ明記スル所ニシテ實地甚タ多カルヘキ(殊ニ外國ニ於テハ)教唆ノ一手段ハ文書ヲ

刊行シ論說ヲ演述シテ他人ヲ勵シ或重輕罪ヲ犯サシムルト是ナリ此手段ヨリ生シ來ル所ノ罪ハ大抵國事犯ナリ而シテ此場合ニ於テモ亦教唆者ヲ智力上ノ正犯トシテ罰スルノミナラス更ニ其刑ヲ加重スルトモアリ

此所ニ於テハ教唆ニヨリ罪ヲ犯サシメタルモノ或ハ少クモ着手セシメタル場合ヲ假定セリ若シ其罪ヲ犯サハルルハ教唆ヲ一種ノ別罪トナス而シテ其事タル出版演說ニヨルト假定シタレハ之ヲ罰スルノ刑ハ特別ノ法律ニ規定スルヲ見ルヘシ

○第百十九條 正犯ノ所爲ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正犯教唆者其所爲ヲ共ニセスト雖而之ヲ豫知シタル者ハ共ニ加重ノ刑ヲ科ス

正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ之ヲ他ノ正犯ニ及ホスヲ得ス

本條ハ尋常ノ正犯ト智力上ノ正犯トニ通用スルモノナリ

正犯ノ中ニモ犯罪ヲ施行スルノ度彼此同シカラス或ハ其一人他人ヨリ更ニ重大ナル罪ヲ犯スアリ  
例ヘハ數個ノ兇徒協議シテ竊盜ヲ爲サントス然ルニ其中一人ハ暴行ヲ爲シタリ又ハ強盜ヲ爲サントテ協議シタルニ其中一人ハ人ヲ殺シタリ又ハ人ヲ殺サントテ協議シタルニ其中一人ハ之ヲ殺シタル上ニ財物ヲ盜ミタリ又教唆者ハ唯行爲ノ一ヲ教唆シタルニ犯者ハ他ノ罪ヲ犯シタリ又或罪ヲ尋常ノ情狀ニテ爲サントテ協議シ若シハ教唆シタリシニ加重ノ情狀ニ

テ之ヲ犯シタルモハ又同シ

此等ノ場合ニ於テ嚴羅巴ノ法律ニハ其區別ヲ明示スルコトナキヲ以テ其裁判官等ハ嚴酷ナル判決ヲ爲シ來レリ然ルニ精細ニシテ且寛大ナル本案ハ唯加重ノ理由アルコト或ハ犯罪ノ衆多ナルコトヲ知レル者ノミニ其刑ヲ加重ス本案ハ外國裁判官ノ如ク唯其情狀ヲ知ルヲ得ヘシトノ者ヲ以テ刑ヲ加重セス實ニ之ヲ知リタル者ノミヲ加重ス勿論裁判官ニ於テ之ヲ知ルト否トヲ察スルニ苦シムヘキ場合多カルヘシ故ニ其知レルナラント臆定シテ刑ヲ定ムルコト多カルヘシ然リト雖モ是レ裁判官證據ニ依テ其意ヲ決スル原則ノ實行ニ外ナラス此證據タル屢々臆定ニ過キサルコト多クハナリ

凡ソ加重ノ理由タル唯事情ニ依ルモノ、ミナラス犯人ノ身分ニ依ルモノアリ其事第二第三篇ニ見ユ故ニ子其父ヲ故殺スレハ其子タル身分ノ故ヲ以テ故殺ノ刑ヲ加重ス又官吏或罪ヲ犯セハ其身分ノ故ヲ以テ加重ス又雇人盜罪ヲ犯セハ其雇人タルノ故ヲ以テ加重ス身分ニ依レル加重ノ理由ハ他ノ共犯人及教唆者ニ及フコトナシ而シテ此人々カ之ヲ知レルト否トヲ論ヒス此問題ハ法ニ其明文ナキ佛國ノ如キ國ニ於テハ屢是非ノ討論アリタリ  
加重スヘキ身分ノ者ニ罪ヲ教唆シ若クハ之レト共犯シタル者ハ此加重ヲ有セサル者ヲ教唆シ若クハ之レト共犯シタル者ニ比スレハ罪ノ重キヤ疑ヲ容レス然レモ此身分ヲ有セル犯者ヨリ罪ノ輕キモ亦論ヲ待タス故ニ眞ニ適當ナル刑ヲ看出タサントスレハ此二刑ノ中間ヲ取

ルヲ善シトス雖此ノ如キ刑アラザルヲ以テ本案ノ起草ハ正當ナル際限ヲ超ユルヨリ寧ロ之レニ及ハサルヲ以テ允當ナリト考ヘタリ

○第三百三十條 教唆者ハ正犯或爲テ論テ雖モ人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時其現ニ行フ所ノ正犯ニ算入シテ多數ト爲スコトヲ得ス

本條ハ教唆者ヲ正犯トスル規則ノ例外ヲ示スモノナリ犯者ノ多數ニヨリ刑ヲ加重スル場合ニ於テ教唆者ヲ除キ其多數ナルニ非シハ刑ヲ加重スベカラズ其多數トシテ算スヘキ犯者ハ事物上ノ直接ナル犯者タルヲ要ス社會危難ノ大ナルヲ見テ法律カ其刑ヲ加重スルハ其抗拒シ難キヲ慮リテナリ故ニ教唆者ヲハ其中ニ算入スガク要セス

然リト雖モ教犯者ヲ除キ犯者多數ナルモハ多數ノ爲メ教唆者ノ刑ヲ加重スヘキ乎其答ハ前條ニ見ユ其徒其多數ナルヲ知レハ之ヲ加重シ知ラサレハ之ヲ加重セス其徒若シ數人ヲ教唆シタルモハ加重スヘキコト論ヲ待タス彼レハ其多數ナルヲ知レルノミナラス之ヲ連合セシメタルハナリ彼レ若シ唯一人ヲ教唆シタルモナリモ其人ノ必ス他人ト共ニスヘキヲ豫知レタルモハ亦其刑ヲ加重スヘシ

○第三百三十一條 事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘シ其定指シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示シアル方法ヲ殊ナル時ハ左ノ例ニ照シ教唆者ヲ處斷ス

一 所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止タ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス

二 所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス

犯人其教唆セラレタル罪ヨリ重キ罪或ハ輕キ罪ヲ犯シタリ然レモ教唆ナケレハ其罪ヲ行ハサルモノアリ其人機會ニ乘シテ原ト決シタルヨリ重キ罪ヲ行ヒ又障礙ニヨリ決シタル損害ヲ制限スルコトアリ第一ノ場合ニ於テハ其害教唆者ノ見込ミニ過キタルヲ以テ教唆者ノ罪ヲ輕クシ第二ノ場合ニ於テハ其求メタル結果ヲ生スルヲ得サルヲ以テ其罪ヲ輕クス

又教唆セル行爲ヲ實行セル所爲ト其方法ヲ異ニスルコトアルニシテ

例ハ六竊盜ヲ教唆セルニ犯人強盜ヲ爲セリ故殺ヲ教唆セルニ毒殺ヲ行ヒタリ重罪ナル強盜ハ輕罪ナル竊盜トハ別罪ナリ毒殺ハ故殺トハ別罪ナリト雖モ毒殺ハ必之ヲ死ニ處ス故殺ハ必スシモ死ニ處セズ唯手段ヲ異ニスルニ止リ何シトナレバ第一ノ常ニ盜罪第二ノ常ニ故意ノ殺入ナレバナリ此場合ニ於テ手段ヲ異ニスル爲メニ其手段ヲ豫知セサル教唆者ノ刑ヲ加重スルコトアリ

○第三節 附從

○第二百二十二條 犯罪ノ情ヲ知シ左ニ記載スル所爲ヲ以テ犯正ヲ補助シタル者ハ附從ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス

一 犯罪ヲ容易ナラシム爲メ正犯ニ器具ヲ給與シ又ハ誘導示シ及ヒ其他ノ方法ヲ與ヘ

タル者

一 豫備ノ所爲ヲ以テ犯罪ヲ補助シ又ハ容易ナラシメタル者

二 犯罪ノ後ニ於テ其終成ヲ補助シタル者

三 犯罪ノ後ニ於テ其終成ヲ補助シタル者

附從タル者ノ犯罪ニ於ケルヤ唯間接ノ關係アルニ其事ハ既ニ之ヲ論シタリ其行事ハ犯罪或ハ其結果ヲ補助シ若クハ之ヲ容易ナラシムト雖モ犯罪本領ノ部ニ入ラズ故ニ附從ハ犯人ヲ補助者ニシテ其犯者ニ非ス

佛國ノ法附從ヲ罰スルニ正犯ト同様刑ヲ以テス是レ重罪ヲ犯スハ大抵附從ヲ補助ニ當ルニ考メ由ルナリ然レモ此考ノ正否ハ最モ疑フヘシ假令之ヲシテ正理アリトスルモ尙ホ附從ヲ恕スヘキモノナリ蓋シ附從ハ社會ヲ損害スル正犯ト同率モ彼レ若シ自ラ罪ヲ爲サハ正犯ナシテ中止シムヘキ事物又ハ道德上ノ障礙ニ逢フニ至リテ中止スルコトナキヲ保セザレバ道德ニ背クノ點ニ於テ正犯ニ比スレバ輕シト謂ハサルヲ得ス

是故ニ佛律ヨリ後ニ設定セル刑法之ニ倣ハス其附從ヲ罰スルハ正犯ノ刑ニ一等ヲ減セリ本案ノ起草者モ亦斷然此新法ヲ採用シテ狐疑セザル恰モ教唆者ヲ附從トセシテ正犯トセ

心時ノ如シ

又タ附從トシテ論スヘキ補助加功ノ種類ヲ分タサルベカラス故ニ本法ハ之ヲ三類ニ分テリ然リト雖モ其類ヲ分ツハ義理ヲ明白ニスルニ在リ且ツ其手段ノ相似タルモノヲ區別スルノ

第一第三ノ兩類ハ犯正ヲ補助スル手段ノ犯罪以前ニ在ルモノニ係ル第三類ハ其犯罪以後ニ在ルモノニ係ル三類共ニ犯罪ト時チ同フセズ若シ其時チ同フスレハ其手段ハ直ニ犯罪ノ中ニ入ルベシ而シテ其犯者ハ已ニ附從ニアラス其犯者ナリ

第一類ノ手段ハ誘導指示ヲナス(犯人ヲ決心セシムル所ヲ指示ハ教唆ノ中ニ入ルベキヲ以テ此ノ如キ者ヲ指サズ)又ハ罪ヲ行ヒ或ハ容易ナラシムベキ器械武器偽鍵圖面強盜ニ貨幣偽造ニハ會合シ場所不正ノ集印刷器活字書ヲ出ス罪ニハ)ヲ給與スルヲ等ヲ云フ勿論其手段ヲ用ヒテ罪ヲ遂ケタル時ニ限ルナリ否テサハ正犯者ナキヲ以テ附從ノアルベキ理ナシ

第二類ハ施行ヲ容易ナラシムル所ノ豫備ニシテ犯罪ヨリ以前ニ爲セルモノヲ云フ例ヘハ殺スベキ人ヲ欺テ犯罪ノ地ニ誘致スル場合盜賊ノ爲メニ門戸ヲ開キテ之レヲ入ラシムル場合罪ヲ犯スベキ火器ニ玉込メタル場合等ヲ謂フナリ犯罪ノ間々側ラニ伏シテ犯人ノ危急ニ備フル者又ハ梯子ヲ支持スル者肩ヲ犯人ニ借シテ牆ニ上ラシムル者ハ附從ナリヤ將タ直接ノ加功人ナリヤ問題ナリ余ハ之ヲ看テ直接ノ加功人トス何レトナレハ其補助タル正犯ノ力ヲ増加スルニ在レタリ此場合ニ於テ其加功人ハ恰モ犯人ノ耳目ヲ増シ力ヲ増シ身幹ヲ長クセルカ如シ故ニ附從ニ在ラスニテ共犯者ナリトス

第三類ハ賊物ヲ匿クストノ外ニ含蓄スベキ事項ナシ然レモ故殺ノ未遂犯罪ニ方リテ其害人

ヲ無人ノ地ニ搬運シテ救命ヲ得ルノ方法ナカラシムル場合ノ如キハ此類ノ中ニ入ル、モ可ナラン

一般ニ論スレハ正犯人ヲ家ニ匿クシ或ハ犯罪ニ使用シタル器械ヲ匿クシテ糾弾ヲ免レシメタル場合ヲ以テ此類ノ中ニ入ルヘカラス此ノ如キ場合ニ方リ附從ノ罪ヲ論スル時ハ法律殊ニ明文ヲ掲ク本案第二編及第三編ニ見テ知ルヘシ

實ニ此場合ハ本條第三項ニ示スモノト異レリ該項ニ示ス所ノ行爲ハ犯罪ヲ終成セシムル目的トスル者ニ係ル犯人ヲシテ罪ヲ逃レシムル目的トスル者ニ係ラス何ントナレハ犯人ヲシテ罪ヲ逃レシムルノ行爲ハ憐愍ノ情ニ出テ、犯罪ノ意ニ出テサルモノアレハナリ

擬又右ノ三類ニ兼テ通シテ必要ナル所ノ一事アリ即チ犯罪或ハ其結果ヲ補助スルノ意アリテ爲セル者ニ非レハ附從ノ罪ヲ論セサルナリ此行爲ヲ爲ス者ナリトモ其目的ヲ知ラサルハ刑スヘキノ理由ナシ

○第二百二十三條 身分ニ因テ其刑ヲ加重ス可キ者附從ト爲ル時ハ其重キニ從テ一等ヲ減ス

其他第百十九條ニ記載シタル正犯ノ例ニ同シ

本條ハ附從ノコトニ付キテ加重理由ノ情狀ニ出ツルモノト身分ニ出ツルモノト異ナレルヲ再論ス

情狀ニヨリテ加重スヘキ時ハ第百十九條ヲ參考シ且マ前條ノ原則ニ依テ之ヲ決スルニ附從

ノ者犯罪ニ加功ズル時ニ方リテ加重ノ理由ヲ知レバ其刑ヲ加重シ之ヲ知ラザレバ加重セズ  
 正犯者加重スヘキ身分ノモノナル時附従ハ之ヲ知ルト雖モ其刑ヲ加重セズ第百十九條ヲ參  
 考スヘキナリ  
 然リト雖モ附従ノ身分ニ關シテ特別ノ規則アリ若シ正犯ナル時ハ加重スヘキ身分ノ者唯附  
 従タル時ハ加重ヲ免ル、コトヲ得ルヤ佛國ノ法律ハ正犯ノ刑ヲ基トシテ附従ノ刑ヲ定ムル  
 ノ法則ナシハ此ノ如キ奇怪ノ結果ヲ生スヘシ故ニ佛國ニ於テハ子タル者其父ヲ殺ス者ノ附  
 従タル時正犯ノ罪故殺ナルヲ以テ其子ハ尋常故殺ノ附従ト同様ナル刑ニ處ス而シテ父ヲ殺  
 セル子ノ附従ハ其人ニ付テ見レハ尋常ノ故殺ニ過キスト雖モ其子ト同様ノ刑ニ處ス  
 日本ノ法律ハ全ク之レト相反ス甚ダ理アリ附従ノ子ハ殺尊屬殺ノ刑ニ一等ヲ減シ、父ヲ殺セ  
 ル子ノ附従ハ尋常故殺ノ刑ニ一等ヲ減ス  
 本法ヲ起草者ハ正犯ノ刑ヲ宥恕或ハ酌量減輕スヘキ時ニ當リテ其附従ノ刑ヲモ恕スルヤ否  
 ヲ知ズ、點ニ付テ明釋スルヲ要セスト思考セリ其宥恕酌量ノ事タル幼年、自首、挑撥等正犯ノ  
 身ニ止マルト多キヲ以テ附従ハ之レニ由テ利益ヲ受クルコトヲ得サルヲ明カナレハナリ  
 一〇〇第九章 未遂犯罪  
 前章迄ハ犯罪ノ既ニ遂ケタルモノヲ假定シテ其刑罪ヲ規設シタリ本章ニ至リテハ犯罪ノ未  
 タ遂ケザルモノヲ論ス而シテ其犯者ヲ罰スルノ刑ハ犯罪全部ノ實行ニ近ツクト否トニ從テ

大ニ差異アリ

理論上ヨリ説キ來レハ罪ヲ犯サントスルノ初意ヨリ罪ヲ遂クルマテハ幾段ノ順序アルベシ  
 然レモ人爲メ法律ヲ以テハ總テ此順序ヲ搜索シテ之ヲ罰セントスルモ得テ爲スベカラズ中  
 ン就ク唯思想ノ域内ニ在テ未タ外面ニ出テザルモノハ法律ヲ以テ之ヲ罰スベカラズ  
 余今犯罪ノ順序ヲ分析シテ左ニ示サヌ  
 第一段 罪ヲ犯サントスルノ思想 此段ハ未タ社會ノ爲メニ危險ナラス且ツ道德ヲ損害ス  
 事ヲ看做スヲ得ズ何トナレバ人ハニ常其思想ヲ支配スルヲ得ス意ヲ以テ克ク其思想ヲ制ス  
 ルヲ得ト雖モ其思想ノ爲ニ一時精神ヲ驚動セラル、トナキヲ得ザレバナリ  
 第二段 罪ヲ犯サントスルノ意 此段既ニ道德ヲ損害アリ何ントナレバ精神既ニ其思想ヲ  
 制御サルヲ以テナリ罪ヲ犯サントスルノ意アレハ既ニ罪アリト謂テ可ナリ  
 然レモ其意ノミニシテ未タ罪ヲ犯サル者ハ法律ヲ以テ罰スルヲ得ズ之ヲ罰セントスルハ理  
 ノ當然ナルモノニ非ス或人其不理ヲ論シテ云ク人ノ意中ニ立入ルハ厭スベクシテ且ツ危難  
 ナレバナリト然リト雖モ時トシテハ其意ノ既ニ書簡又ハ言語ニ現ハル、コトナキヲ得サル  
 ヲ以テ余ハ此説ヲ可トセス抑モ法律ヲ以テ其意ヲ罰セサル所以ノモハ現在ニ於テ未タ社  
 會ヲ損害セス且ツ未來ノ危難ヲ患ルモ唯想像ニ過ギザルヲ以テナリ  
 第三段 罪ヲ犯サントスルノ決心 此段ハ道德ヲ損害スル前段ニ比スレハ更ニ大ナリト雖



未タ現在ニ於テ社會ノ損害ヲ見ズ但未ノ來危難ニ至リテハ前段ヨリ大ナルベキノミ  
 或場合ニ於テ人定ノ法律ハ其決心ヲ罰スルコトアリ本案國安ヲ妨害スル陰謀ヲ罰スルガ如  
 キ即チ其一例トス此陰謀タル衆人ノ決心ヨリ外ナラスト雖モ其一人ノ決心ヨリ危キヲ以テ  
 之ヲ不問ニ措カザルナリ本案ハ唯其陰謀ヲ罰スルノミナラズ之ヲ發言シテ他人ノ同意ヲ得  
 サリシ者ヲモ罰ス此時ニ方リ其決心ハ唯一人ニ止マレリト雖ドモ社會ノ危難頗ル大ナルヲ  
 以テ法律之ニ關涉スルヲ要スレハナリ一人ノ同意ヲ得サル陰謀ノ發言ナリトモ果シテ他人  
 ヲ説キ勸メ得サルヲ保セス故ニ社會ノ危難小ナラス

第四段 犯罪豫備ノ所爲 此段ハ罪ヲ犯サント決シテ其心ヲ改メサルノミナラス且外ニ  
 現ル、所ノ所爲ヲ爲シタリ其所爲タル唯之ヲ行フニ止ルモハ社會ニ實害ヲ與ヘスト雖モ其  
 目的トスル所アルカ爲メニ社會ニ危險ヲ與ヘサルヲ得ス社會ノ害ヲ蒙ラントスルヤ近キニ  
 在リ然リト雖モ國安ニ對スル重輕罪ヲ豫備スル所爲ノ外ハ法律之ヲ罰セズ國安ニ對スル罪  
 ニ限リ豫備ノ所爲ヲ罰スル所以ノモノハ道德ノ損害大ナルカ故ニ非ス社會ノ危險大ナルニ  
 ヲレリ何トナレハ第二篇ニモ記スルカ如ク此所爲ヲ罰スト雖モ其事タル時トシテハ原ト國  
 政ヲ改正セントスルノ良意ヨリ發スルモノアレハナリ其手段ハ道德ヲ損害スト雖モ目的ハ  
 正當ナルモノアレハナリ  
 常事犯ノ豫備ノ所爲ニ至リテハ其道德ニ背キ社會ヲ危クスルヤ明カナリト雖モ法律之レニ

關涉スルコトナシ蓋シ其所爲ハ人生通常ノ行爲ト相別ウヲ得サレハナリ

例ヘハ人ヲ殺サント謀ル者アリ兵器ヲ買ヒ若クハ其所有セル兵器ヲ研キ或ハ毒藥ヲ用意セ  
 シ又竊盜ヲ爲サントスル者アリ墻壁ヲ攀チ鎖鑰ヲ碎クヘキ器械ヲ用意セン然リト雖モ之ヲ  
 裁判スルニ方リテハ其兵器ヲ設クルハ自衛ノ爲ナラス又用心ノ爲メナラサルコトヲ證スル  
 ヲ得ヘカラス其毒藥ヲ用意スルハ藥料ノ爲メナラス又惡獸ヲ殺スカ爲メナラス又獸類ニ就  
 テ化學若クハ醫學上ノ試験ヲ爲スカ爲メナラサルコトヲ證スルヲ得ヘカラス其梯子等ノ器械  
 ヲ用意スルハ家内ノ事業ニ施用スルカ爲メナラサルコトヲ證スルヲ得ベカラス  
 國安ヲ妨害スル重罪ノ豫備行爲ニ至リテハ然ラズ其性質ヨリ見ルモ目的ヨリ見ルモ前段ノ  
 如ク説キ來ルヲ得ズ其事タル決シテ人生通常ノ行爲ト相混スルコトナシ例ヘハ犯者カ捕縛殺  
 害セシトスル人ノ姓名簿ヲ作ル、兵器ヲ配當スル、隊伍ヲ作ル、記號ヲ配當スル、合言  
 藥ヲ定ムル、等ハ決シテ尋常ノ行爲ニ非レハナリ

故ニ其事ハ殺人、毒殺、強盜等ノ豫備ニ比スレハ道德上ノ損害少シト雖モ法律及裁判官之ヲ

察知スルヲ得ヘシ

第五段 犯罪ニ着手スル事

第六段 罪ヲ犯シテ遂ケサル事

此二段ハ犯罪全部ヲ遂ケタルモノニ接近ス故ニ法律之ヲ罰スト雖モ正理ニヨリ犯罪ノ遂ケ

タルモノヨリ其刑ヲ輕クス

○第七段 犯罪ノ遂ケタルモノ

本章ハ此事ヲ再論スルヲ要セス  
○第二百二十四條 一人又ハ數人罪ヲ犯サンイテ謀ルト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條別ニ刑名ヲ滿クルニ非サレハ其刑ヲ科セス

罪ヲ犯サントシテ止タ其豫備ヲ發シタル者亦同シ

本條ハ決心ト豫備ノ所爲トヲ罰セサル旨ヲ明記シ且ツ第二篇ノ例外規則ヲ示シタリ

豫備ノ所爲ヲ以テ他人ノ犯罪ヲ補助スル者ハ第二百二十二條第二項ニ之ヲ從トシテ罰スルノ明條アリ然レモ此規則ハ正犯者其罪ヲ實行シタル時ニ係ル本條豫備ノ行爲ヲ罰セサルノ原則ハ豫備ノ所爲ヲ行フノミナラス實ニ犯罪ヲ施行セシ時ニ係ルモノニ非ス犯罪ヲ施行シタル者ニ向テ豫備ノ行爲ヲ責メサル所以ハ其行爲ヲ以テ犯罪施行ノ中ニ混入スルト看做スニ由レリ

○第二百五條 重罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行ヒ未タ遂ケサルノ際本犯意外ノ障礙ニ因リ之ヲ中止シタル時ハ已ニ行テ事ヲ遂ケタル者ノ刑ニ二等又ハ三等ヲ減ス

犯罪ノ實行ニ着手シテ中止セルモノヲ犯罪着手則チ「タンマチーブ」ト云フ立法者ハ其中止ノ原因ヲ區別セサルヲ得ス即チ犯人意外ノ事情(他人ノ意又ハ偶然ノ障礙或ハ天災等)ニヨリテ中止セル手將タ犯人自ラ悔悟シ或ハ法律ヲ恐レテ中止セル手ヲ區別セサルヘカラス

第二百二十四條ハ犯罪ノ施行ヲ中止セル第一理由ヲ示ス且ツ其言フ所ハ唯重罪ニ係ルノミ佛國ニ於テハ重罪ノ「タンマチーブ」ヲ既遂犯罪ト同様ニ罰ス(第二條)此事タル佛律中最モ非嚴スヘキ規則ニシテ歐洲諸國ノ近來設定シタル法律ハ再ヒ其過失ニ倣ハス克ク注意セルモノト謂フヘシ

執行ニ着手シ意外ノ理由ニ依テ中止シタル犯罪ハ既ニ遂ケタル犯罪ニ比スレハ社會ノ害モ少ク惡念モ亦淺シ社會ノ害少キハ論ヲ待タスシテ明カナルノミナラス其絶無ナルモノアルヘシ假令ヘ之レアルトモ容易ニ恢復スルヲ得ヘキモノアリ道德上ノ損害ニ至リテハ既遂犯罪ト同シキカ如シト雖モ犯人若シ意外ノ障礙ニヨリテ中止セサルモ自ラ悔テ止ムルコトキヲ保スヘカラス法律既ニ此自己ノ中止ヲ以テ有ルヘキノ事ト認定シタルノミナラス實ニ此事アル以上ハ意外ノ障礙ニ逢ハサルモ自ラ中止スルコトアルヘシト認メサルヲ得ス故ニ道德ノ害亦既遂犯罪ヨリ輕シ此ノ如ク臆定スルノ當否ハ措キテ問ハサルモ其社會ヲ損害スル少キノ事ヲ以テ其刑罰ヲ輕クスルヲ得ヘシ

且ツヤ刑ヲ輕クスヘキ一理由アリ請フ之ヲ説カン立法者ハ犯人ヲシテ利益ニヨリテ中止セシムルコトヲ務ムヘシ佛律ノ如キ犯人此利益ヲ有ヒサルノミナラス之ニ反シテ罪ヲ遂ルニ利益アリ何ントナレハ罪ヲ遂クシテ逃亡スルヲ得ヘシ或ハ其罪ヲ告クヘキ証人ヲ消滅スルヲ得ヘケレハナリ殺人ノ場合ハ其利益殊ニ多シ故ニ嚴刑ヲ以テ重罪ヲ止ムルヲ目的トス

ル所ノ法律ニシテ却テ其最恐ル、所ノ事業ヲ行ハシムルニ至ル豈愚ナラスヤ

本案ノ起草者犯罪着手ノ刑ヲ定ムルニ方リ歐洲諸法ノ最寛ナルモノヲ採用シテ本刑ヨリ少クモ二等、多クモ三等ヲ減輕スルニ決シタリ尤モ殺尊屬親罪其他尊屬親ニ對スル罪及ヒ之レト同様ニスヘキ罪(第二篇第一章)ニ至リテハ一等若クハ二等ノ外ニ刑ヲ減輕スルコトナシ

○第二百二十六條 重罪ヲ犯サントシテ已ニ其所爲ヲ盡スト雖モ事後意外ノ舛錯ニ因リ其目的ヲ遂ケサル時バ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

本條ノ罪ヲ犯シテ遂ケザル者ヲ示ス而シテ施行ノ所爲ヲ盡シテ其目的ヲ遂ケサルモノナリトノ解釋ヲナセリ此事ニ於テモ亦犯人ノ意ニ由テ効ヲ遂ケサルト意外ノ舛錯ニ由ルトチ區別セサルヲ得ス意外ノ舛錯ニ出ルモノハ刑一等若クハ二等ヲ下タス而シテ尊屬親ニ對スル罪ハ之ヲ嚴ニスルコト前條ニ準スベシ

今意外ノ舛錯ニ依テ目的ヲ遂ケサル例ヲ示サン即チ小銃ヲ發シテ中ヲザル時或ハ發火セル時人ニ毒藥ヲ飲マシメシニ其人速ニ消毒藥ヲ用ヒテ死ヲ免カレタル時人ヲ死ニ致スヘキ傷ヲナセシニ其治療ノ効アリシ時人ノ財物ヲ盜ムモ直チニ取還ヘサレタル時等ノ如シ(後日ニ贖物ヲ取上ケタルハ盜罪ノ遂ケザル者ト云フヲ得ズ)又放火ノ罪ニ就テ云ヘハ犯人已ニ可燃物ヲ用意シ之レニ火ヲ放チテ其場ヲ去レリ然ルニ其火燃ヘ上ルニ至ラステ消滅スル乎近傍ノ人早ク之ヲ消シ止メタル乎此ノ如キ場合ニ於テ犯人已ニ其目的ヲ達スベキ所爲ヲ盡

シタルガ故ニ犯罪ノ着手ト謂フベカラズ去リトテ火災ナカリシ故ニ犯罪ノ遂ケタルモノト謂フヲ得ス是レ即チ犯罪ノ遂ケザルモノナリ其疆界ヲ區別スルヤ甚ク難シ之ヲ決定スルハ陪審ノ職任ナリトス

○第二百二十七條 重罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行ヒ又ハ所爲ヲ盡スト雖モ本犯ノ真心悔悟ニ因テ自ラ之ヲ遂ケサル時ハ止メ現ニ加ヘタル毀傷損害ノ罪ヲ論ス

犯罪ノ着手ニモセヨ犯罪ノ遂ケザルモノニモセヨ本人自己ノ意ニ由テ中止セル場合アリ是レ本條ニ示ス所ナリ例ヘハ犯人既ニ一カヒ敵ヲ毆打シタル後自ラ中止スル乎被害人之哀訴ヲ聽テ中止スルコトアルヘシ又ハ之ヲ傷ケタル後ニ自ラ悔テ救命ノ策ヲ施スコトモアルベシ又ハ毒藥ヲ飲マシメタル後急ニ消毒藥ヲ與ルコトモアルベシ(事實此事アリ)又ハ自ラ贖物ヲ返還スルコトモアルベシ此等ハ第九十七條ニ特書セリ

右ノ場合ニ於テ其悔悟ニヨリテセルハ刑罰ヲ恐レテセルカチ區別スルヲ要セズ何レノ理由ニ出ツルトモ法律ノ目的ハ既ニ達シ社會ノ損害モ亦少ク以テ犯人ニ仁惠ヲ與ヘシ可ナリ此處ニ於テハ等々遂ニ刑罰ヲ減輕セス犯人ノ現ニ爲シタル損害ニ應シテ罰ヲ加フ則チ其所爲全ク効ナキ時ハ犯人ヲ罰セズ毀傷ノ度ニ從テ故意・嚴懲ヲ以テ論シ故殺又ハ故殺ノ犯罪着手ヲ以テ論セス何トナレバ人ヲ殺スノ意ハ之ヲ治療スルノ意ニ依テ(幸ニ其効アレハ)稍減スルカ故ナリ

然リト雖他人ヲ死ニ致スヘキ毆撃ヲ爲シタル後悔悟又ハ洞窟ヲ恐レテ被害人ノ命ヲ救ハン  
ト欲スルトモ救フコト能ハサル者ハ故殺ノ刑ニ處スヘシ但其情狀ヲ酌量減輕スルヲ得ヘモ  
ノミ

○第二百二十八條 重罪ヲ犯サントスル所爲アリト雖モ其事物ノ性質又ハ施用ノ方法ニ於テ  
害ヲ爲スノ理ナリ若シハ害ヲ爲スト雖モ本犯ノ目的ヲ遂ク可キ理ナキ時ハ止ク現ニ加ヘ  
タル毀傷損害ノ罪ヲ論ス

本條ハ犯人罪ヲ犯サントスルノ意アリテ之ヲ行フヘキ所爲ヲ盡ヒシニ其罪ハ原來成ルヘカ  
ラサルノ理アルヲ以テ効ヲ達セサルノ場合ヲ示ス是レヲ成ルヘカラサル犯罪ト謂フ  
方今ニ至ルマテ歐羅巴ノ法律ハ此困難ナル原則ヲ不問ニ措キテ裁判官ノ意ニ任セタリ然ル  
ニ日本ノ刑法案ハ正理ニ依テ斷然此困難ナル問題ヲ決シタルナリ

余先ツ一二ノ例ヲ出サン此例ヤ決シテ空想ノミニ非ス實地往々之ヲ見ルヘシ  
荒野ニ伏シテ路人ヲ待チ樹木ノ動クヲ見テ來ルナリト誤リ發砲シタル時、夜中盜ヲ爲サント  
欲シ一人家ニ入り死屍アルヲ見テ之ヲ其家主ト思ヒテ刺シタル時、人ヲ毒殺セン下欲シ「  
セニツク」ト信シテ無害ノ鹽類又ハ砂糖ヲ飲マシメタル時、玉込メセサルヲ知ラスシテ小銃ヲ  
發シタル時、他人ノ物ヲ盜ム意ヲ以テ「  
成ラサル者ニ非ス成ルヘカラサルモノナリ其道徳ニ背クコト大ニシテ犯罪ノ遂ケタルモソニ

同シト雖モ毫モ社會ニ損害ヲ與ヘス然リ而シテ損害ヲ生セサル所以ハ僥倖ニ出ツル乎將  
外人ノ意ニ由ル乎(例ヘハ外人其惡意ヲ疑ヒ竊カニ小銃ヨリ彈丸ヲ拔去リシ時或ハ無害物ヲ  
以テ毒藥ニ代ヘタル時ノ如ク)ヲ區別スルヲ要セス

然リト雖モ或論者ハ外人ノ意ニ由レル不可成ノ犯罪ヲ以テ意外ノ障礙ニヨリ遂ケサルノ犯  
罪ナリト論シタリ然レモ若シ此説ヲ以テ可ナリトセハ其論者ハ何故ニ僥倖ニヨリテ成ルヘ  
カラサルノ犯罪ヲモ遂ケサルノ犯罪ト看做サ、ルカ是レ余カ解ヒサル所ナリ又野蠻ノ國ニ  
ハ人ヲ殺サント欲シテ之ヲ呪スルコトソリ是等モ亦犯罪成ルヘカラサルノ、一例ナリ

切事物ノ性質又ハ施用ノ方法ニヨリ成ルヘカラサル犯罪ノ場合ニ於テモ幾分ノ損害ヲ被害  
人ニ與フルコトアリ此時ハ其蒙ラシメタル損害ノ罪ヲ論スル前條ト同シ  
○第二百二十九條 輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ本條別ニ記載スルニ非サレハ前條  
條ノ區別ニ從テ其罪ヲ論スルヲ得ス

(増參看)佛文草案直譯

第二百二十九條 輕罪ノ未遂犯及ヒ欠効犯ヲ犯シテハ原語「  
記シテ罰スル所ノ輕罪ニ對シテニアラサレハ前條ニ舉グル區別及ヒ規則ニ從テ罰セラレ  
ス

法律上此ノ場合ニ於テ輕罪ノ未遂犯ヲ罰ストアレハ夫レノミヲ以テ輕罪ノ欠効犯ニ及

前條迄ハ唯重罪ノ未遂犯罪ヲ示シタルノミナラズ輕罪ノ未遂犯罪ヲ示ス其原則重罪ト同シカラズ而シテ輕罪ノ着手及ヒ其遂ケザルモノハ法律ニ明條アルニ非レバ罰セズ或ハ云フ其重罪ト原則ヲ異ニスル所以ノモノハ罪狀ノ輕キニヨレリト然レモ輕罪ノ刑ヲ減輕シテ未遂犯罪ヲ罰スル以上ハ罪ニ輕罪ノ差異アルモ刑ニ亦輕重ノ差異アルヘシ故ニ余ハ或者ノ説ヲ可トセズ余ノ見ニヨレバ輕罪ノ未遂犯罪ハ刑法ヲ以テ關涉スルニ得ベキ程明白ナル性質ヲ有ヒザルモノ多ケレハナリ

例ヘハ毆傷ノ着手又ハ其遂ケザルモノヲ假定セン罰スベキ所何處ニカ在ル、何ヲ基礎トシテ刑ヲ定メン既ニ傷ケタル時ナレハ其輕重ニ從テ刑ヲ定ムルヲ得レモ此場合ニ於テハ何ノ罪ヲ論スルヲ得ル乎決シテ得ベカラス又擅ニ人ヲ監禁スル罪及ヒ妄リニ人家ニ入ル罪ノ着手ヲ例トセン監禁セサル時ハ其幾日續クベキ乎惡シキ取扱ヲ被害人ニ加フベキ乎否ヲ知ルヲ得ベカラズ又人家突入ノ罪ハ惡意ニ出ル乎隱多ク正理アル請求ヲ爲メガ爲メナリ乎否ヲ知ルヲ得ベカラズ

又輕罪ニハ着手シテ中止スルヲ得ザル者ナシトヒズ即チ無禮僞證等追ノ着手ノ如シ然リト雖ドモ輕罪着手ノ中ニモ法律ノ明條ニ從テ罰スベキモノアリ是レハ性質ニヨリ犯人ノ目的ヲ明知スベキモノニ限レリ即チ竊盜ノ着手、脅迫、及詐欺取財ノ着手ノ如キ此場合ニ於テ犯

罪着手ノ手段タル犯罪ノ遂ケザルモノト同シテ前ニ記シタル輕罪着手ノ如キ曖昧ノモノニ非ルナリ

着手ヲ罰スベキ輕罪ヲ示ス每ニ本案ノ起草者ハ唯着手ヲ記スルノミ別ニ其遂ケザルモノヲ記セズ罪ノ遂ケザルモノハ其着手ニ比ズレバ更ニ既遂犯罪ニ近キヲ以テ別ニ之ヲ記スルヲ要スザレバナリ然リト雖モ獨リ本條ハ之ヲ并記シテ以テ全編ノ爲メニス

○第百三十條 違警罪ヲ犯サシメザル者ハ其罪ヲ論セス

本條ハ違警罪ノ着手ト其遂ケザルモノトヲ罰セザルコトヲ示ス其主旨タル前條輕罪ノ規則ニ就テ述ベザルモノト相同シ但違警罪ニ例外ノ規則ナシ

實ニ違警罪ハ原來最少ノ罪ナルヲ以テ唯着手ニ止マル時ハ人生平常ノ事務ト同シシテ原トヨリ罪トスルニ足ラズ一人アリテ通行ヲ禁止セル橋ヲ渡ラシトセシニ巡查之ヲ制止セル場合ノ如キ其例ナリ

總則終

○第二篇 公益ニ關スル重罪輕罪

本案此篇ニ至ルマテハ刑罰ノ適施ヲ管理ス可キ一般ノ原則ヲ記載シ犯罪諸等級ノ點ニ關シテ等差ヲ立ツルヲ要セシニ方テハ其大區分即チ重罪輕罪違警罪ノ三等ヲ論シタルノミ然レモ個別ノ犯罪ヲハ毫モ記載セシナシ是レ之ヲ記載スルハ總則ノ範域ヲ出ルモノタレハナリ

本法是ヨリ以下其程課ノ最大部分ニ論及シ以テ各犯罪即チ罰ス可キ各罪事ヲ定メ其罪事ニ就テ科ス可キ刑罰ヲ明示ス可シ

本法ノ起草者ハ犯罪ノ各等ニ就テ篇ヲ別チ各之ヲ一篇ニ記スルコトニハ須臾モ思考シ得サリキ蓋シ違警罪ヲハ能ク之ヲ第四篇中ニ總記スルヲ得マリト雖モ重罪ト輕罪トハ同種ノ罪事

中ニ於テ極メテ屢々相近接シ其分界ノ區別モ亦往々極メテ輕微ニシテ假令ヒ此二罪ヲ常ニ分別シ得タルト假想スルモ之ヲ分別スレハ編纂ノ順序方法極メテ不可ナラン

故ニ今爰ニ篇ヲ分ツニ方テ採用シタル區分ハ犯罪ノ等級ヨリ生スル區分ニ非スシテ損害ヲ蒙ル利益ノ性質ニ基ツテ區分是レナリ凡犯罪ノ利益ヲ害スルヤ唯公益ヲ害スルニ止リ

テ何處ノ私人モ其犯罪ノ爲メ少シクモ直接ニハ侵害セラル、トナキ者アリ又之ニ反シテ身體財產ヲ同ハス一個人ノ利益ヲ損害スルモノアル可シ此場合ニ於テハ公益モ亦其害ヲ

蒙ル可シ何トナレハ社會ノ一人害セラル、時ハ必ス社會一般ニ於テ自ラ損害ナキヲ得サレハナリ然レ是レ唯間接ニ其害ヲ蒙ルニ過キサルナリ是レ即チ公益ニ關スル重罪輕罪(第二篇)

ト私人ニ關スル重罪輕罪(第三篇)トニ篇ヲ分チタル所以ナリ

公益ニ關スル重罪輕罪ハ私人ニ關スル重罪輕罪ニ比スレハ其類別更ニ多シトス然レモ公益ニ關スル重罪輕罪ニハ私人ニ關スル重罪輕罪ニ於テ身體ニ關スル罪ト財產ニ關スル罪トヲ分別

シ得タルガ如キ全ク異ナル區別アラサルナリ故ニ他ノ性質ニ就テ分類ヲ求メ以テ若干章ヲ分チ其諸章中多クハ又更ニ節ヲ分テ犯罪ノ小類別ヲ記載セリ

○第三章 天皇、皇后、皇太子ノ身體ニ對スル重罪輕罪

○第三百三十一條 天皇、皇后(皇太后)又ハ皇太子ノ身體ニ對シテ犯シタル重罪輕罪ハ左ノ變更

トテ除ク外卑屬親其尊屬親ノ身體ニ對シテ同罪ヲ犯シタル時ノ如ク第三篇第一章第三節

ニ依テ罰ス可シ

凡ツ歐罰巴中議院ノ制度ヲ以テ制限シタルモノト雖モ立君政體ノ諸邦ニ於テハ一個人ノ身體ニ關スル時ヨリモ更ニ嚴肅ナル刑ヲ用ヒテ以テ君主及ヒ其至近親族ノ生命身體ヲ保護スルノ必要タルヲ認メタリ

此意見ハ公平ニシテ且ツ須要タルヲ顯然ニシテ之レカ證明ヲ求ムルニ及ハズ唯更ニ其刑ヲ嚴肅ニスルノ程度如何ヲ討求スルノ外困難アラサルナリ

抑々君主ノ身體ニ對シテ重罪輕罪ヲ犯シ又ハ之ヲ犯サントシタル者ハ一個人ニ對シテ同罪ヲ犯シ又ハ之ヲ犯サントシタル者ヨリモ道德上ノ目的并ニ社會公益上ノ目的ニ於テ更ニ大罪タルト確實ナリ何トナレハ該犯ハ君臣ノ情誼ニ依リ若シ然ラスモ尊敬ノ情ニ依リテ駁制セラル可ク又其本國ヲシテ擾亂ニ至ラシメ其内部ノ安寧并ニ恐ラクハ其外部ノ安寧ヲ害ス可キヲ思考ス可キヲ以テナリ

此第二ノ危險ハ其犯罪ノ爲メニ社會ノ損害ヲ生スルモノニシテ是レカ爲メ君主ノ身體ニ對スル重罪輕罪ハ國事犯ノ部中ニ列セサル可ラスト信スル者アルニ至リタリ而レテ國事犯ヲ處スルニ當律上ノ刑ヨリモ一般ニ輕キ別段ノ刑ヲ以テスル諸邦ニ於テハ此議論大ニ緊要ヲ得タリ實ニ歐羅巴諸邦ニ於テハ君主ノ生命ニ對シテ犯サントシタル重罪ノ常ニ政治上ノ目的即チ通例本朝ヲ覆シ若クハ立君政體ノ變スルノ目的ニアリタル事果シテ然ラストスルヲ得ス蓋シ此ノ如キ重罪カ果シテ一身ノ恨ヲ酬ユルノ念ヨリ發シ猶一步ヲ退テ貪欲ヨリ起リタル事ナハ少シモ了會ス可ラサレハナリ

然レ此考慮ハ決シテ其益アラサルナリ假令ハ君主ニ對スル犯罪着手ノ最終ノ目的政治上ニ關スレモ其手段此ニ在ラスシテ故殺或ハ毒殺ノ着手ヲ爲セル時ハ其犯罪ハ常事犯罪ノ部類ニ入リテ上ニ記述シタル所ヨリモ更ニ一層道德ニ背キテ一層惡ム可キ性質ヲ有スルモノトス

次ニ其刑ノ程度ヲ定ムル難論ヲ決セサル可ラス開化未タ進歩セス法律上ニ於テ情欲ヲ以テ學理ニ換用セシ時代ニ於テハ君主ノ身體ニ關スル至輕ノ不敬ヲ以テ死刑ニ處シタルヲ見タリ君主ノ財産ニ對シテ企テタル所業ニ付テモ亦同斷タリキ是ヲ以テ更ニ一層大ナル重罪及ニ生命ヲ害セントシタル犯罪ニ付テ其刑ヲ定メント欲スレハ遂ニ已ムヲ得ズ殘忍刻薄ノ刑ヲ用ユルニ至リタリ其刑ヤ法律ノ畏力ヲ増スニナシテ反テ其面目ヲ汚セシモノナリ

降テ近世ニ至リテハ刑法上ニ於テ他ノ諸法律ニ於ケルカ如ク道理ノ進歩ヲ顯シ尋常ノ不敬ヨリ弑殺ニ至ル迄君主ニ對スル犯罪着手ノ輕罪ニ依テ其刑ノ輕罪ヲ定ムル事ヲ力メタリ其之ヲ定メントスルヤ輕キ犯罪ニ付テ過太ノ嚴刑ヲ用ユルヲ避ルニ非レハ決シテ其目的ヲ達ス可ラサルナリ然リト雖ドモ唯此一言ヲ以テ諸般ノ難論ヲ決斷シタリト謂フヲ得可ラス

歐羅巴中某ノ法律殊ニ白耳義法律ノ如キハ犯罪ノ輕重ニ依テ刑ノ階級ヲ立ル事ヲ注意セシカ爲メ憚カラスニテ詳細ニ區別ニ亘レリ其區別タル一個人ニ對スル犯罪ニ關スル時ハ人之ニ慣熟スルヲ以テ毫モ怪マスト雖ドモ君主ノ身體ニ關スル時ハ頗ル之ニ苦ミ且ツ之ヲ厭フ然ルニ此法律ノ如キハ君主ノ害セラレタル時ト傷ツケラレタル時ト疾病ヲ受ケタル時トヲ區別セリ

其他ノ法制殊ニ佛國帝政時代ノ法制ノ如キハ君主ノ生命ヲ害セントシタル犯罪ト其身體ノ自由ヲ害セントシタル犯罪トヲ區別スルヲナク又既ニ遠アタル犯罪ト犯人ノ意外ノ情狀ニ

因テ遂ケサル犯罪ト區別セシテ一様ニ刑ヲ科セリ  
 本案ノ起草者ハ本邦ニテハ此ノ如キ重罪ヲ律條ニ明記セサルト却テ天皇陛下ノ威嚴ヲ増シ  
 又人民ノ面目タルニ非ルヤ否ヤヲ一時反求シタリ是レ往時ノ立法者其法ヲ頒布スルノ時ニ  
 方テ未ダ父ヲ弑セシ者ナキカ故ニ其刑ヲ掲ケサルノ覆轍ヲ學ブト何ゾ異ナラン  
 然レ此ノ如ク論シ來レハ恰モ難事ヲ除キタルニ似タリト雖モ是ニ由テ二大不便ヲ顯出セリ  
 先ツ第一ニ君主ノ身體ニ對シテ重罪ヲ犯スヲ恐ル可キニアラサルノト假定スルモ彼ノ不  
 敬ノ如キ人民相互ニ比スレハ重フシテ問々無ニシモアラサル輕罪ハ律條ニ明記シテ之ヲ罰  
 セサル可ラズ然リ而シテ本法律ニ於テ不敬又ハ凌辱ノ刑ヲ明記シテ更ニ一層重キ罪ノ刑ヲ  
 掲ケサルハ豈ニ奇怪クテサルヲ得ンヤ而テ又立法者君主ニ對シ臣民ノ尊敬情誼ヲ恃テ重罪  
 ヲ明記セサルモ之ヲ犯サントスル者ナキヲ保ス可ラス此場合ニ於テハ常事犯ノ刑ヲ適用セ  
 サルヲ得サルニ至ル可シ是レ諸人ノ意見ニ於テ皆以テ足レリトセサル所ナリ  
 是ヲ以テ今論スル所ノ場合ニ付テ更ニ嚴肅ナル別段ノ刑ヲ定ムル意見ニ復シタリ而テ其刑  
 タルヤ太過ナクシテ嚴肅タル可ク且ツ諸犯罪ノ細目ニ互リテ皇帝ノ威嚴ヲ汚スコトナク犯罪  
 ノ諸等級ヲ定メサル可ラス此ニ難事ニ加フルニ又他ノ一大困難ニ遭遇シタルモノアリ即チ  
 常律ニ於テハ既ニ遂ケタル犯罪ト終ニ遂ケザル犯罪ト着手シタル犯罪トヲ區別シテ假令ヒ  
 道德上ノ損害ハ同等ナルト看做スモ現ニ生シタル社會ノ損害少キニ從テ漸次其刑ヲ減輕ス

ルニテ君主ニ對スル重罪ニ於テモ亦此ノ如ク其刑ノ輕重ノ立ツ可キヤ如何ノノ問題ナリ  
 本案ノ起草者ハ歐洲諸大國ノ法制ニ於テ尋常ノ重罪ニ付テハ此ノ如ク社會損害ノ三等ノ間  
 ニ區別ヲ爲ス時ト雖モ君主ニ對スル犯罪ニ關シテハ其區別ヲ爲サル法ヲ參的シ更ニ勇進  
 シテ以テ最モ貴ム可キ感情ヨリ高キ道理ト學理ノ大旨趣ヲ活用スルノ功ヲ得タリ是レ又正  
 理ニ適スル眞ノ手段タリト謂フ可シ  
 起草者ハ道理ト學理ノ外ニ卓越シテ處セント欲セハ即チ擅恣遲疑錯誤ニ陥ルモノト思考シ  
 たり蓋シ道理ハ一方法ヲ示スニ外ナラス感情ニ至リテハ最モ稱讚ス可キモノト雖モ許多ノ  
 方法ヲ示スヲ得レハナリ  
 一度此大旨趣ヲ收用シタル上ニテ容易ニ諸般ノ難事ヲ決シタリ  
 本條ノ旨趣タルヤ君主ハ其臣民一般共通ノ父タルトノ單純眞正ナル意見ヨリ出テタルナリ  
 且ツ是レ本邦古來ヨリノ意見ニシテ凡ソ立君獨裁ノ諸邦ニ於テハ皆然リトス故ニ歐羅巴諸  
 國近世ノ法律ニ於テ君主ノ生命ヲ害セントシタル犯罪ノ刑ヲ立ルニハ尋常ノ死刑ヲ掲ケス  
 シテ殺尊屬親罪ノ刑ヲ掲ケリ某ノ數邦ニ於テ此刑ヲ行フニハ先ツ毆打シタル手ヲ割斷シテ  
 後チ死ニ處セリ其他ノ諸邦ニ於テハ見物人ノ最モ悲哀ス可ク最モ感動ス可キ仕掛ヲ爲シテ  
 以テ其刑ヲ加重スルノミ其罪人ヲ赤脚ニシ之ニ長キ縋袴ヲ着セ黒布ヲ以テ其頭ヲ覆ヒ而テ  
 刑場ニ於テ處刑判決書ヲ讀ミ聞カスナリ



然レモ殺尊屬親罪ノ刑ヲ法ニ適シテ加重スル眞ノ方法ハ該犯謀殺ニ出テタルトナシト雖モ必ス之ヲ死刑ニ處シ以テ尋常兇犯ノ得可キ宥恕ヲ受ケシメサルニアリ唯年齢ノ宥恕ノミハ之ニ許サ、ルヲ得ザルノミ

本邦ニ於テハ此刑ヲ以テ十分ニ足レルカ如シ且ツ此刑ハ諸國ニ於ケルカ如ク本邦ニ於テモ法律上ニ掲ル諸刑中ノ最モ嚴ナルモノナリ

然レモ本案ハ他國ノ法制ニ異ナル所アリ請フ之ヲ述ン他國ノ法制ニ於テハ君主ノ生命ヲ害セシトシタルニ非ル時ト雖モ都テ君主ノ身體ニ對シテ着手シタル犯罪ニ付テハ皆同一ニ殺尊屬親罪ノ刑ヲ言渡シ殊ニ君主ノ自由ヲ害セントシタル犯罪ニ付テモ此刑ヲ言渡セリ但シ數邦ノ吏乘中ニモ國王ヲ除移シテ之ヲ幽囚シタルノ例尠カラス此ノ如キ犯罪ハ固ヨリ惡ム可クシテ其國ノ爲メニ甚タ災害アル關係ヲ生スルヤ必セリ然レトモ其犯罪ノ性質ハ特ニ國事犯タルト見ユル上ニ又君主ノ生命ヲ害セシトシタル犯罪ニ比スレハ社會ノ損害少キト明カニシテ其損害ヲ補ヒ得可キト亦明カナリ蓋シ罪人自ラ悔悟シテ其君主ノ自由ヲ復スルトテ得可ク君主モ亦猶ホ忠實ナル諸人ノ力ニヨリテ其厄ヲ脱カル、ヲ得ルハナリ

其他君主ノ自由ヲ害セントシタルニ過キサル者ニ死刑ニ處セザル時ハ該犯ハ君主ノ生命ヲ重ズルヲ以テ無限ノ利益トスルノミナラス更ニ三層重罪ヲ犯サントスル意アル者ニ對シテ其生命ヲ保護スルニ至ル可シト雖モ若シ君主ヲ除移シタルヲ以テ既ニ殺尊屬親罪ノ刑ニ處

スル時ハ該犯ハ尙一層其罪ヲ加重スルノ災害ヲ以テ利益ト爲シ以テ其刑ヲ免レンカ爲メニ遂ニ叛逆ヲ爲シテ革命ヲ謀ルニ至ル可ケレハ斷然其刑ヲ異ニセサル可ラサルナリ

又外國刑法ノ制度ハ猶他ノ缺典アリ即チ君主ノ身體ニ對シテ着手シタル犯罪ヲ悉ク同文ヲ用ヒテ律條ニ明記シ同一ノ殺尊屬親罪ノ刑ヲ以テ之ヲ罰スルモノ是レナリ但シ白耳義法律ニ記載セル區別ハ格別トス故ニ尋常ノ凌辱ニ近フシテ稍々重キ暴行又ハ脅迫ト生命ヲ害ヒントシタル犯罪トノ間ニ法律上毫モ等差アラサルニ至ルナリ是レ道理ニ適シ又公平ヲ失ハサルモノト謂フ可ラサルナリ

本邦ノ制度ハ此ニ又君主ノ威嚴ヲ汚ス可キ詳細ノ罪目ニ亘ラス且ツ諸點ニ關シテ完全ナル結果ヲ生スルニ至ラシメリ是レ則チ尊屬親ニ對シテ犯シタル同罪ニ付テ掲ケタル刑ヲ適用シテ以テ其罪ノ詳細ニ於テ皆必要ナル區別ヲ存シ其罪ニ相當シテ且ツ常人ニ關スル時ヨリ常ニ嚴ナル罰ヲ科スレハナリ

是故ニ本案ノ起草者ハ第三百三十一條ニ掲ケタル原則ヲ可トスルヤ否直チニ第三篇第一章第十三節ニ掲ク可キ尊屬親ニ對スル罪ノ刑ヲ規定セリ其該節ヲ草スルヤ國君ニ對スル重輕罪ニ之ヲ適用スルノ目的ヲ暫時モ離ル、トナカリシカ故ニ不孝ノ子ヲ處スルノ法ヲシテ更ニ嚴酷ナラシメタルナラン然リ而シテ其法嚴酷ナルモ決シテ適度ヲ過クルトナシ又正理ニ合セサルトナシ

法律上日本臣民ノ尊屬親ト同視スル所ノ人ハ即チ第一ニ皇帝、第二ニ皇后、第三ニ皇太子ナリ而シテ皇太子ハ皇帝ノ自ラ立テラレタルモノト(此命ナキ時ハ)法律或ハ慣習ニ依テ帝位ニ繼グ可キモノト區別セズ

皇帝ト同ク皇太子ヲ保護スル所以ハ皇太子ノ身體ニ危キ情欲ハ皇帝ニ危キモノト同シケレハナリ

皇太后即チ先帝ノ未亡人ヲモ皇帝ト同様ニス可キカ否ノ問題ニ付テハ起草者モ直チニ斷決スルヲ得ス最初ノ草案ニ其名ヲ載セタリシカ最後ノ改正ニ至リテ卒ニ之ヲ際キマリ若シ之ヲ載スレハ現今ノ天子ニ位ヲ讓リタル父帝ノ名ヲモ載セサルヲ得サレハナリ

皇帝ノ父母ハ世ヲ讓ルトモ尙ホ皇帝、皇后ノ號ヲ稱スルト各國ノ慣習ナリ然リト雖モ之ヲ臣民ノ父母ト看做スコハ稍允當ナラス而テ此人々ハ在位ノ皇帝皇后ト同様ノ危難ヲ蒙ラサル可キカ故ニ之ヲ他ノ皇族(此點ニ於テハ平人ト同キ)ト同様ニスルモ決メ不使ヲ見サルナリ

又案スルニ天皇皇后ノ語タル現ニ世ヲ治ル所ノ天皇皇后ヲ指スノミナラス既ニ位ヲ讓リタル天皇ノ父母ヲモ指スヲ得ヘシ本邦ニ於テ太子ヲ長スルニヨリ又疾病ニヨリ位ヲ讓リタル天皇及ヒ夫帝ヲ亡ヒタル皇后ハ尙ホ天皇、皇后ノ稱號并ニ權利ヲ失ハスト云フ  
國君ヲ臣下ノ父ト看做スノ理ニ問フモ亦其効ヲ減却セス何トナレハ尊屬親ノ關係ハ等級ノ増スニヨリテ減セサレハナリ

外國人ハ皇帝ニ對シテ忠義ノ關係少シト雖モ本刑法ヲ外國人ニ適用スル日ニ至ラハ本章モ亦之ニ適用ス可キヤ論ヲ待タサルナリ尤モ日本ノ法ハ或ル場合ニ於テ外國人ヲ寬處セリ勿論此例外規則ニシテ正理ニ合フモノハ唯々特別ナル數件(第三章第四章)ニ限ル可シ

本法ハ其原則ニ變更スルコトヲ示シテ以テ第三百三十一條ヲ結了セリ最初ノ草按ニ於テ其改正前ニハ此變更ノ簡條數多ナリシト雖モ改正ニ至リテ僅カニ其二簡條ヲ存シタルノミ是レ則チ第三百三十二條及ヒ第三百三十三條ノ目的ヲ爲セル簡條ニシテ先ツ之ヲ説明シ然ル後改正ニ依テ廢シタル本文ヲ出シテ其註解及ヒ其旨趣ノ證明ヲ述ブ可シ

○第三百三十二條 天皇皇后皇太子ニ對シ其面前ニ於テ公ケケニ「無アンス禮」無アンス禮」上同  
ウトヲイシ上同ノ罪ヲ犯セル者ハ三月以上五年以下ノ重禁錮并ニ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

其面前ニ非スシテ出版或ハ其他ノ公告手段ヲ用非該罪ヲ犯セル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮并十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ前條ニ掲ケタル一般ノ原則ニ違ヘル法律ニシテ尊屬親ニ對シタル同種ノ罪ヨリ其罰ヲ嚴ニスルモノナリ

立法者ノ本條ヲ草スルヤ「無アンス禮」無ノ重キモノハ更ニ惡キ意味アル「無アンス禮」亦無又「無アンス禮」上ト稱ス可キニ至ルコトヲ豫知シタリ歐洲ノ言語ニ於テ此三語ハ意義相同

シカラズト雖其語ヲ以テ示ス可キ事業ノ間タニ判然タル區域ヲ定メガタシ唯無禮ニ三等ノ差アルノミ然レ其區域ヲ定ムルト甚タ難キヲ以テ刑罰ニ三等ノ區別ヲ立テズ唯最多限ト最寡限トノ間ヲ廣クシ唯々裁判官ヲシテ「オプアンス」ノ輕重ニ從ヒ適當ノ刑罰ヲ看出サシムルノミ

其外第三百三十二條ハ直接ニ刑罰ノ大小ニ差響ク可キ區別ヲ爲シタリ即チ天皇皇后皇太子ノ而前ニ於テ其罪ヲ犯シタル時ト否ラザル時トヲ區別セリ其而前ニ於テ犯セル場合ノ如キ天皇皇后皇太子之ヲ知レリ且ツ直接ニ其耻辱ヲ受ケタリ故ニ其刑ヲ重クセサルヲ得ズ然リ而シテ之ニ反シタル場合ニ於テハ之ヲ知ラザルアリ(或ハ常ニ之ヲ知ラズ)故ニ之ヲ罰スルハ唯他人ヲ懲ラスガ爲メナルノミ

本條ノ罪ハ國事犯ノ中ニ入ラズ若シ否ラザレバ輕禁錮ニ處ス可キナリ

此罪ハ而前ニテ犯セル時モ否ラザル時モ必ず其公ケナルヲ要ス第一ノ場合ト雖但傍觀者其場ニ在ラサレハ罪ヲ論セス天皇皇后皇太子ニ對シタル無禮ノ言語手姿タリ而外ニ知ルモノナケレハ其威嚴ヲ傷クルヲナキヲ以テ之ヲ「オプアンス」ノ罪トセズ且ツ之ヲ法官ニ訴ヘテ此人トナル可キ傍觀人(少シモ一人)ナケレバ之ヲ裁判スルヲ得ザレバナリ  
人或ハ言ハシ此制限ヲ削リ以テ直接ナル無禮ノ傍觀人ナキモノヲモ罰ス可シト然リト雖但此場合ニ於テハ假令ヘ刑ヲ設クルモ之ヲ科スルヲ得ザル可シ何トナレハ天皇皇后皇太子ハ

其身ヲ低シテ其害ヲ蒙レルヲ裁判所ニ訴フヲ得ズ又自ラ刑罰ヲ宣告シテ(輕キモノナリトモ)其受ケタル損害ヲ罰スルヲ得ザレバナリ

○第三百三十三條 皇帝皇后皇太子ニ對シタル罪ニヨリ禁錮ヲ宣告セラレタル者ハ一年以上三年以下ヲ監視ニ付スルヲ得

前條ニ掲ケタル場合ノ外ニモ尊屬親ニ對スル罪ノ輕キ者ニ付或ハ減輕理由アルニ依リ或ハ廢セラレタル規程(或ニ論ス可キ)ヲ再設スルハ禁錮ノ刑ヲ宣告スルコアルヘシ此ノ如キ場合ニ於テ其犯人ニ禁錮ヲ受ケシメタル上ニ又一年以上二年以下ノ監視ニ付スルヲ得ヘシ此監視ハ宣告ヲ用井スシテ附セラル、モノニ非ス裁判官ノ之ヲ宣告スルヲ待テ後ニ科セラル、ナリ

第三百三十一條ノ附錄

本案最初ノ草案ニ於テハ更ニ詳細ノ條目ヲ記載セシニ本案編纂委員ノ多數ニ依テ之ヲ削除シタルト既ニ上ニ述ヘタルカ如シ

此削除ニ付テハ全員一致ノ同意ヲ表シタルニ非ス一二ノ委員ハ之ヲ愛惜シタリ故ニ此本文ヲ元老院ノ審查ニ付スルノ協議ヲ整ヘシ

本案ノ現狀ニ於テハ二人以上ノ間ニテ重輕罪ノ犯罪ヲ協議シテ之ヲ決定シタルノ情狀ヲ遺脱セリ然レ此情狀ハ社會ノ危險ヲ増スル更ニ多シトス何トナレハ二人以上ニテ犯罪ヲ企

ツル時ハ互ニ相敵舞スルヲ以テ犯罪ノ念ヲ絶ツノ妨ケト成ルヘク且ツ君主ノ身體ヲ重シシ法律ヲ畏ル、ノ心ニ復スルイ更ニ難ケレハナリ

勿論其犯罪ヲ遂ケタル時ハ陰謀ヲ醸シタルノ情狀ハ一般ノ原則ニ據リ裁判上ニ於テ頗ル大ナル感觸ヲ爲ス可シ是レカ爲メ附從ヲ罰スルニ至ル可シ之ヲ處スルニハ常律ヲ以テ足レリトス又其犯罪ノ施行ヲ遂ケサリシカ或ハ唯之ニ着手シタルニ過キサルニ當テ常律ニ據テ其附從ヲ罰スルヲ得可シ然レモ陰謀ヲ醸シタルノ情狀ニ依テ別ニ其首犯ノ刑ヲ加重スルヲナカル可シ是レ此ノ如キ異常ノ凶事ニ付テハ最モ憂フ可キモノト謂フ可シ且ツ本案ノ不完全ナルハ特ニ左ノ點ニアリトス凡ソ陰謀ヲ醸シテ唯其豫備ノ所爲ヲ盡シタルニ過キサル者或ハ其所爲ヲ共ニ決定シテ陰謀ノ形狀ニ止マリタル者ニ對シテハ毫モ其刑ナカル可シ況ヤ一人ニテ犯罪ヲ決心シ其施行ノ爲メニ自己ニ與スルコトヲ他人ニ發言シテ且ツ其協議ヲ遂ケサリシ者ニ當テハ其罰ナカル可シ

右ハ本案ニ於テ甚タ愛惜ス可キ缺典ナリトス凡ソ歐羅巴ノ諸法律ニ於テハ皆君主ノ生命ニ對シテ醸シタル陰謀ヲ律條ニ明記シ而シテ其施行ノ手始ヲ爲サ、リシ時ト雖モ其陰謀ヲ以テ乃チ之ヲ罰セリ若シ其施行ノ手始即チ其豫備ノ所爲アリタル時ハ陰謀ヲ醸シタルノ情狀ヲ以テ其犯罪及ヒ其刑ヲ加重セリ是レ少クモ着手又ハ遂ケサル犯罪ト既遂犯罪トヲ區別スル所ノ諸法制ニ於テハ皆然リトス

本案ニ於テ削除サレタル數條ヲ左ニ舉ク可シ是レ委員少數ノ說ニテ之ヲ回復セント發言スル所ナリ

○第一條

天皇皇后皇太子ニ對シテ重輕罪ヲ犯シカ爲メ二人以上ニテ陰謀ヲ醸シ而シテ其犯罪施行ノ所爲ニ依テ罪跡顯明ナリト雖モ犯人意外ノ情狀ニ依テ其効ヲ遂ケサル時ハ裁判所ニ於テ必スシモ其刑ノ一等ヲ減スルニ及ハサル可シ

今爰ニ論スル所ノ場合ニ於テハ尊屬親ニ對シテ重罪ヲ犯シタル卑屬親ニ關スル法律上ノ嚴刑ヲ以テ充分ナリトスルニ足ラサルカ如シ

其卑屬親ノ犯罪終ニ遂ケサルモノニ關スル時ハ既遂犯罪ノ刑ニ照シ其一等或ハ二等ヲ減スルニ非スシテ唯其一等ヲ減スルノミ然レモ其一等ハ必ス減セサルヲ得サルナリ

然ルニ本條ニ於テハ其一等ヲ減スルト否トハ適宜タルニ過キサルナリ

此規則ハ死刑ヲ言渡スト否トハ裁判所ノ權内ニアルヲ得可キカ故ニ極メテ過度ナル權ヲ裁判所ニ委スルコトヲ批難セシ者アリタリ

此駁論ハ眞理ニ基カスシテ寧ロ虛想ニ屬スルモノナリ抑モ理論上ヨリ說キ來レハ裁判所ヲシテ一等ヲ減シ或ハ減セザルコトヲ得セシムルハ裁判所ヲシテ一等或ハ二等又減シ二等或ハ三等ヲ減スルヲ得セシムルコトヲ嫌フ可キニ非ラザルト何ソ異ナランヤ實際上ヨリ論キ來ル

トモ死刑宣告ノ如キ至重ナル場合ニ方テハ法律上ニ於テ裁判所ヲシテ必ス死刑ヲ言渡サズ  
 ムルヨリモ裁判所ニ於テ死刑ヲ遂ケルヲ得ルノ權ヲ有スルヲ好シトス若シ夫レ遂ケサル  
 犯罪ニ遂ケタル犯罪トノ間ニ於テ全ク差等ヲ被ニ除カント欲スルニ非レハ寧ロ輕微ノ差等  
 ナ存シテ以テ新法ノ原則中ノ一ヲ充分ニ失ハサラシノ且ツ今論スル所ノ重罪ニ付テ猶ホ本  
 法ノ嚴肅ヲ加フルノ善キニ如カサルナリ  
 概シテ之ヲ論スレハ若シ子タル者他人ト協議シテ殺親罪ヲ遂ケ得可キ所爲ヲ盡シタリト雖  
 卽其意外ノ情狀ニ依テ其重罪ヲ遂ケサリシ時ハ殺尊屬親罪ノ刑ニ照シテ必スシモ其一等ヲ  
 減ス可キナリ若シ天皇陛下ニ對スル此ノ如キ重罪ニ關シ且ツ數人ノ間ニテ之ヲ協議シタル  
 ニ係ル時ハ假令ヒ其犯罪ヲ遂ケサルト雖卽既遂犯罪ノ刑ヲ言渡スコトヲ得ヘシ蓋シ何人ト雖  
 卽之ヲ過太ノ嚴刑ト思ハサル可シ  
 此ノ如キ場合ニ於テ裁判所ニテハ如何ナル情狀ヲ酌テ斷定スルヲ得可キヤ如何ノ問題アリ  
 本法ノ理論上ニ於テハ此事タル尋常ノ減輕ス可キ情狀タルニ非ル可シ其情狀アルコトヲ決定  
 スルノ權ハ裁判所ニ屬スルニ非スシテ陪審官ニ屬スルナリ(上等裁判所ニ於テスルト否トニ  
 依テ上等陪審官或ハ尋常ノ陪審官トス)  
 然ルニ此ノ如キ場合ニ於テハ裁判所ニテ一等ヲ減スルト否トニ就テノ決斷ノ主義ヲ定ムル  
 ニ陰謀ノ諸犯悉ク知レテ捕縛セラレタルカ又ハ否ラサルノ情狀ヲ以テスルコト理ノ當然ナル

可シ而シテ其諸犯悉ク捕縛セラレテ司法ノ手ニアル場合ニ於テハ則ニ其再ヒ重罪ヲ犯スヲ  
 恐ル可キニ非ス故ニ其遂ケザル犯罪ニ付テハ減輕ノ原則ヲ施用スルヲ得ベシト雖卽之ニ反  
 スル場合ニ於テハ必ス死刑ニ處シテ以テ附從ヲ恐嚇スルコト必要タルベシ  
 并ニ此議論ハ若シ陰謀ヲ醸シタルニ非スシテ一人ニテ犯罪ヲ決定シ其施行ヲ遂ケザルニ於  
 テハ決シテ生セザルコトヲ宜シク注意ス可シ務場合ニ在テハ裁判所ニ於テ必ス一等ヲ減セサ  
 ルヲ得サルナリ

編纂委員ノ衆說ハ必ス此場合ニ於テ一等ヲ減スルコトヲ拒ムニ至リタル可シ他ノ諸國ノ法制  
 ニ於テ其例アレバナリ然レトモ是レ前過ニ反スル過失ニ陷ルモノニシテ前キニ適宜取捨ノ  
 性質ヲ以テ裁判所ニ委スルヲ危險ト思ヒシ所ノ嚴肅ヲ必行ノ性質ヲ以テ法律ニ明記スルモ  
 ノト謂可シ且ツ該犯其犯罪ニ遂ケサル上ニ又附從ナキヲ以テ社會ノ危險消滅セシニ尙此ノ  
 如キハ豈酷ナラスヤ故ニ獨犯ノ罪人ヲバ尊屬親ヲ殺サントシテ其犯罪ヲ遂ケサリシ者ト同  
 様ニ處シテ足レリトス而シテ若シ猶ホ天皇陛下ヲ害スル重罪ノ他ノ罪ニ比スレハ特別ニ重  
 キヲ以テ余ノ說ヲ駁スル者アラバ余ハ之ニ答テ言ハン若シ其犯罪遂ケズシテ天皇陛下ノ生  
 命意外ニ救ハレタル時ハ必ズ神明ノ保護ヲ謝スル爲メニ神祭ノ執行アル可シ而シテ其罪人  
 ヲ死刑ニ處スルハ事實相反スルモノニシテ且ツ殆ト苛酷タル可シト蓋シ他國ノ法ニ於テハ  
 恐ラシハ此相反スル事アル可シト雖卽他國ノ法ヲ模擬ス可キハ是等ノ事ニ非ラサルナリ

○其第二條

同上陰謀ノ場合ニ於テ若シ同一ノ情狀ニ由テ其犯罪ノ着手ヲ中止シタルトアル時ハ本刑ノ一等ノミヲ減ス可シ

本條ニ於テハ犯罪施行ノ所爲ヲ悉ク盡シタルニ非スシテ且ツ其効ヲ生シタルトナシ其所爲ヲ盡シテ遂ケサル犯罪ニ於ケルヲ如キニ非ス唯犯罪施行ノ手始ヲ爲シタルノミ然レモ犯人意外ノ情狀ニ依テ其着手ヲ停メテ然ルガ故ニ道德上ヨリ論ズレバ其所爲ハ亦殆ト惡ム可キナリ然レモ若シ此事ナキモ其犯人君主ヲ尊敬シ又ハ法律ヲ畏ル、心ヲ生シテ以テ自ら其犯罪ヲ止メサルトナキヲ保ス可ラズ特ニ前條ト異ナル所ハ社會損害ノ目的ニ在リテ前條ニ於テハ社會ノ危險尙大ナリト雖モ本條ニ於テハ其危險更ニ少シトス

故ニ尋常ノ重罪ニ關スル時ハ本刑ノ三等或ハ三等ヲ減ス可シ所謂尊屬親ニ對スル重罪ニ關スル時ハ其一等或ハ二等ノ外減スルヲ得サル可シ而シテ天皇陛下ノ身體ニ關スル時ハ其一等ノ外減スルヲ得サル可シ

然ルニ編纂委員多數ノ考案ニテ茲ニ論スル所ノ數條ヲ削除シタルガ故ニ一等或ハ二等ヲ減スルノ餘地ヲ遺セリ是レ至當ノ嚴肅ヲ缺クモノト謂フベシ但シ此削除セラレタル數條ニ於テハ常ニ陰謀ノ場合ニ關スルヲ注意ス可シ故ニ若シ犯罪ノ着手一人ノ決心ヨリ起リシ時ハ必ス一等或ハ二等ヲ減ス可キナリ

○其第三條

陰謀ヲ醸シテ或ル豫備ノ所爲ヲ盡シタルニ止マル時ハ本刑ヨリ二等ヲ減ス凡ソ尋常ノ重輕罪ノミナラス又尊屬親ノ身體ニ對スル重輕罪ヲ犯サントシテ其豫備ノ所爲ニ止マリタル場合ニ於テハ法律上ニ於テ其刑ヲ科セス其旨趣ハ第二百二十四條ニ於テ之ヲ述ヘタリ

然レモ此規則ニ例外アルトハ該條ニ記シタリ純萃ノ國事犯罪ハ都テ一般ニ此別例ヲ許ス所ノ犯罪ナリトス此別例ハ次章ニ於テ之ヲ見ル可シ然レモ純萃ノ國事犯罪タルニ非スシテ該章ノ目的ヲ爲セル重罪ハ今茲ニ論スル所ノ此増補ノ原則ヲ正ニ設ク可キ隱謀上ニ於テハ純萃ノ國事犯罪ニ類似スルモノナリ然ルニ此原則ヲ廢シタルハ余ノ非ナリトスル所ナリ天皇陛下ノ身體ニ對スル犯罪豫備ノ所爲ハ之ヲ驗出スルヲ難カル可シ何トナレハ其所爲ハ罪ス可キニ非ラサル目的ノ所爲ト參雜シ得ルヲ以テナリ尋常ノ犯罪ニ於テ其豫備ノ所爲ノ本質及ヒ其所爲ヲ不問ニ措クノ旨タル主趣ハ茲ニアリトス然レモ若シ其豫備ノ所爲隱謀ヨリ生シタル時ハ其所爲ハ此情狀ニ由テ更ニ顯明ナルニ至ル可シ加之次條ニ於テハ隱謀ヲ醸シタルニ非スト雖モ其所爲ヲ罰セリ  
常律上ニ於テハ犯罪豫備ノ所爲ヲ罰セサルカ故ニ常律トノ比較トノ事例ヲハ茲ニ見サル可シト雖モ國事犯罪(第三百三十九條)トノ比較ノ事例ヲ茲ニ見ル可シ

本條ノ刑ハ國事犯罪ニ於ケルカ如ク二等ヲ減スト雖モ其實本條ノ嚴罰ナルハ國事犯罪ヨリモ更ニ大ナリトス何トナレハ其決等ノ照準點タル本刑ハ必ス國事犯罪ノ刑ヨリモ太ク重ケレハナリ(少シトモ司法省ノ草案ニ於テハ然カリトス)

○其第四條

隱謀ヲ醸スト雖モ未タ毫モ豫備ノ所爲ヲ行ハサル時ハ本刑ヨリ三等ヲ減ス  
一人ニテ犯罪ヲ決心シ由テ豫備ノ所爲ヲ行フタル時モ亦同シ  
隱謀ヲ醸スト雖モ未タ豫備ノ所爲ヲ行ハサリシ時ハ唯犯罪ノ決心ヲ爲シタルニ過キサルナリ  
一般ニ犯罪ノ決心ハ法律之ヲ罰セス(第二百二十四條參看)何トナレハ其探索ノ難キノミナラス  
社會ノ損害ヲ監定スルノ難ケレハナリ然レモ二人以上ニテ隱謀ヲ協議シテ共ニ犯罪ヲ決シ  
タル時ハ既ニ社會ノ危險ヲ顯シ互ニ相鼓舞スルノ危險アルヲ以テ法律之ヲ罰セリ尤モ其本  
刑ヨリ三等ヲ減スルナリ  
又一人ニテ犯罪ヲ決心シタルモノト雖モ由テ豫備ノ所爲ヲ行フタル時ハ法律上ニ於テ右ト  
同様ニ之ヲ罰スルナリ

○其第五條

第三百三十一條ニ記載シタル重輕罪中ノ一罪ヲ犯サンカ爲メ陰謀ヲ醸サンテ發言シテ其承諾ヲ得サリシ時發言シタル重罪又ハ輕罪ノ刑ヨリ四等ヲ減ス

本條ニ於テハ其發言ノ承諾ヲ得サリシカ故ニ一人ニテ犯罪ノ決心ヲ爲シタルノミ且ツ其豫備ノ所爲ヲ行ハサリシトテ假定セリト雖モ其犯罪ノ決心ヲ表シタル方法ヲ見レハ必ス害心ヲ抱キタルト明白ニシテ實ニ社會ノ危險ヲ顯セリ然レモ其刑ハ隱謀ノ刑ヲ科スルニ非ス何トナレハ道德ニ背ケル事ハ同一タリト雖モ社會ノ危險更ニ少ケレハナリ

○其第六條

前數條ニ記シタル隱謀中ノ一ニ加功スト雖モ未タ其犯罪ノ施行ニ着手セサル前且ツ官是レカ爲メ未タ其罪人ノ搜索ヲ始メサル前ニ自ラ縛ニ就キ且ツ同類ノ名ヲ示シテ以テ最先ニ其隱謀ヲ官ニ告發シタル者ハ全ク其罪ヲ宥恕シテ以テ其刑ヲ免ス可シ  
是レ亦國事犯罪ノ原則ニ從テ設定セサルモノナリ  
國君ノ身體ニ對シテ陰謀ヲ醸ストモ其犯罪ニ着手スルニ先チテ之ヲ告發セシムルハ最モ希望スベキノ事項ニシテ之レカ爲メ一太不幸ヲ免ル、ヲ得ヘシ立法者此結果ヲ得ント欲シテ最先ニ隱謀ヲ告發セル犯者ニ其罪ヲ免セン、ヲ約束ス  
此告發タル社會ノ危險ヲ消滅セシム或ハ少クモ大ニ其危險ヲ減却ス可シ此告發ニ依テ官國君ノ身體ニ對シタル犯罪ヲ豫防ス可キ各所爲ヲ盡スヲ得レハナリ且ツ告發者ハ他ノ犯人ニ比スレハ惡心淺クシテ早ク悔悟シタリ故ニ之ヲ罰ス可ラス  
但シ立法者此告發者ヲ免スルニ左ノ五件ヲ必要トセリ第一、未タ些モ其犯罪ニ着手セサルヲ

要ス第二、官未マ罪人ノ搜索ヲ始メザルヲ要ス、第三、告發者共同類ヲ指名スルヲ要ス、第四、自  
 ラ縛ニ就クヲ要ス、第五、最先ニ其陰謀ヲ告發セル者ニ非サレハ罪ヲ全免セス若シ他ニ既ニ告  
 發セル者アリテ官其搜捕ヲ始メタル後ニ至リテ告發セル者ハ罪ヲ免スナシ  
 人或ハ云ハシ告發者ニ刑ヲ科セザル場合ニ於テ其自ラ縛ニ就クヲ要スルハ怪ム可キノ法ナ  
 リト然レ而シテ其之ヲ要スル所以ノモノハ抑モ理アリ裁判所ニ於テ其果シテ全免ス可キモノナ  
 ルヤ否ヲ明知シ得ルヲ要スルカ故ナリ且ツ若シ眞ニ之ヲ放タバ同類ノ爲メニ脅迫若クハ威  
 制セラレテ再ヒ之ニ與ミズルヲナキヲ得ス

○其第七條

搜捕始マリシ後ニシテ且ツ捕縛セザレタル者ナリト犯罪ニ着手セサルハ前ニアレハ重立  
 チタル同類ヲ捕縛セシメタルハ前條ニ同シ(全免ス)

本條ノ告發者ハ搜捕包ニ始マリシ後ニセルノミナラス其身モ既ニ捕縛セラレタルヲ以テ前  
 條ノ如キ利益ヲ有セス何トナレバ其社會ニ對シテ爲セル所ノ勤勞少ク其眞ニ悟悔セルヤ否  
 モ亦疑可キカ故ナリ然リト雖モ其告發者首其同類ヲ告發ルルミナラス其中ノ重立タル者ヲ  
 捕縛セシメタル時ハ之ヲ全免ス此賢良ナル寬典ノ故ヲ以テ社會ノ危難ヲ避クルヲ得ベシ勿  
 論犯罪ニ着手セザル時ニ限ルナリ

○其第八條

前二條ノ場合ニ於テ告發セル犯人ハ五年以上十年以下ノ監視ニ付ス

現在本案ノ規則ニ依レハ法律ヲ以テ監視ニ付スルヲ少シ而シテ刑ヲ宣告セル時ニ於テモ裁  
 判所ノ適宜ニ監視ニ付スルモ多シ然ルニ本條ノ如キハ法律ノ明文ヲ以テ監視ニ付スルモ  
 ノニシテ裁判所ハ必ス之ヲ宣告セザルヲ得ス其權内ニアルハ唯期限ノ長短ヲ定ムルニ止マ  
 レリ

本條ハ總則中(第五十一條及第七十一條第二項)監視ヲ主刑ノ附加トセズシテ唯此刑ノミヲ科  
 スル場合ノニナリ

以上ノ諸規則ハ司法省委員ノ始メ採用シテ後ニ廢止セルモノナリ其之ヲ廢止スルヤ正理ニ  
 背反ズルヲキチ得サルヲ以テ余ハ再ヒ之ヲ設定スルヲ可ナリト信ズ

○第二章 内國ノ安寧ニ對スル重輕罪

○第三百三十四條 皇統ヲ顛覆シ又皇嗣ノ順次ヲ變更シ又ハ日本或ハ其屬地ノ部分ヲ押領シ

又ハ政府ニ關シテ天皇ノ有スル權利特權ヲ減削スルコトヲ目的トスル所ノ内亂、謀反、若ク

ハ一揆ニ與ミシタル者ハ其加功ノ度ニ應シテ左ノ如ク處分ス

第一 此罪ヲ效峻シタル者又ハ内亂謀反一揆ニ於テ大將タリシ者ハ無期ノ流罪ニ處シテ

五百圓以上五千圓以下ノ罰金ヲ科ス



第二 大將ニ非ル指令官又ハ其他ノ威權アル職務ヲ行ヒタル者ハ有期ノ流刑ニ處シ并ニ百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ科ス

第三 指令官并ニ前記シタル職務ヲ行ハズノ此罪ニ加功シタル者ハ重禁獄ニ處ス  
本章ト本章トハ國事犯ヲ豫定シテ之ヲ罰ス今其罪ノ各種ヲ論究スルニ先ダチ其總體ニ就テ陳述スヘシ

夫レ政事ハ國ノ廣大無上ノ施治ナリ政府ノ行爲タリ夫ノ國事犯ハ此施治ニ抗シ此政府ニ反スル所ノ罪ナリ而シテ此施治此政府ノ長タル者ハ天皇及ヒ諸卿官省縣令ナルカ故ニ國事犯ハ常ニ其人々ニ對シテ犯スモノナラズ  
第三百三十四條ハ唯天皇ノ權威ニ對シタル罪ヲ豫定シ次條ハ中央政府又ハ地方官ニ對シタルモノヲ豫定シ第三百三十六條ハ直チニ官省ニ對スルモノニ非スシテ官省ノ自由ニ對スル所ノ罪ヲ豫定ス

右ノ諸條ハ犯人カ其犯罪ニ方リテ行ヒタル職務ヲ區別シテ其刑ニ差異ヲ設ク  
次キニ立法者ハ其犯罪ヲ遂ク至ラサル諸期ヲ豫定ス之ヲ罪シ又國事犯ト同時ニ常事犯ヲ行ヒタル場合ヲ揭ケテ其刑ヲ規定セリ  
此等ノ諸件ヲ論スルニ先ダチ余ハ此ニ揭ケタル刑罰ニ最モ重キモノハ無期流刑ニシテ國事犯ニハ死刑ヲ廢シタル所以ヲ論セン

今余ハ最大ノ常事犯ニ死刑ヲ用井ルノ正否ヲ論セス本案ノ如キハ此罪ニ死刑ヲ存シ唯之ヲ用井ルノ場合ヲ少クシテ罪ノ最重キモノニ科スルノミ  
余嘗テ此恐ルヘキ刑罰ヲ存スルノ可否ヲ論シタリシヲ以テ今コ、ニハ唯本案ノ起草者カ國事犯ニ死刑ヲ廢シタル理由ヲ陳述セン

此事タル大胆ナルカ如シト雖モ賢良公平ニシテ且ツ條理アリ然リト雖モ司法省委員ノ之ヲ決セシハ頗ル熟慮シ頗ル討論シタル後ニアリ且ツ其之ヲ討論セシ時ハ西南事件ノ最中ナリシカハ人ヲシテ國事犯ノ刑ヲ嚴ニセシメントスルノ勢アリキ實ニ此騷亂ハ久シク平定セザリシヲ以テ自ラ向來ノ内亂ニ付キ法律ヲ編纂スル者ヲシテ嚴酷ヲ可ナリトセシメサルヲ得ス然リト雖モ其人々ノ心ニ眞理ト認メタル事ハ之カ爲メニ屈スヘキニ非レハ舊來ノ慣習ニ出テ西南事件ノ爲メニ助ケラレタル條理ハ卒ニ死刑ノ廢止ノ正論ニ勝ツヲ得サリキ  
余ハ死刑ヲ廢止スルヲ以テ賢良公平ニシテ條理アリト記シタリ若シ其果シテ此三德ヲ備フルヤ否ヲ論明スレハ本案ノ正非モ亦隨テ明カナラン

第一 國事犯ニ於テ死刑ヲ廢スルハ賢良ナリ即チ正理ト智識トニ合スルモノナリ  
死刑ヲ以テ威嚇スルモ決シテ謀反人ヲ止ムルヲ得サルコトハ本邦及諸國ノ史乘ニ歷々見ルヘシ此徒ハ威權ヲ得ント欲シ或ハ國是ト信スル所ノ事ニ熱心シテ大事ヲ舉ルモノニシテ此二個ノ發情タル夫ノ死刑ヲ恐ル心ノ爲メニ制セラレ、カ如キモノニ非ス

其首魁ヲ死ニ處セシ後屢々同様ノ謀反ヲ起ス者アリシコトモ亦歴史ニ明カナリ  
 且ツヤ此情實ノ犯罪タル一人一個ノ企ニアラスシテ一黨派ノ爲ニ係ルモノナリ抑モ黨派ハ  
 多少ノ人數ヨリ成リ大小ノ首魁ト其徒黨ト有セリ而シテ其徒黨ノ者モ首魁ノ亡ヒシ後ニ  
 代テ首魁トナルヲ得ヘシ故ニ首魁ヲ死ニ處スルモ以テ社會ノ危難ヲ遏絶スルコトナク却テ  
 之カ爲ニ憤怒ノ情ヤ報仇ノ念ヲ醸成スヘシ其死セル者ハ常事犯ノ如ク人ニ輕蔑セラル、コ  
 トナク却テ其黨ノ爲メニ名譽アルモノト看做サルヘシ是故ニ他人ヲ威嚇シ未來ノ安全ヲ計  
 ルチ目的トスル所ノ死刑ハ十分ニ此目的ヲ達セサルノミナラス再ヒ同様ノ罪ヲ犯サシムル  
 ノ辭柄トナルノミ而シテ其謀反人ヲ罰スルヤ前者ヨリ後者是ニ嚴ナルカ故ニ一揆ノ精神益々  
 過激トナリ其暴發モ愈々猛烈トナルヘシ  
 是ヲ以テ觀レハ國事犯ニ死刑ヲ廢スルハ賢良ト謂ハサルベカラス即チ正理ト經驗トニ合ス  
 ルノ處分ト謂ハザルベカラズ

第二 死刑ヲ廢スレハ國事犯ト常事犯トヲ同様ニスルノ不公平ヲ免ル、ヲ以テ其處分ハ公  
 平ナリトス

抑モ國事犯ハ大抵一個人ニ對シテ犯スモノタル夫ノ常事犯ニ比スレハ社會ノ危難ヲ現出ス  
 ル甚ク大ナリ然レモ其最重キ罪ナリモ道德上ノ點ニ於テ常事犯ノ如キモノ非ス况ンヤ上ニ  
 モ記スルカ如ク此ノ如キ罪ヲ犯スハ眞實ニ國政ヲ改正セントスルノ情ニ出ル者アルヲヤ

道德上ノ點ニ於テ輕キモ社會損害ノ點ニ於テ重キニヨリ輕重相償フト論スルモノアレモ是  
 レ決シテ公正ナル論理ト謂フベカラス輕罪又ハ中等ノ罪ニ於テ法律ハ此ノ如ク相償ハシメ  
 社會ノ害ト道德ノ惡トヲ相同クセサル罪業ヲ罰スルニ同刑ヲ以テスルヲ得ベシト雖モ其相  
 償フノ極途ニ死刑ニ至ルハ嫌惡スベク且ツ理ニ當ラズト謂フベシ此問題ニ於テ余尙ホ一  
 歩ヲ進ムベシ道德上ノ點ニ於テ國事犯ノ大ニ常事犯ト異ナルコトヲ認定スルヲ得ベシ即チ  
 佛國ノ例ヲ以テ此事ヲ證論セン

佛國ニ於テ謀殺毒殺放火ハ惡ムベキ罪ナリトシテ常ニ死刑ヲ以テ之ヲ罰シタルハ古今一轍  
 ノ如シ然ルニ此國ニ於テ這ノ政體ヲ顛覆シテ那ノ政府ヲ設立セシコト屢々ナリシニ各政府  
 ハ其永續セル間々常ニ死刑ヲ以テ謀反者ヲ畏嚇シテ其威權ヲ保タント思ヒタリシガ皆滅亡  
 セザルナリ而シテ正道ハ威力ト共ニ變スルニ以タリ是レ正理ノ原則ニ非ルコト論ヲ待タザ  
 ルナリ

初メ君主獨裁時代ニ在テ共和政治ヲ設立セシカ爲メニ着手シタル犯罪ヲ死刑ニ處セシトハ  
 須ラク痛歎ス可キナリ何ントナレハ一旦途ニ共和政體ヲ以テ佛國ヲ治ムルニ至リシヲ以テ  
 ナリ  
 勿論犯罪ハ其正シク設立セル君主獨裁政ノ時代ニ方テ自ラ之ヨリ善良ナリト信セシ政體ヲ  
 立テシガ爲メニ暴行ヲ用ヒテ政府ヲ顛覆セントセシ者ノ罪ス可キハ疑ヲ容レザル所ナリト

雖其其實此犯罪ノ非ナルハ其目的及ヒ原由ニ在ラスシテ其用ヒタル手段即チ其暴行ニ在リトス何トナレハ後チ遂ニ其目的ハ正當ニシテ且ツ國民ノ望ニ適ヒシトノ顯ハレタルヲ以テナリ

斯ク國ノ政體上ニ於テ變改アルヲ觀レハ國事犯ニ關シテハ一定不易ノ真理アリサル明カナリトス故ニ此事件ヲ統理スル法律ノ一典則ハ他ナシ現在設立セル政府ヲハ須ラク尊敬ス可ク何人ト雖モ其官憲ヲ侵害スルノ權利ナキヲ以テ正當ノ政府ハ自家ノ特權ヲ妨害スル者ヲ厭却スルヲ得可ク又之ヲ厭却セサル可ラサル事是レナリ政府ハ自家ノ爲メニ正當ノ權利ト正齊ノ壓力ヲ有ス其權利ヲ保護センカ爲メ壓力ヲ用ユルヲ得可ク又之ヲ用ヒサルヲ得サルナリ然レモ政府ハ其敵視スル者ヲ兇犯ノ如ク取扱フ可ラス是交戰二國ノ間ニ於テ勝者ハ怨恨侮慢ヲ以テ敗者ヲ取扱フ可カラサルト何ツ異ナラン

此比較ヲ追フテ論セン外國トノ交戰後ニ至リ勝者ハ敗者ノ再舉襲撃スルヲ妨遏スルノ處置ヲ爲シ以テ敗者ニ償銀ヲ命シ敗者ノ戰艦兵器ヲ奪ヒ又時トシテハ其州郡ヲ奪フ可シト雖モ其國ヲ滅スルニ非ルナリ又内亂ノ後ニ至リ勝者ハ必ス其敵ヲシテ再ヒ己レヲ侵害スルヲ得サラシムル事ニ力ヲ盡ス可キナリ其手段ハ乃チ處刑ニアリトス然レモ是レカ爲メ死刑ノ必要タルニ非ス死刑既ニ必要ナラザレハ死刑ハ公平タルニ非ス且ツ假令ヒ死刑ノ必要タルモ之ヲ以テ其公平ヲ證明スルニ足ラサル可シ

### 第三 死刑ヲ廢ス可キ事ハ法律上ノ條理ニ於テ要スル所ナリ

此第三百三十四條ニ記載スル刑即チ最重ノ諸刑ハ犯罪ノ施行ヲ始ムレハ乃チ之ヲ科スル事第百三十八條ニ於テ之ヲ見ルヘシ凡ソ國事犯罪ハ之ヲ遂ケサル時ノ外罰スルヲ得サルト實ニ國事犯罪固有ノ情實中ノ一ナリトス若シ之ヲ遂クレハ則チ其犯罪ノ勝ヲ得タルモノニシテ勝者ヲシテ既ニ勝者ノ顛覆シタル法律ニ從ハシムルヲ得サル可ク又既ニ其法律ヲ以テ勝者ニ適施スルヲ得ル裁判官ナカル可シ

故ニ國事犯罪ノ罰スルヲ得可キモノハ着手シタル犯罪又ハ遂ケサル犯罪ニ止マルモノトス夫レ然リ而シテ未遂犯罪ヲハ本刑ノ一等或ハ二等ヲ減シ又二等或ハ三等ヲ減シテ以テ之ヲ罰スル法律ニシテ若シ着手ニ止マリ或ハ遂ケサル國事犯罪ヲ罰スルニ死刑ヲ以テスル時ハ不條理ナル法律ト謂フ可シ

此思考ハ國事犯ニ關スル死刑ヲ非ナリトスル論者ノ恐ラクハ未ダ之ヲ開陳セサル所ニシテ人ノ精神ニ殘レル最終ノ惑ヲ解クニ適セリ且ツ此思考ハ本邦ニ於テ充分其力アリトス何トナレハ本案ニ於テハ既遂犯罪ト着手ニ止マリ又ハ行フテ遂ケサル犯罪トノ間ニ大差別ヲ立ツレハナリ

此論ヲ了スルニ臨テ一事ノ附言ス可キアリ外國中多クハ皆ナ他ノ諸件ト同シク國事犯ニ關シテモ佛國ノ例ニ從フテ該犯ニ關スル死刑ヲ廢シタルト是レナリ然ルニ此諸邦中多クハ皆

ナ其政體ハ君主獨裁政(或ハ王國或ハ帝國)ナリトス

佛國ニ於テ此死刑ヲ廢シタルハ第二共和政治ノ時千八百四十八年ニ係レリ第二ノ帝政ニ至  
テモ此廢刑ノ典則ヲ存シタリ第三ノ共和政治ハ國事犯上ノ死刑ヲ復スルモノタルニ非ル  
確定ニシテ寧ロ常事犯ニ付テモ死刑ヲ廢スルニ至ルヘシ此主義ノ意見ハ以太利ニ於ケルカ  
如シ

是ヨリ以下最重ノ國事犯罪ヲ記載セル第三百三十四條ヲ詳細ニ解明ス可シ此犯罪ハ天皇ノ主  
權ニ對シテ企テタルモノニシテ本法ニ於テ其目四條ヲ擧ケリ但シ本法ニ記載セル其刑ハ皆  
ナ同一タリト雖モ其罪ノ輕重同シキニ非ス是レ其刑ノ輕重ヲ立テントスレハ最終ノ場合ニ  
於テ輕キニ過ルノ刑ニ至ルヲ以テナリ

此第一ノ犯罪ハ皇統ヲ顛覆セントスルモノナリ

本邦ノ皇統ハ連綿二千五百有餘年ニ至レルモノニシテ今世ニ於ケルノミナラス又史乘上ニ  
於テ全世界中ノ最モ舊キモノタルヤ必セリ叛逆ヲ謀テ以テ將軍ノ權ヲ恢復セントスル犯罪  
ハ此第一ノ場合ニ入ラサルベシ何トナレハ往昔諸將軍ノ時代ニ於テ既ニ例アリシ如ク皇統  
ヲハ必ス尊敬ス可クレバナリ此犯罪ハ後ニ記述スル第四ノ場合ニ屬スベシ  
故ニ此第一ノ犯罪ハ必ス本朝ヲ顛覆シテ新朝ヲ以テ之ニ代ントスルモノタルカ(是レ必ス有  
ルベカラサル事ナリ)或ハ君主獨裁政體ヲ廢シテ共和政治ヲ以テ之ニ代ントスルモノタリト

想像スルヲ要ス此危險モ亦同シク有ラサルナリト雖モ法律上ニ於テハ之ヲ遏制スルノ手段  
ト若シ其事アレハ之ヲ壓却スルヲ得ルノ手段トナカル可カラサルナリ

又此第二ノ犯罪ハ皇統ヲバ尊敬スベシト雖モ皇嗣ノ順序ヲ紊亂シテ以テ皇統ヲ衰ヘシメン  
トスルモノタルベシ禪讓ノ正シキ事ハ實ニ本邦皇統連綿タル原由中ノ一ナリトス歐羅巴諸  
邦ニ於テ多クハ立君獨裁政ノ亡ル前ニ先ワ禪位ノ紊亂ニ依テ衰ヘタリシト史乘家ノ普ク知  
ル所ナリ

故ニ即位ノ典則ヲ蔑如スルニ至レハ則チ帝位ヲ視視スルノ非望百出シ皇族ハ都テ篡位ヲ希  
望シ内亂其國ヲ壞亂シテ皇統全ク泯滅スルヲナキヲ得ズ何トナレバ一名將其軍隊中ニ黨派  
ヲ編成シテ遂ニ帝位ヲ踐ムニ至ルヲ得レバナリ是レ羅馬帝國ノ沿革ニシテ又其零落沿革ナ  
リトス

第三百三十四條ニ記載セル第三ノ犯罪ハ本邦領地ノ一部分ヲ押領セントスルモノニシテ畢竟  
邦土ノ此部分ニ就テ國家ヲ顛覆スルモノト謂フ可シ何トナレハ此部分ヲ以テ他ノ管轄ニ屬  
スルモノナレハナリ例ヘハ琉球島以テ全ク本邦ノ他部ト同シキ政治上ノ制度ト爲シタル後  
ニ至リ之ヲ副王ノ管轄ニ復センカ爲メ該島ニ於テ叛逆起リシ時ハ此場合ニ至ル可シ  
第四ノ犯罪ハ稍々輕キモノニシテ皇統皇嗣ノ順序及ヒ邦土ヲバ必ス尊敬シテ非望ヲ抱ク  
ナカルベシト雖モ政府ノ首長トシテ天皇ノ有スル威權ヲ滅殺セストシ例ヘバ民選議院ヲ設

立シテ以テ天皇ノ權ヲ特權ノ一部ヲ歸セントスルモノ、如シ  
 既ニ數年來本邦ニ於テ民選議院ノ制ヲ移入セントスル説ノ顯然言論ニ發シタル一人ノ知ル  
 所ナリ且ツ政府自カラ民人ノ幾何クカ國事ノ辨理ニ與カルヲ拒マサルヲ預見セシメタリ  
 加之政府ニ於テ既ニ地方民會ノ設立ヲ允許シタリ然リト雖其權限ヲ擴充シテ之ヲ議政局  
 即チ所謂民選議院ニ變スルコトハ時節ト機會トノ問題ニシテ之ヲ裁決スルハ特リ政府ニ在  
 リ之ヲ鑒定スルハ獨リ天皇ニ屬スヘシ日本ノ憲法(明文ナケレモ明カナル)ニ依レハ天皇ハ政  
 略施治ノ事ニ於テ主權ヲ有ス唯法律ノ外ニ其制限アルナシ而シテ此法律モ亦天皇ノ特リ製  
 スル所ナリ故ニ最モ善良ナル改革ダリトモ天皇ノ意ニ非レハ爲スヲ得ヘカラス天皇ニ迫テ  
 改革ヲ爲サシメントスルノ舉ハ皆其主權ヲ害スルモノナリ但シ天皇ハ屢々國民ノ幸福ヲ計  
 リ輿論ニ從フノ意アルヲ示シ玉ヘリ故ニ時ト經驗トニヨリテ必要ナルヲ證スヘキノ改革  
 ハ總テ天皇ヨリ出テサルヘカラス近時西南ノ乱ハ此第四種ニ入ルヘキモノトス何トナレハ  
 其乱ヤ目的ヲ朋言セスト雖皇統ヲ顛覆セントスルモノニ非ルカ如シ又皇國ノ一部ヲ侵奪  
 スルヲ欲スルモノニ非ルカ如シ唯腕力ニ訴ヘテ天皇ノ權利ヲ滅却スヘキ改革ヲ爲スヲ欲ス  
 ルモノ、如キヲ以テナリ

或ハ云ハン其目的ハ更ニ之ヨリ輕キモノニシテ諸卿若クハ其數名ヲ免黜スルニ在リシナラ  
 ント然リト雖其編密ニ言ヘハ天皇ニ迫テ其宰相ノ一個若クハ數個ヲ免黜セシメントスルノ  
 反ハ即チ天皇ノ權利ヲ滅却セントスルモノナリ然レモ此場合ハ別ニ次條ノ豫定スル所ニシ  
 テ其刑ハ一等ヲ輕クセリ

西南ノ乱ノ如ク謀反人其目的ヲ明言セサル時ハ法律ノ實行ニ於テ大ナル困難ヲ現出スヘシ  
 且ツ謀反人ハ其目的ヲ隱匿シ又ハ詐テ小ナル目的ヲ示スコトヲ務ムルナキヲ保セス故ニ之  
 ヲ判決スルハ其明言セル目的ニ基ツクヘカラス唯其眞ノ意志ニ基ツクヘシ爭鬪ノ終リシ後  
 其意志ヲ知ルハ常ニ爲シ得ヘキヲ以テナリ

大君政府ヲ再興セントスル者アラハ亦第四種ニ入ルヘキナリ  
 本條ニ豫定セル四種ノ國事犯ニ付キ緊要ノ註解ヲ要スルコトアリ何ソヤ國事犯ノ者若シ天皇  
 ノ身體ニ對シテ或ル罪ヲ企テタル時ハ其行爲タル全ク性質ヲ變シテ第一章ニ入ルヘキト是  
 レナリ

例ヘハ國事犯ヲ遂ケンカ爲メニ天皇ノ生命若クハ自由ヲ危クスル時其犯罪ハ國事犯ト爲ス  
 ヲ得ス故ニ第一章ノ刑ノ第三百三十四條ノ刑ヨリ重キモノハ總テ該章ノ刑ヲ科ス此場合ニ於  
 テ手段ハ目的ヨリ罪ノ重キモノナレハナリ  
 之ニ反シテ犯罪ノ目的タル十分國事犯ニ入ルヘキモノニシテ内乱若クハ一揆ヲ其手段トセ  
 ル時ハ假令其犯人謀殺ノ如キ罪ヲ犯ストモ尙ホ國事犯ヲ以テ論ス可シ實ニ暴行手段ハ國  
 事犯ト分離スルヲ得ス即チ之ヲ加重スルノ理由ニ非スシテ之ヲ構成スルノ理由ナレハナリ

國事犯ニ用非タル手段ノ刑罰ヲ變スルハ其手段惡ム可クシテ且ツ國事犯ニ無用ナルヲ要スヘシ後條俘虜ノ謀殺放火等ヲ常事犯トシテ罰スルハ即チ是レナリ(第四百四十四條)

最モ重キ四種ノ國事犯ヲ掲ケタル後ニ立法者ハ其刑ヲ示ス其刑ハ犯人加功ノ度ニ隨テ相異レリ然レモ法律ハ其細目ニ涉ルヲ得ザルガ故ニ唯其犯人チ三等ニ分テルノミ

第一 謀反ヲ教唆醸成シタル者及ヒ大將ノ職務ヲ行ヒタル者

謀反人數州ヲ略奪セル時ノ如キハ數個ノ大將アルベシ此ノ如キ時ハ他ノ指令官ノ命ヲ受ケズシテ動クヲ得ヘキ指令官ハ皆大將ヲ以テ論シ最重ノ刑即チ無期流刑(其性質ハ第一篇ニ見ユ)ヲ以テ之ヲ罰スベキナリ

第二 下等ノ指令ヲ爲シ或ハ威權アル職務ヲ爲シタル者

此種類ノ内ニ入ル可キ犯人ハ甚ク多カルベシ其刑ハ前刑ヨリ一等ヲ輕クス

且ツ第一第二兩類ノ犯人ニハ罰金ヲ科スルナリ本法重罪刑ニ罰金ヲ併加スルト少シト雖モ本條ニ於テハ此事アリ何トナレハ謀反ノ大將ハ其以前ノ地位又ハ其身代ノ爲メニ勢威アルモノナルベク且ツ其徒ハ其財ヲ散ラシテ大舉ノ手段ニ用ルヲアルベキガ故ニ其財産ニ付テ之ヲ罰スルハ理ノ當然ニシテ且ツ有益ナル可キヲ以テナリ

第三種ノ犯人ハ一揆ノ兵卒ト名ツク可キ者ノ外ニ包括スルモノナシ此徒ハ何ノ威權ヲモ振ハズ唯國事犯者ニ從ヒタルノミ勿論威權セラレタルニ非ス好シテ加祖シタルモノヲ言フナ

リ其徒若シ脅迫威制ノ故ヲ以テ犯罪ニ與ミシタリト言ハント欲スレバ之ヲ證明セサルヲ得ス法官ハ豫先ニ其行爲ヲ自由ナルモノト認定スルモノナレバナリ然リト雖モ其徒ハ教唆者又ハ將官ニ比スレハ道德上ノ罪輕ク且ツ重ニ社會ノ危難ヲ惹キ起シタルハ其徒ノ罪ニ非ス故ニ教唆者及將官ヨリ輕キ刑ヲ以テ罰スルハ甚ク當レリ故ニ其刑ハ更ニ一等ヲ輕クシ十六年以上二十年以下ノ重禁獄ニ處シ罰金ヲ科スルトナシ

以上即チ國事犯罪中最モ重キ者ノ刑罪ナリ

第三百三十八條ニ於テハ其罪ノ唯着手ニ止マリ或ハ遂ケサルモノニ係ルトチ明記ス前ニ記シタルガ如ク國事犯罪ニ實ニ罰ス可キハ此場合ノ外ニ又アルヲ得ザレハナリ

○第三百三十五條 中央官憲(院省使廳)若クハ地方官憲(府縣)ノ一官署又ハ數官署ヲ傾覆若シクハ變更シ又ハ其長官ヲ黜除シ及ヒ其官憲ニ於テ爲シタル一個又ハ數個ノ政策上(若クハ施政上)ノ處分ヲ廢シ若クハ中止セシムルノ目的ノミヲ以テ内亂謀叛若クハ一揆ヲ起シタル者ハ前條ノ刑ニ照シ同條ニ掲載セル區別ニ遵フテ各々一等ヲ減ス

純粹ノ國事犯罪ヲ加重スルモノ其用ヒタル手段ヨリモ寧ロ其目的ニ在ルト既ニ前條ニ於テ之ヲ説明シタリ本條犯罪ノ手段ハ前條ニ記載シタル場合ニ於ケルト同一ニシテ内亂謀叛ヲ起セシモノナリト雖モ其目的ハ道德上ヨリ論スルモ又社會公益上ヨリ論スルモ前條ニ比スレハ輕キモノナリ是レ其目的ハ既ニ帝權ヲ妨害セントスルニ非ズ帝權ノ次ニ位スル中央官

憲ノ一ヲ妨害セントスルモノタレハナリ且ツ本法地方官憲ヲ以テ中央官憲ト同等ニ處スルハ恐ラシク嚴肅ニ過キヤ

右ニ論スル如ク犯罪ノ手段ヨリモ最モ其目的ヲ熟思ス可キモノタリト言ヘモ是レ其手段ヲハ措テ問ハザルヲ得ルト謂フニ非ス必ス一揆ヲ以テ其手段ト爲セシイテ要ス故ニ其手段若シ兵器ヲ執ラズシテ唯多人數ノ紛擾集合ニアリシカ又ハ一揆ヲ煽動スル著書或ハ演説ヲ以テシタリシ時ハ本條ハ適用スベキニ非ス出版若クハ演説上ノ輕罪ニ關スル別段ノ法律ニ據ルノ外此罪事ヲ罰スルヲ得サルベシ

本條ニ記載セル場合ハ頗ル衆多ナルヲ以テ國安ヲ妨害スベキ諸種ノ謀叛着手ニ對シテ十分ニ國家ヲ保護スルニ足ルベシ即チ左ノ如シ

- 第一 中央若クハ地方官憲ヲ傾覆スル事
- 第二 其官憲ヲ變更スル事即チ其組織若クハ其權限ヲ變更スル事
- 第三 其長官ヲ黜除スル事はレ諸省ノ長官縣令及ヒ裁判所長ヲ保護スルモノナリ
- 第四 勅憲ヲ變スルノ意ナクシテ政策上若クハ施政上ノ處分ヲ廢シ若クハ中止セシムル事

犯人謀叛加功ノ度ニ關シテ第三百三十四條ニ掲載シタル區別ヲハ須ラク本條ニ於テモ之ヲ爲スベキナリ

本條犯人ノ各等ニ付テ其刑ハ皆ナ前條ノ刑ヨリモ一等輕キ者トス故ニ其教唆者及ヒ首因ハ有期ノ流刑ニ處シ併セテ百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ科ス其他威權アル職務ヲ行フタル諸人ハ重禁獄ニ處シ罰金ヲ科セス又此犯罪ノ尋常ノ加功人ハ輕禁獄ニ處スルナリ  
其他本法ニ於テ前條ノ刑ヨリ一等ヲ減シテ以テ前條ノ刑ニ從フタル所以ノモノハ唯其文ヲ簡略ニスル爲メナル工ヲ宜ク注意スルニ其刑ヲ逐次減輕シタルモノト見ル可カラズ是レ犯罪ノ或ハ情狀ニ因テ逐次其刑ヲ減輕スルアルカ如キニ非ルナリ本條ノ犯罪タルヤ第三百三十四條ノ犯罪ヲ變更シタルモノニ非スシテ全ク殊別ノモノナリトス故ニ本條ノ刑タルヤ第三百三十四條ノ刑ヲ減輕シタルモノニ非スシテ此犯罪當然ノ本刑ナリトス此論益ナキニ非ルナリ何トナレハ若シ本條ニ於テ科スル有期ノ流刑ニ一等ヲ加フ可キアル時ハ第三百三十四條ニ於テ本刑ニ加ヘテ科スル所ノ罰金ヲ科セスシテ無期ノ流刑ニ處ス可ケレハナリ又若シ重禁獄ニ一等ヲ加フ可キ時ハ書金ヲ科セスシテ唯有利ノ流刑ニ處スルヲ得ヘシ是レ第三百三十四條ノ刑ニ關セザレハナリ

○第三百三十六條 立法部若クハ行政部ノ諸官衙及ヒ議會ニ對シ若クハ中央權或ハ地方權ニ屬スル諸裁判所ニ對シテ其集會議事ヲ妨碍シ若クハ強クテ其意ニ反シテ議セシムルヲ目的トシテ一揆ヲ起シタル者モ亦同シク第三百三十四條ニ記載セル刑ニ照シ其區別ニ遵フテ各一等ヲ減ス

此諸官衙ノ長官ニ對シテ其妨礙又ハ強迫ヲ爲シタル者モ同刑ニ處ス

本條ハ更ニ前條ヲ適用シタルノミ但シ之ヲ前條ニ合併セサル所以ノモノハ長文ニ過ルヲ避ケシカ爲メナリ  
故ニ其刑モ同刑ニシテ犯者ガ妨害ヲ加ヘントシタル官憲モ亦同一ナリトス唯其一揆ヲ起シタル目的ハ此官憲ヲ傾覆若クハ變更スルノ所爲ニ非スシテ唯其自由ヲ妨害セントスル企ヲ爲シタルノミ故ニ到底此罪事ハ前條ヨリモ僅カニ輕キモノナルベシト雖モ本條ノ刑ハ有期ノモノニシテ分割スルヲ得ベキモノナルガ故ニ裁判所ニ於テ必ス其刑ノ分數及ヒ最下限ヲ用ヒテ以テ犯罪ノ差等ヲ酌量スルヲ得ベシ

○第三百三十七條 前三條ニ記載シタル目的ヲ以テ威力又ハ偽計ヲ用ヒ左ノ諸件ヲ犯シタル

者ハ是レガ爲メ戰闘オカリシト雖モ前三條ニ記載シタル刑ニ處ス  
第一 陸海軍ノ武器彈藥裝具其他陸海軍備ノ物品ヲ劫掠シタル事  
第二 陸海軍ノ武庫軍營又ハ政府ノ船舶若クハ政府ニテ用ユル船舶ヲ劫掠シタル事  
第三 同上ノ手段ヲ用ヒ屯集運動ヲ妨ケ若クハ一揆ヲ豫防シ又ハ鎮壓スル  
爲メニ送リタル文書命令ノ送達人ノ通行ヲ妨ケタル事  
本條ハ此犯罪ノ手段タル謀叛及ヒ一揆ト云ヘルニ語ヲ擴メテ解釋シタルモノ、如シ

若シ戰闘アリシ時ハ此二語ノ解釋ヲ要スルニ及ハス是レ則チ内亂タレハナリ

然レモ其他ノ所爲ニシテ極メテ重キヲ以テ本法之ヲ戰闘ト同様ニ危險ノ手段ト看做スルモノアリ何下ナレハ其所爲ハ叛逆人ノ爲メ更ニ戰闘ヲ確實ナラシメテ其利ヲ得セシメントスルヲ以テナリ即チ本條ニ掲クヘ初ノ二所爲ハ叛逆人ニ兵器及ヒ軍需ヲ得セシメ其第三ノ所爲ハ鎮撫兵ノ抗拒ヲ妨害スルモノナリ

又其第三項ノ命令及ヒ文書ノ事ニ關シテ注意セシム可キモノアリ即チ本法ハ此命令文書ノ送達人ノ通所ヲ妨ケタル事ニ付テ之ヲ適用スルノミニシテ文書ノミノ通行ヲ妨ケタル事ニ付テ之ヲ適用スルニ非ルト是レナリ故ニ電信線ヲ絶チタル罪事ハ他章ニ於テ更ニ輕ク罰スル所ニシテ本條ニハ入ラサルナリ其他送達人ノ手ヨリ命令書ヲ奪フタル罪事ト雖モ其送達人ヲ捕縛セサルニ於テハ亦然リ  
本案ノ印刷シタル明文ニハ送達人ト文書トノ間ニ區別ヲ立テスト雖モ起草者ハ既ニ其時ヨリ此區別ヲ爲ス可キヲ發言シタリ  
此區別ノ旨趣ヲ證明センニハ電信線ヲ絶チタル事ノミハ送達人ヲ捕縛シタル事ニ比スレハ其犯罪決心ノ果敢少キヲ考テ足レリ故ニ若シ電信線ヲ絶チタル事ノミヲ以テ犯人ニ歸スヘキ罪事ナリトモハ之ニ由テ之ヲ謀叛又ハ一揆ト見做シ難シ

○第三百三十八條 前四條記載シタル重罪ハ其施行ヲ始メタル時ニ於テ乃チ同條ニ記載セル



刑ヲ以テ之ヲ罰ス  
 本條ハ大ニ緊要ナルモノトス何トナレハ國事犯上ノ死刑ニ對シテ最モ堅牢ナル論證ヲ供スルモノトシ本條ニアルヲ以テナリ  
 此件ニ付テハ既ニ述ヘタルカ如ク凡ソ國事犯特ニ其最モ重キ犯罪(第三百二十四條)ハ其施行ヲ始メタルノミチ以テ乃チ全刑ヲ科ス可キト國事犯ノ性質ニ於テ要スル所ナリ若シ法律上ニ於テ遂ケタル國事犯罪ノ外罪セサル時ニ決シテ之ヲ適用ス可カラサルト明カナリ何トナレハ其既遂犯罪ハ即チ其謀叛ノ勝ヲ得タルモノニシテ定設ノ諸官廳ヲ顛覆シタルモノダレハナリ  
 是故ニ法律上ニ於テ其犯罪施行ノ豫備其着手シタル該罪若クハ其遂ケサル犯罪ヲ以テ乃チ犯罪ナリトシテ之ヲ罰スニキナリ  
 都テ外國ノ法ニ於テハ皆チ此國事犯ノ常事犯ト異ナル所ヲ律條ニ明記スルヲ注意シタリ然レトモ此事ヲ以テ國事犯ノ死刑ニ對シテ引用スニキ論理ヲ破ルベカラス此事タルヤ犯罪ノ着手ニ付テ必ズ死刑ヲ言渡スモノト謂フベシ故ニ犯罪着手ノ場合ニ於テ其刑ヲ減輕スル所ノ法制ニ在テ是レ甚ク不條理ニシテ不正義ナルベキナリ  
 ○第三百二十九條 兵器彈藥軍資糧食ヲ集メ以テ前ニ記シタル重罪ノ豫備ナシタル者ハ人ノ身分ニ應ジ第三百三十四條第三百三十五條及第三百三十六條ノ刑ニ各一等ヲ減ス

其他ノ豫備行為ハ二等ヲ減ス  
 若シ第三百三十七條ニ武庫劫掠ノ性質ヲ明言セザレバ此行為モ亦犯罪着手ニ入ラスシテ唯内乱ノ豫備行為ト看做サルベシ實ニ第一編第九章ニモ記シタルカ如ク豫備行為ト犯罪着手トニ差別スルハ頗ル難シ然レトモ立法者ハ第三百三十七條ノ行為ヲ犯罪着手ト看做スニキ程ニ重大ナリト考ヘタリ若シ此場合ヲ疑テ犯罪ノ着手トセザレハ議會ヲ劫カス者ヲモ疑ハサルヲ得ス又人ニ害ヲ爲サスシテ周圍ノ諸地ヲ占領セシ者ヲモ疑ハサルヲ得然レトモ是等ハ決シテ豫備ノ行為ト看做スヲ得サルモノナリ  
 之ニ反シテ本條ニ豫定シタル行為ノ如キハ現在ノ事物ニ對シテ何ノ企ヲモ爲サルモノナレハ純粹ノ豫備行為ナリトス此行為ハ別個ニ企ツルヲ得ルノ行為ニシテ其以後ノ目的ニヨリテ僅ニ犯罪ノ性質ヲ有スルモノナリ  
 且ツ豫備行為ト犯罪着手トノ區別ヲ知ルニ一兆候アリ即チ左ノ如ク假リニ或行為ヲ妨礙ニ逢ハスシテ尙ホ繼々ト想像セヨ犯罪ヲ遂クルニ至ルヘキモノハ犯罪着手ナリ之ニ反シテ犯罪ノ施行トナラスシテ尙ホ繼々ト得ルモノハ豫備ノ行為ナリ  
 第一編ニ云ク豫備ノ行為ハ通例之ヲ罰セス何トナレハ其行為タル曖昧ノ性質ヲ有スルモノニシテ其目的ヲ明カニセサルカ故ナリ然レトモ國事犯ニ付キテハ別例アリト其別例ハ即チ本條ヲ指ス

此別例ヲ設クル所以ハ本條ノ場合ノ如キ目的ヲ疑フヲ要セサルニ由レリ兵隊ヲ募集シ兵器軍資ヲ豫備スル等ハ正シキ目的ヲ有セサルコト明カナレハナリ

糧食ヲ集ムル事ノ如キハ他ノ疑フヘギ行爲ト合シテ後ニ罪スヘキ性質ヲ有スルヲ得若シ此事ヲケレハ其行爲ハ正當ナル交易ノ行爲ト區別スルヲ得ス故ニ本條中此豫備行爲ヲ削ルトモ更ニ不都合ナカルヘシ本條第一項ニ假定シタル豫備行爲ハ重大ナルヲ以テ立法者ハ一等以上減輕スルヲ得スト考ヘタリ

第二項ハ前項ニ豫定セサル他ノ豫備行爲ヲ悉ク包含スルモノニシテ其刑ハ本刑ヨリ二等ヲ減輕ス

右ノ一等或ハ二等ヲ減輕スルノ基礎トナル所ノ刑ハ第三百三十四條第三百三十五條及第三百三十六條ニ記シタル本刑ナリ而シテ犯罪ニ加功セシ程度ニ從テ差異ヲナスコトモ亦該條ニ倣フヘシ豫備ノ行爲ニ方リテモ教唆者ト上下ノ指令官ト指令ヲ爲サスシテ之ニ與シタル者トノ區別アルヲ得ヘケレハナリ

○第四百十條 前三條ニ記シタル重罪ヲ行ハント欲シテ唯二人以上同謀シタルニ止マル時ハ該條ノ刑ヨリ三等ヲ減ス

同謀セシトテ發言シテ他人承諾ヲ得サル時ハ本刑ニ四等ヲ減ス

道德ノ害及社會ノ害ノ減スルニ從テ階級ヲ逐テ刑ヲ減スルコトハ既ニ前章ニモ之ヲ見タリ

前章ニ豫定シタル罪ハ國事犯ノ性質ヲ帶ヒスト雖モ同謀ノ手段ニヨリテ豫備スルヲ得ルカ故ニ犯罪ニ階級アルヲ以テ刑罰ニモ階級ヲ設クルヲ要シタリキ

本條第一項ハ豫備ノ行爲ヲ爲サスシテ陰謀ノミヲ醸シタル者ヲ罰ス法律ヲ以テ重罪ノ決意ヲ罰スルハ例外ノ事ナリト雖モ本條ノ如キハ衆人ノ決意ナルヲ以テ社會ノ危難頗ル大ナレハナリ

第二項 陰謀ヲ發言スルモ他人ノ同意ヲ得サリシテ以テ陰謀ヲ醸シタルニ非ス然レモ別人ニ此事ヲ發言セハ同意ヲ得ルコトアランモ量リカダシ故ニ社會ノ危難ナシト謂フヲ得ス

○第四百十一條 教唆者ニ非ス又指令官或ハ威權アル職務ヲ行ハサルモノ直接ニ犯罪執行ニ加功セスシテ自ラ徒黨ヲ脱シタル時ハ全ク宥恕スヘキモノトシテ其罪ヲ論セス

威權アル職務ヲ行ヒタル者ナリトモ未ダ犯罪ニ着手セス又第三百三十七條ノ罪業ヲモ爲サスシテ自ラ縛ニ就キテ陰謀ヲ告ケ巨魁ヲ指名シタル時ハ亦其罪ヲ論セス

但シ前二項ノ犯者ハ二年以上五年以下ノ監視ニ付ス

本條全宥恕ヲ與フルコト前章ニ比スレハ更ニ其區域ヲ廣クス犯罪ノ着手(第三百三十八條ニ從ヒ全ク遂ケタル犯罪ト看做スヘキ)ニ至ルモ唯豫備行爲ニ加功シタルノミニテ犯罪執行ニ加功セサル者自ラ好シテ其黨ヲ脱スレハ(且ツ指揮官ヲ爲サ、レハ)刑ヲ科セズ之ニ加フルニ法律ハ其自ラ縛ニ就クヲ要セズ又其陰謀ヲ告グルヲ要セス何トナレハ戰爭既ニ始マリ政府之

ヲ知リタル場合ナレハナリ  
 下等ノ指令官ヲ行ハタル犯人ハ犯罪ニ着手セズ第三百三十七條ノ罪ヲ犯サバ内ニ降伏シタルニ非レハ全宥恕ヲ與ヘズ故ニ此場合ニ於テハ唯豫備ノ行爲ヲナシ或ハ陰謀ヲ醸シタルノミナレバ此陰謀ヲ告ケ巨魁ヲ指名スルヲ要シ又其自ラ縛ニ就クヲ要ス  
 此全宥恕ヲ得タル犯人ハ監視ノ刑ヲ免ル、ヲ得ズ尤此監視ヲ宣告スルハ裁判所ノ權内ニシテ法律必ス宣告スルモノニ非ス  
 自ラ犯罪ヲ中止シテ之ヲ政府ニ知ラシメタル者ニ此ノ如キ恩典ヲ與フルコトハ決シテ驚クベキニ非ス此徒ハ社會ニ對シテ大ナル功勞ヲナシタリ而シテ立法者ハ免罪ヲ約シテ以テ之ヲ勸勵スルナリ  
 ○第四百十二條 内乱ノ教唆者及ヒ首魁ト雖モ其事ノ施行ヲ始メサル前且ツ第三百三十七條ニ記載シタル所爲ヲ毫モ盡サバ前ニ自カラ脱從シテ縛ニ就キ其重立タル共犯者ヲ告知シタル時ハ豫備ノ所爲及ヒ陰謀ニ付キ第三百三十九條及ビ第四百十條ニ記載シタル刑ニ照シテ各々三等ヲ減ス  
 内乱ノ教唆者及ヒ首魁ハ決シテ刑ノ免除ヲ受ルコトヲ得ス其最モ恩典アル場合ハ是等ノ者其事ヲ施行ヲ始メサル前ニ自カラ縛ニ就キ以テ其陰謀及ヒ重立タル共犯者ヲ告知シタル場合はレナリ此時ニ在テハ第三百三十九條及ビ第四百十條ニ記載セル刑ニ照シテ其二等ヲ減セラル

ノ得ルナリ而シテ此刑ハ豫備ノ所爲及ヒ陰謀ニ付テ掲載セルモノニシテ既ニ第三百三十四條第三百三十五條及ヒ第三百三十六條ノ本刑ヨリ數等ヲ減シタル刑ナリトス  
 ○第四百十五條 凡ソ内乱ノ諸首魁ハ其叛逆ノ結局ニ至ラサル前ニ自ラ縛ニ就キタル時ハ各々其處セラル可キ本條ノ刑ニ照シテ一等ヲ減ス  
 本法ノ主旨ハ内乱ノ諸首魁ヲシテ其叛逆ノ結局ニ至ラサル前ニ自ラ降服セシムルヲ獎勵スルノ有益ナルヲ見タリ故ニ自レ即チ本條ニ記載セル一等ノ減輕其諸首魁中ノ者ヲシテ其犯罪ヲ固執セサズシムルヲ得可キ  
 ○第四百十四條 凡ソ犯人第三百三十四條第三百三十五條及ヒ第三百三十六條ニ記載シタル犯罪ヲ施行スルニ至ランガ爲メ人民ノ財産及ヒ身體ニ對シテ通常ノ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ常律ノ刑ニ從テ處斷ス  
 何レノ場合ト雖モ軍使俘虜又ハ質ト爲リタル人其他戰爭ヲ爲サバル者ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ス  
 凡ソ歐羅巴中國事犯ニ付テ死刑ヲ廢シタル諸邦ニ於テハ叛逆中ニ犯シタル通常ノ重罪ニ關シテ重要ナル議論ヲ生セリ抑々常事犯罪ヲ以テ國事犯罪中ニ入ラシムルノ難キハ常事犯罪ヲ國事犯罪ヨリ分離スルノ難キニ同シキナリ千八百七十一年巴里ニ於テ起リタル恐ルベキ叛逆ハ俘虜及ヒ質ト爲リタル人ヲ殺シ公共ノ建物ヲ燒キ又其叛逆ニ因テ爲セシトハ雖モ内

乱ノ所爲ニ非サル却掠ヲ爲スニ至リタリ

此罪事ヲ軍法會議ノ裁判ニ付シタル上ニテ遂ニ之ヲ死刑ニ處スルニ至リ其過半ハ裁判所ヘ  
欠席ノ儘ニテ死刑ヲ言渡サレタリ而シテ其處刑人中多クハ瑞西、白耳義へ脱走シ且ツ英吉利  
ニスラ脱走シタリ當時佛政府於テハ此罪人ノ引渡ヲ要求セサリシ然リト雖モ若シ之ヲ要  
求セザルモ恐クハ拒マル可シ然レモ最モ事理ニ通曉シタル法學師輩ハ常ニ此常律上ノ重罪ハ  
其憎ムヘキ罪質ヲ失フテ叛逆ノ所爲ニ混セラル、ヲ得サルモノト思考シタリ

同上ノ罪事ハ本邦ニ於テモ巴里ノ叛逆ニ比スレハ僅少ナリト雖モ近時ノ内乱中ニ生シタリ  
故ニ本按ニ於テハ大ニ注意シテ之ヲ國事犯外ニ置キ以テ其眞ノ性質ヲ之ニ遺シタリ即チ第  
百四十四條ニ於テ明文ヲ以テ之ヲ知ラシム

本條第一項ハ一般ノ原則ヲ記載シ第二項ハ死刑ニ處スルニ至ル可キ至重ノ場合ニ於テ此原  
則ノ適用ヲ記載セリ本條ニ論スル所ノ殺人罪ハ其謀殺タルノ直接證據ナキ時ト雖モ死刑ヲ  
以テ罰スルナリ何トナレハ此罪ハ他ノ重罪(國事犯罪)ト共ニ犯セルモノニシテ他ノ重罪ヲ遂  
ルヲ容易ナラシムルヲ以テ目的トス可ケレハナリ(第三百三十條參看)

本法ニ於テ此兇犯ノ國事犯タル性質ヲ除去スル所以ヲ明示セリ則チ其犯罪内乱ノ殆ント已  
ムヲ得ザル關係タルニアザサルコ、故ニ戰爭ヲ爲サ、ル人ヲ害シタルト是レナリ本法其三例  
ヲ舉ゲリ即チ軍使(政府)又ハ正當兵ヨリ陰謀ヲ止メシムルヲ謀ランカ爲メニ送リタル人ヲ云

フヲ殺シタル者、戰鬪ヲ息メタル俘虜ヲ殺シタリ者及ヒ質ト爲リタル人即チ叛逆人カ正當官  
憲ノ嚴酷ニ對スル憑據ト爲シ又ハ正當官憲ヲ恐怖セシムルノ手段トシテ奪フタル多少著名  
ナル人ヲ殺シタル者はレナリ此  
放火ニ關シテモ亦同上ノ區別ヲ爲ス可キナリ即チ戰爭ヲ始メタルニ因テ已ムヲ得ス放火セ  
シカ否ヤチ區別ス可キナリ

其放火若シ正當兵ノ根據トシテ叛逆兵ヲ攻撃シ得ベキ建造物ヲ正當兵ノ占有スルヲ妨ケン  
カ爲メ若クハ正當兵ノ行軍ヲ阻遏センカ爲メニ之ヲ爲シタル時ハ内乱ノ罪事中ニ屬ス可シ  
故ニ其放火ハ如何ニ悲哀ス可キ事ニモセヨ主タル罪事ノ一部分トシテ罰スルノ外之ヲ罰ス  
可キニ非ルナリ

○第四百十五條 預シメ指定シタル一人若クハ數人或ハ衆人ヲ殺シ又ハ私有ノ財産加之第  
百三十七條ニ示シタル財産ニ非サル公ケノ財産ヲ奪掠若クハ毀壞スルノ目的ヲ以テ暴動  
ヲ爲シタル者ハ常律上ノ刑ヲ以テ之ニ適用ス

第三百三十八條ヨリ第四百十二條迄ノ諸規則ヲ以テ本條ニ記スル所ノ重罪ニ適用ス可シ  
本條ハ性質ニヨリテ常事犯タル罪ノ國事犯罪ニ附加シタルモノヲ論スルニ非ス性質并ニ目  
的ニ依テ常律上ニ屬スル所ノ犯罪ヲ論スルナリ

其暴動ハ尙ホ國事犯ノ手段タルニ似タリト雖モ其目的ハ既ニ國事犯タルニ非ス是レ其目的

ハ諸官衙ヲ傾覆若クハ變更スル事ニ關スル非スシテ諸族ノ人民相互ニ恨ヲ雪キ若シハ懲ヲ復スル事ニ關スレハナリ歐洲諸邦ノ史乘ニ於テモ屢々此凶例ヲ載セタリ就中佛國ニ在テハ諸時代ニ於テ當時貴人ノ特權ヲ怨テ以テ貴人ヲ殺シ其財産ヲ燒キタル事アリキ又荒凶ノ時ニ方テ飢饉ニ迫リ貧苦ニ依テ惑ハザレタル人民貪慾ナル投機商ノ穀類ヲ買占メシモノト思ヒシ時屢々其財産ヲ奪掠若クハ毀壞セシテアリキ

此憎ム可キ所爲ハ人民ノ愚昧ナルト之ヲ煽動シタル者ノ罪トニ由ルト云フヲ得ベシト雖也然レ此所爲ハ國事犯罪ノ宥恕ヲ受ク可カラズ故ニ常律ヲ以テ之ヲ論スルナリ佛國ニ於テハ此犯罪ハ刑法第九十一條ニ記スル所ニシテ之ヲ國事犯ト看做シ以テ之ヲ國事犯ト稱シテ下爲シテ千八百四十八年ニ布令シタル死刑ノ廢止ニ加ハラシメタリ然レ此寬典ナル決定ハ該犯罪ノ性質ニ基クヨリモ最初國事犯ト常事犯トノ別ナク共ニ死刑ヲ言渡セシテ以テ此ニ犯罪ヲ分離スルヲ要セサリシ時ノ錯雜ニ基クテ大ナリトス故ニ第三篇第一章及第二章ニ記載セル重罪及ヒ輕罪ハ國事犯タルヲ決スルニ至リタリ本邦刑法ノ起草者ハ茲ニマテ至ルヲ要スルト思ハサリキ是レ賢良ナル所爲トスベキナリ其他一種ノ重罪アリ此重罪ハ其性質國事犯タルカ若クハ常事犯タルカニ至テ疑惑ヲ生シ得可キモノニシテ本案ニ於テハ論セザル所ナリ則チ法教ニ惑亂シタルヨリ起リタル罪ヲシテ人身ニ對スルモノ是ナリ佛國ニ於テハ法教上ノ怨恨ニ依テ起リタル内乱其他總體ニ國民ヲ虐殺シタルヲアリキ今日此重罪ハ第九十一條ニ依テ罰セラルベシ何トナレハ此條ニ於テハ内乱ノ目的ヲ穿鑿スルヲナシ内乱ヲ以テ乃チ之ヲ罰スレバナリ

本案ハ之ニ反シテ内乱ノ手段并ニ其目的ヲ併論セリ法教ノ變更ヲ目的トスル内乱ハ新法ノ預見ニ屬セサル所ナリ立法上ヲ以テ論シ且ツ道理上ヲ以テ論スルモ法教上ノ一揆ヲ取扱フニ政治上ノ一揆ト同一ナル方法ヲ以テスルヲ適當ナルニ似タリ何トナレハ此一揆ニ因テ生スル社會ノ損害如何ニ拘ハラズ此一揆ハ必ス多少高尚ナル稱賛スヘキ旨趣ヨリ出ル所ニシテ誠實ナル信教ノ意ニ歸スレハナリ

若シ此原則ヲ許ストキ第三百三十四條ノ續キニ於テ左ノ如ク記シタル一條ヲ加フルヲ得ヘシ日本政府ニ於テ認メ若クハ認メサル法教ノ道ヲ盛ナラシムルヲ目的トスル内乱又ハ一揆ニ加功シタル者ハ前條(第三百三十四條)ニ記スル刑ヲ以テ之ニ適用ス可シ但シ同一ノ區別ニ遵フ

故ニ法教上ノ内乱ヲハ最モ重キ政治上ノ内乱ノ如ク見ルヘシ實ニ法教上ノ内乱ハ一般ニ係ルノ性質アルヲ以テ之ヲ地方官憲ニ對スル一揆ト同視シ難キモノトス

○第四百十六條 前數條ニ記載シタル犯罪施行ノ前後ニ於テ其行爲ノ目的及ヒ性質ヲ知り自ラ好シテ其犯者ニ集會所若クハ隱匿所ヲ給與シタル者ハ前數條ニ記載シタル重罪(及ヒ

輕罪)ノ附從トシテ之ヲ罰ス

然レモ第百八十七條ニ指示スル血屬又ハ姻屬ノ親ニ係ル時ハ此刑ヲ免除ス

此規則ハ本條ニ言ヘル犯者ヲ妨碍スル爲メニ必要アリ何トナレハ此犯者ハ第百二十二條ニ定メタル附從ノ場合ニ於テ之ヲ明記セサレハナリ

然レモ本條ニ記スル所ハ甚タ正義ナルニ外ナラサルナリ犯者ノ集會ノ爲メ又ハ其隱匿ヲ容易ナラシムル爲メニ場所ヲ與フル所爲ハ大ニ其犯罪ノ終成ヲ補助ス又犯者ノ追捕ヲ脱カル、ヲ助ケテ以テ犯者ノ爲メニ其犯罪ヲ再ヒスルノ手段ヲ供スルモノナレハナリ

血屬又ハ姻屬ノ親ニ關スル免除モ亦道理ニ適スルモノトス本法ニ於テハ隱匿所ヲ與ヘタル(尤モ集會所ニハ非ルナリ)親屬ハ犯罪ノ目的ヲ以テ爲シタルニ非スシテ唯信實ヲ以テ爲シタルモノト看做セリ此別例ハ第百八十七條ニ於テ囚徒ノ逃走ヲ保護シタル親屬ニ關シ更ニ顯明ニ之ヲ許シタリ故ニ本法之ヲ該條ニ讓テ止マルヲ以テ此件ニ關シ一二ノ説明ヲ爲スハ該條ニ於テス可シ

○第百四十七條 此章ニ記載シタル犯罪ノ爲メニ禁獄ヲ言渡サレタル者ハ其他一年以上三年以下ノ監視ニ付スルヲ得

本條ニ於テハ禁錮ノ刑ヲ言渡サレタル者ヲ論スルノミ何トナレハ若シ重罪ノ刑ヲ言渡シタル時ハ無論頗ル永キ時間監視ニ付ス可キヲ以テナリ(第百四十八條參看)

然レモ輕罪ノ刑ニ付テハ法律ノ明文ニ記載スル場合ノ外是レカ爲メ監視ニ付スルヲナカルヘシ(第百四十九條參看)

本條ニ依テ言渡ス所ノ監視ハ裁判所ノ適宜ニ任カス所ニシテ必スシモ之ヲ言渡スヘキニ非ルナリ

○第三章 外患ニ關スル重罪輕罪

○第四百十八條 凡ソ日本人外國ト交戰中敵國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ其交戰ニ加ハリタル日本同盟國ニ抗敵シタル者ハ無期ノ流刑ニ處ス(但シ敵ニ與シタル兵卒ニ關シテ軍律上ニ記載セル更ニ嚴ナル刑ニ抵觸スルコトナカル可シ)

交戰中日本ニ背叛シ又ハ日本ノ同盟國ニ背叛シテ敵軍ニ加ハリ若クハ敵軍ノ補助トシテ或ル名義ヲ以テ直接ニ敵兵ニ附屬シタル者ハ日本及ヒ其同盟國ニ抗敵シタル者ト同視ス〔醫師外科醫看病夫其他特ニ敵ノ病院若クハ病營ニ附屬シタル者ハ本條ノ規則ヲ以テ論スルノ例ニ非ス〕

本案編纂委員ノ首トシテ研究ス可キ事ト爲シタル第一點ハ本條ニ論スル所ノ犯罪國事犯ノ性質ヲ有スルカ又ハ之ヲ常事犯ト看做スヲ得可キカヲ知ルニアリタリ  
抑々此犯罪ハ政府ノ制度ヲ改革スルノ希望ニ出ル所ノ國事犯ノ部類ニ屬スルモノトハ衆人ノ見サル所ニシテ此犯罪ハ國體ヲ敗壞シ本國ノ獨立ヲ傾覆セントスルモノタルニ似タリ故ニ政府ノ制度ヲ變更セントスル犯罪タルヨリモ寧ロ自國ニ對シテ大逆ヲ謀ル者ト謂フヘシ然レモ歐洲諸大國ニ於テハ之ニ反スル說行ハレタリ本案編纂委員モ激論ノ後遂ニ此反對說ヲ收用シタリ蓋シ此反對說ニテハ外國トノ交戰ハ乃テ政事上ノ性質ヲ有スルモノタルカ故

ニ一個人隨意ニ其戰爭ニ加ハル事モ亦他ノ性質ヲ有スルヲ得サルモノト認メタルナリ其他外國トノ交戰ハ必ス常ニ其國ノ獨立ヲ滅絶スルヲ以テ目的トスルニ非ス或ハ國境ヲ犯サバテシメ或ハ條約ヲ遵守セシメ或ハ凌辱ヲ受ケタルノ恨ヲ雪クヲ以テ目的トスルコトアル可シ故ニ若シ此解釋ヲ許サル時ハ必ス多少ノ犯罪上ノ區別ヲ爲サ、ルヲ得サル可シ但シ本論ハ國事犯常事犯共ニ死刑ヲ用ヒシ時ハ毫モ其益ナカリシト雖モ國事犯ニ付テ死刑廢シタル以來大ニ緊要ト成リタリ

佛國ニ於テ本條ニ論スル所ノ犯罪ヲ常ニ國事犯ト看做シタルコトヲ證スルモノハ此犯罪ノ刑死刑ヨリ輕キ場合ニ於テハ其刑ノ法律上ニ言ヘル所無期又ハ有期ノ徒刑若クハ懲役ノ刑ニ非スシテ流刑禁獄又ハ追放ノ刑タル事是レナリ〔刑法第七十八條第八十一條第八十二條第八十四條及ヒ第八十五條參看〕

故ニ本章ノ最モ重キ刑ハ無期ノ流刑ナリトス  
又本案最初ノ明文ニ於テハ逃亡シタル兵卒ニ關シテ本條ニ記入シタル別例ヲ存セスト雖モ然レモ此者ニ付テハ更ニ其刑ヲ加重セサル可カラサルコト明カナリ何トナレハ此者ハ國民タルノ本分ヲ缺キタルノミナラス又軍人ノ本分ヲ缺キ且ツ其所爲人ノ想像シ得ル所ノ最モ重キモノニ係レハナリ故ニ逃亡シタル軍人ヲ本條ニ依テ論スルノ誤謬ナカラシメンカ爲メ本法ニ於テ爰ニ其制限ヲ記載ス

本條第一項ニ記載スル所ノ犯罪ハ外國トノ交戦ヲ想像シタルトテ宜シク注意スベシ故ニ内  
 乱ノ場合ハ爰ニ預見セサル所ニシテ此場合ハ前章ニ於テ之ヲ規定セリ又日本ノ同盟軍ヲ攻  
 撃シタル罪事ハ乃チ日本ノ軍隊ヲ攻撃シタル罪事ト同様ニ之ヲ罰スト雖モ其同盟軍ノ日本  
 ト共ニ交戦スルヲ要スルヲ注意ス可シ故ニ設ヘハ日本ノ同盟國外國ト戰テ交ヘ日本ニ於  
 テ其交戦ニ加ハラサルヲアル可シ然ル時ハ本條ヲ適用ス可カラサルナリ  
 本條第二項ハ日本ニ對シテ抗敵スルト云ヘル語ノ本義ヲ定メリ即チ其犯人現ニ戰爭ニ加ハ  
 ニタルトテ要スルニ非ス交戦中日本及ヒ其同盟國ニ背テ自カラ敵國ノ軍隊ニ加ハリタルヲ  
 以テ足レリトス加之敵軍ノ補助トシテ戰士ノ名義ニアラサル他ノ或ル名義ヲ以テ公然直接  
 ニ敵兵ニ附屬シタル者ト雖モ本法之ヲ敵兵ニ加ハリタル者ト同視セリ是等ハ敵軍ノ運送請  
 負人、兵器工、厨夫、船舶水先人等ト爲リタル者ヲ云フナリ

然レモ此規則ノ適用甚ダ博泛タルカ故ヲ以テ醫師若クハ看病夫トシテ敵ノ病院又ハ病營ニ  
 屬シタル日本人ヲハ法律上ニ於テ明カニ例外トスルヲ要スルモノト信シタリ

此別例ハ編纂委員ノ批難ヲ受ケ途ニ之ヲ除去シテ唯後ノ參考ニ供スルノミヲ許サレタリ故  
 ニ本案ノ明文ニ於テハ之ヲ記載セサルナリ然レモ是レ遲疑シ得可キ事ニ非ス先ツ第一負傷  
 者ヲハ既ニ敵視スルヲナク同類ノ扶助ヲ受ル權利アル者ト視ルト人情ニ於テ然ラシムルノ  
 道理アリ是レ確定ノ道理ナリトス又第二ニ敵ノ病院ニ屬シタル本邦ノ醫師ハ同國人ノ爲メ

大ニ裨益ヲ爲スヲアル可シ何トナレハ軍事病院ニ於テハ常ニ彼我兩軍ノ負傷者在ルモノニ  
 シテ敵ノ醫師敵ノ傷者ト共ニ受取リタル我ガ傷者ノ施療ヲ怠ルノ恐アル可ク加之敵ノ醫師  
 戰場ニ於テ我ガ傷者ヲ遺棄スルノ恐アル可ケレハナリ

此趣意ハ斷手タルモノニシテ之ヲ駁セントセシ者ナカリキ故ニ此除去セラレタル別例ヲハ  
 必ス本法ニ明記セサル可カラザルナリ

○第四百十九條 外國ト交戦中敵國ノ兵隊其他敵兵ニ附屬スル者ヲシテ日本又ハ同盟國ノ  
 管内ニ入ルヲ得セシメ若クハ日本及ヒ同盟國ノ都府城塞陸海軍陣營港口倉庫造兵場又ハ  
 兵器彈藥廠若シハ糧食裝具廠又ハ軍艦運漕船ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期流刑ニ處ス

本條ニ論スル所ノ犯罪ハ本國ニ對シ叛逆ノ性質ヲ表スルヲ前條ヨリモ尙ホ高度ニアリテ且  
 ツ更ニ遺徳上ニ背クモノトス何トナレハ此犯罪ハ更ニ秘密ニ係ルモノニシテ少クモ勇猛ヲ  
 表スル捨身ノ所爲ナキヲ以テナリ又此犯罪ハ國安ヲ害スルヲ更ニ大ナリトス是レ蓋シ一個  
 人日本ニ抗尊スルノ所爲ハ直チニ日本ニ與フル損害ヨリモ寧ロ其惡例ヲ他人ニ示スニ依テ  
 危險ナルニ本條城塞軍艦造兵場等ヲ敵ニ付スルノ所爲ハ直チニ大害ヲ日本ニ與フ可ケレハ  
 ナリ

然レモ起草者ハ無期ノ流刑ヨリモ更ニ嚴ナル刑ヲ記載シ得サリキ何トナレハ更ニ嚴刑ヲ科  
 セントスルハ死刑ニ處スルニ至ラサルヲ得スト雖モ是レ適用ス可ラサルモノト信シタレハ



ナリ故ニ前條ノ刑ヲ減輕スルニ非レハ本條ノ刑ヲ更ニ加重スルヲ得サリシト雖モ是レ亦爲シ難キモノト信シタリ然レモ若シ此二個ノ場合ニ於テ強テ寬嚴ノ差ヲ立テントスレハ前條ノ刑ヲ有期ノ流刑ニ降スモ大ナル不便ナカルヘシ  
其他本條ニ記載セル重罪ハ兵隊司令官要寮司令官若クハ軍艦指令官ノ外之ヲ犯シ能ハサレハ陸海軍律ヲ以テ罰セラル、コト多カル可シ故ニ立法者カ希望スルヨリ更ニ其刑ノ嚴ナルヲ見ルベシ

○第五十條 戰時ニ在テ政府ノ官員若クハ屬吏又ハ其他ノ日本人自己ノ職務ニ因リ或ハ特別ノ委任ヲ受ケタルニ因テ本國若クハ同盟國ノ外交商議ニ關スル密事ヲ知リ又ハ陸海軍ノ機密ヲ知テ之ヲ敵國ノ官吏ニ漏泄シタル者ハ無期ノ流刑ニ處ス

偽計賄賂若クハ暴行ヲ以テ前項ノ密事ヲ探知シテ敵ニ漏泄シ又ハ此密事ヲ明ニスルノ公書圖面或ハ其他ノ書類ヲ得テ之ヲ敵ニ渡シタル者モ亦同シ

〔偶然其公書若クハ書類ヲ得テ之ヲ敵ニ渡シタル者ハ有期ノ流刑ニ處ス〕

是レ亦惡キ可キ反應ニシテ本法之ヲ無期ノ流刑ヨリ輕キ刑ヲ以テ罰スルヲ得サリキ抑々商議ノ密事特ニ陸海軍用兵ノ機密ニ係ル書類ヲ敵ニ交付スルハ日本ヲシテ敗北ニ至ラシムヘキ事業ナリ本法先ツ首トシテ自己ノ職務ニ依リ又ハ特別ノ委任ヲ受ケタルニ依テ密事ヲ知リ之ヲ敵ニ漏泄シタル者ヲ罰セリ蓋シ此者ノ罪ハ特ニ政府ノ信任ヲ害用シタルニヨルナリ

其他責罰ス可キ方法ヲ以テ公書其他前項ノ密事ヲ記スル書類ヲ得テ之ヲ敵ニ交付シタル者亦本法ノ罰スル所ナリ

本案ニ於テハ反應ヲ爲シタル罪人偶然其公書ヲ得タルノ場合ヲ加入セサルナリ然レモ之ヲ罰スルヲナキハ道理ニ適スルモノニ非ス唯其刑ヲ僅カニ減輕スレバ適當ナル可シ故ニ余ハ之ヲ一等減輕セント欲スルナリ

其不問ニ措テ罰セサルヲ得ヘキ場合ハ奸民偶然ニ兵事又ハ外交上ノ計策ヲ聞テ之ヲ敵ニ漏泄シタル場合はシナリ

若シ此場合ニ於テモ亦刑ヲ科セント欲セハ本條ノ尾項ニ於テ偶然之ヲ得テト云ヘル文字ノ下ニ若クハ其密事ヲ知リテト云フ文字ヲ加フ可シ

○第五十一條 凡ソ日本人敵國ノ間諜ヲ行ヒ以テ日本若クハ同盟國ノ兵隊又ハ艦隊ノ占ムル地位其運動又ハ其軍勢軍備ノ景狀ヲ敵ニ通知シ或ハ内地港口都府又ハ城塞ノ細圖ヲ敵ニ交付シ若クハ敵ノ爲メニ便宜ナルカ又ハ危險ナル道路及ヒ通路ヲ敵ニ指示シタル者ハ無期ノ流刑ニ處ス

凡ソ日本人日本及ヒ同盟國ノ管内ヘ敵國ノ間諜又ハ斥候ヲ入ラシメ之ヲ誘導シ若クハ之ヲ隱匿シタル者亦同刑ニ處ス

本條ニ論スル所ノ犯罪ハ前條ノ犯罪ト大ニ相類似スルモノニシテ皆本邦ノ利益ニ於テ敵ノ

知ラサルヲ要スル所ノモノヲ敵ニ知ラシムルニアリ但シ此犯罪ハ區別アル二個ノ行為ニ分  
 析スルヲ得其一軍事ヲ探偵考察スルヲ即チ所謂間諜ヲ行フチ其二軍事ヲ敵ニ漏泄スルヲ  
 是レナリ若シ犯人其犯罪初步ノ時ニ於テ捕獲セラレシ時ハ唯其犯罪ノ着手ニ止マリタルモ  
 ノト見サル可ラス佛國ニ於テハ間諜ヲ罰スルニ其犯罪着手ニ付テモ既遂犯罪ニ於ケルト同  
 シ是レ佛國ノ常律トス然レモ日本ニ於テハ之ト異ナル可キナリ蓋シ本法ニ於テモ間諜ノ行  
 爲ヲ精密ニ定メスシテ嚴ニ之ヲ罰スルニ止マルヲ得可シト雖モ是レ廣潤ニ過テ危險トスベ  
 キ大權ヲ裁判所ニ委スルモノト謂フ可シ元來一個人ニ對シ其間諜ヲ行フタルヲ確證スル時  
 ニ方リテヤ世ノ形勢常ニ穩カナラスシテ邦人不安ヲ懷クベシ時トシテハ其邦危急ニ迫ルベ  
 シ故ニ裁判上公平寛大ヲ得ルヲ難ケレハナリ

軍律ニ於テハ軍人ノ行フタル間諜ハ更ナリ軍人ニ非サル者ノ行フタル間諜ノミナラス敵ノ  
 行フタル間諜ト雖モ一般ニ死刑ヲ以テ之ヲ罰セリ然レモ軍律ニ於テハ一般ニ佛軍ノ陣營内  
 又ハ佛軍占有スル地ニ於テ間諜ヲ發見シ之ヲ捕獲シタル事ヲ想像シタルモノナリ  
 本邦ノ新定軍律ニ於テモ陸軍裁判所ノ審判ニ付ス可キ此別段ナル間諜ノ場合ヲ記載スルニ  
 止マルヲ得可シ

○第百五十二條 前數條ニ記載シタル犯罪ノ着手又ハ其施行ヲ始メタルニ過キサル時ハ本  
 刑ノ一等若クハ二等ヲ減ス

其犯罪ヲ施行スルノ目的ヲ以テ唯敵國ト通信シ犯罪預備ノ行為ニ止マリタル時ハ本刑ノ  
 二等或ハ三等ヲ減ス

前數條ニ論スル所ノ犯罪ハ前章ニ記載シタル犯罪ト異ナリテ全ク之ヲ遂ル此ハ之ヲ罰スル  
 能ハサルヲ以テ其犯罪着手ノ時ニ於テ法律上最大ノ嚴刑ヲ適用ス可キカ如キ性質ヲ有セサ  
 ルナリ

本章ニ於テハ反應ノ重罪ヲ遂ケタリト雖モ然レモ國ノ大權敗壞シタルニ非サルヲ想像ス  
 ルヲ得ベシ故ニ常ホ之ヲ彈壓スルヲ得ルナリ  
 是ノ故ニ現ニ生シタル社會損害ノ度ニ從テ其刑ノ差等ヲ立ルハ原則ニ於テ要スル所ナリ  
 而ノ犯罪着手ニ止マリタルニ於テハ社會ノ損害少フノ預備ノ行為ニ止マリタルニ於テハ其  
 損害尙ホ一層少シトス敵國ト通信スルトハ未タ間諜ヲ始メス之ヲ行フ爲メニ贈物若クハ約  
 束ヲ受ケタルヲ云フ

本法ニ於テハ數人協議シテ此犯罪ヲ決心シ(隱謀)又ハ一人ニテ之ヲ決心シ而シテ其隱謀ヲ發  
 言シタルニ依テ發覺シタル犯罪ノ決心ヲ預見スルマテニ至ラサルナリ蓋シ此ノ如ク大逆ノ  
 罪ヲ企ル事ハ最モ稀ナルカ故ニ未必ノ預見ヲ以テ明文ニ加フルヲ要スルモノト思ハサレバ  
 ナリ是ノ故ニ定時間ニ隱謀ヲ告發シタルヨリ生スル減輕ヲモ又全キ宥恕ヲモ記載セサルナ  
 リ

○第一百五十三條 凡ソ日本人(自己ノ名ヲ以テ又ハ商業會社ノ社長トシテ)日本政府又ハ陸海軍官憲ヨリ陸海軍ノ爲メニ物品ヲ辨備シ若クハ工業ヲ執行ス可キコトヲ任セラレタル者敵ト通謀シ或ハ國內(若クハ國外)ヨリ來リタル賄賂ヲ收受シテ故ヲニ其契約ニ定ムル期限内又ハ之ニ定ムル方法ニテ其契約ヲ行ハサル時ハ重禁獄ニ處ス

若シ懈怠ニ因テ其契約ヲ缺キタル場合ニ於テハ六月以上二年以下ノ輕禁錮二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ規則ハ一揆兵ヲ征スル正當兵ノ辨備人ニ就テ(前章ニ記載シタル場合ニ於テ)亦之ヲ適用ス

本條第一項ニ記載シタル反應ノ場合ハ法律上ニ明記セサル可カラズ何トナレハ此場合ハ甚タ危險ナルモノニシテ他ノ反應場合ト同シク恐ル可ケレハナリ此場合ハ佛國及ヒ其他ノ國ニ於テモ之ヲ律條ニ明記セリ

本刑ハ大逆ノ刑ヨリ二等輕シ何トナレハ社會ノ損害頗ル大ナラサルヲ以テナリ又全ク然ラストモ其損害少タルヲ得レハナリ蓋シ或ル辨備ヲ爲サ、リシカ又ハ或ル工業ヲ執行セザリシニ因テ必スシモ軍隊敗衄ヲ受ルニ至ラサル可シ故ニ本法ノ起草者モ一時ハ此犯罪ヨリ生シタル後果ニ依テ刑ノ輕重ヲ定メント考ヘタリト雖モ裁判所ニ於テ軍隊ノ敗衄果シテ此犯罪ヨリ生セシヤ否ヤヲ認ムルヲ得サル可シ又之ヲ認メ得ルモ甚タ稀ナル可シト悟リタリ

又眞ノ懈怠ニ依テ契約ヲ缺キタル罪ハ假令ヒ是レカ爲メ軍隊へ同一ノ危難ヲ生シ得ルト雖モ重罪ヲ以テ之ヲ論スルヲ得ス故ニ本法ニ於テハ輕罪トシテ之ヲ罰セリ

本條第三項ニ至テハ之ヲ第二章第四百十六條ノ次ニ移スヲ以テ更ニ論理ノ法ヲ得タリトス而シテ左ノ如ク之ヲ記載ス可シ

第一百五十三條ノ規則ハ一揆兵ヲ征スル正當兵ノ辨備人ニ之ヲ適用スヘシ

○第一百五十四條 未タ交戦ニ至ラスト雖モ既ニ敵國ニ對シ戰書ヲ送ラントスル際ニ於テ前數條ニ記シタル罪ヲ犯シタル者亦各々其本條ニ從フテ處斷ス

爰ニ論スル所ノ犯罪ハ交戦二國ノ間ニ於テ未タ敵對ノ所爲ヲ始メサル前ニ犯シタルモノナルガ故ニ其罪ノ重キヲ失ハサルト明カナリト雖モ本法之ヲ解説セサル可カラズ何トナレバ前數條ハ反應ヲ爲シタル時ニ方テ既ニ始マリタル戰爭ノ場合ニ付テ記載シタルモノナレバナリ

第一百五十四條ノ二

凡ソ日本ニ於テ戰書ヲ投セサリシ外國ニ向テ出發シタル陸海軍遠征ノ首謀トナリ之ヲ號令シタル日本人ハ重禁錮ニ處ス

其遠征ニ於テ威權アル職務ヲ行フタル者ハ輕禁獄ニ處ス

其他ノ共犯ハ都テ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

若シ唯其出發ニ着手シテ以テ犯罪ノ施行ヲ始メタルニ止マル時ハ總テノ犯人ニ付キ各々  
 本刑ノ一等或ハ二等ヲ減ス  
 兵隊ヲ招募シ又ハ陸海軍ノ糧食裝具ヲ準備シ以テ犯罪ノ預備ヲ爲シタルニ止マル時ハ本  
 刑ノ二等或ハ三等ヲ減ス  
 其犯人中第三百三十九條ヨリ第四百一十一條迄ニ記載セル場合ニ入ル者ハ該條ノ恩典ヲ適用  
 ス  
 此遠征ニ際シテ通常ノ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタル者ハ第四百四十四條及ヒ第四百四十五條ヲ適  
 用ス

若シ海賊ノ所業ヲ爲シタル時ハ第三章ノ二(第一節)ノ規則ヲ適用ス

本條ハ最初編纂ノ時司法省ニ於テ准許セラレタルノミニシテ確定ノ編纂ニ至テハ削除セラ  
 レタリ茲ニ編纂委員中ニ生シタル異說ヲ記載シ以テ之ヲ復セリ  
 抑々本條ヲ元老院ノ審查ニ付スレハ必ス其取捨ニ就テ確然決定アル可キニ其審查ニ付セザ  
 リシハ遺憾ト謂フ可シ且ツ本條ハ除去セラレシ旨ヲ記シテ以テ之ヲ本案ニ記入ス可キヲ  
 編纂委員中ニテ同意セラレタリ  
 且ツ本條ニ示セル規則ハ毫モ奇怪ナルモノニ非ラス乃チ佛蘭西刑法中ノ二條(第八十四條及  
 ヒ第八十五條)ニ論スル所ノモノナリ加之此規則ハ日本ニ於テ別段ノ裨益有リキ從來本邦ニ

於テ威權ヲ有シ特ニ舊士族ノ人望ヲ得タリシ數輩屢々征韓ノ說ヲ主張シ政府ニ於テ朝鮮ニ  
 對シ親睦平和ノ處置ヲ爲セルヲ誹謗セシテアリタリ且ツ是等ノ諸人ハ日本ニ於テ平和懇親  
 ナ存セント欲シタル此隣國ニ對シテ私ニ遠征ヲ企ツルノ念ヲ離レタルヲナカル可シ  
 斯ノ如キ企圖ハ不平黨ノ起シタル内乱ニ比スレハ必ズ國ノ不幸尠ナカリシナラン然レモ初  
 メ刑法ヲ編スル時ニ方テハ内乱ト同時ニ之ヲ預見スルヲ得タリ故ニ此企圖ノ刑ヲ記載スル  
 一ハ賢良タリシナラン

日本人政府ノ允許ナクシテ斯ノ如ク遠征ヲ企ツル時ハ政府ヲシテ襲撃セラレタル國ヨリ重  
 大ノ報復ヲ受ルニ至ラシムルノミナラズ其同盟國ヨリ重大ノ報復ヲ受ルニ至ラシメ且ツ是  
 レガ爲メ日本ヲシテ外國ト交戦スルニ至ラシムルヲ得キト疑ヲ容レサル所ナリ  
 故ニ元老院ニ於テ嚴密ニ本論ノ審查アル可キトハ余カ信ズルヲ得ル所ニシテ假令ハ其院卒  
 ニ本條ヲ廢棄スルモ是レ充分ニ其議ヲ盡シタル上ナルベシ

此他本條ニ記シタル刑ノ性質及ヒ程度ニ就テ聊カ説明ス可キモノナリ  
 先ツ第一ニ此刑ハ此類ノ犯罪ニ適スル國事犯ノ性質アリ且ツ頗ル寛大ナリ何トナレハ何レ  
 モ無期ノ刑ニ非ルノミナラズ十六年ヨリ二十年マテノ有期ノ流刑ニ至ラサレハナリ實ニ本  
 條ニ關スル所ノ行爲ハ本章中ニ論ズル所ノ他ノ行爲ニ比スレハ道德ニ背シテ大ニ少フシテ  
 毫モ本國ニ對スル反應ノ性質ヲ有セズ寧ロ不適應ニシテ不法ナル過激ノ熱心ヨリ起リタル

本法ニ於テハ其遠征中ニ犯人ノ爲シタル職務ノ輕重ヲ酌量シ其首魁ト或ル權威ヲ行フタル者ト尋常ノ共犯トヲ區別セリ

又既遂犯罪ト着手シタル犯罪ト預備ノ犯罪トノ區別ヲ存セリ

數人ノ協議ニ係ル犯罪ノ決心即チ陰謀ニ付テハ毫モ之ヲ論セサルナリ何トナレハ其社會ヲ害スレ極メテ明白ニシテ之ヲ科罰スルヲ必要トスルニ至ルテハ思考セサレバナリ

又行フテ遂ケサル犯罪ニ付テモ毫モ論セス然リト雖モ本法ニ於テ最モ嚴刑ヲ以テ罰スルハ特ニ此場合ナリト看做サル可ラズ本法ニ於テハ既ニ出發シタル遠征ノ首謀トナリ之ヲ號令シタル者ヲ罰スルハナリ而シテ其遠征兵日本ノ港口ヲ離ルレハ即チ出發シタルモノニシテ遠征ハ既ニ企テラレタルナリ其罪ハ犯セルナリ遂ケタルナリ故ニ其遠征ノ目的ヲ達シタルカ又ハ唯外國ノ港ニ到着シタルニ過キサカチ免ムルヲ要セス

之ニ反シテ若シ其遠征兵日本ノ港口ニ於テ阻遏セラレタル時ハ其遠征ハ唯着手ニ過キサカチモノニシテ行フテ遂ケサルモノニ非ルナリ

未ノ三項ハ之ニ類似セル場合ニ付テ記シタル他ノ規則ニ讓リタルノミ

其犯中ノ一人若シ早ク其企ヲ告發シタル時ハ場合ニ依テ減刑ヲ受ルノミナラス全キ宥恕ヲ受ク可シ

犯人若シ常律上ノ罪ヲ犯シタル時ハ尋常ノ刑ヲ適用ス可シ

若シ海賊ノ所業斯ノ如キ場合ニ於テ特ニ恐ル可キ罪ナリヲ爲シタル時ハ次章ニ記載セル海賊ノ刑ヲ適用ス可シ(此章モ亦同シ司法省ニ於テ廢セラレタリ)但シ其明文ニ於テハ船舶兵器及ヒ軍需品ノ沒取ヲ言渡サスト雖モ一般ノ原則ヲ以テ足レリトス

○第一百五十五條 外國人日本ニ在留シテ第四百四十九條以下ニ記載シタル重罪及ヒ輕罪ヲ犯シタル時其正犯若クハ附從各本條ニ記スル刑ニ照シテ一等ヲ減ス

本法ハ常ニ犯罪ヨリ生シタル道德上及ヒ社會公益上ノ損害ノ度ニ照シテ刑ノ輕重ヲ定ムルニ從フテ以テ茲ニ外國人ヲ處スルニ日本人ト異ナル方法ヲ以テセサルヲ得サルナリ

本章ニ論スル所ノ重罪ハ外國人ノ之ヲ犯シタル時ト雖モ自國人ノ之ヲ犯シタル時ト同一ニ社會ノ損害ヲ生スベキハ疑ヲ容レサル所ナリ然レモ道德上ヨリ之ヲ論スレハ外國人ハ其本國ニ叛キタルニ非サルノ旨越ノミヲ以テ其罪ノ輕キヲ表ス可シ加之外國人ノ犯罪ハ其自國ヲ利スルヲアル可シ然レモ其犯罪ノ時ニ方テ日本ニ住セシヲ以テ日本ニ叛クハ大ニ道德上ノ義務ヲ缺キタリ故ニ本法之ヲ罰セサルヲ得スト雖モ外國人ト日本人トノ間ニ其差等ヲ立ツルヲ以テ條理ニ適シ公平ヲ得タリト謂フヘシ

本法ノ明文(改正シタルモノ)ニ於テ第四百四十八條ノ場合ニ在ル所ノ外國人即チ日本ニ對シテ抗敵シタル外國人ヲハ毫モ罰モサルヲ宜シク注意ス可シ實ニ此場合ニ於テハ其者日本ニ

在留スルカ爲メニ交戰國中ノ一方ニ與ミスルノ權利ヲ除去スルヲ得ス故ニ日本在留ノ故ヲ以テ反應ヲ爲シタルモノト爲ス可カラズ

然レモ若シ外國人日本ニ在テ敵兵ノ日本管内ヘ入ルヲ助ケ或ハ自己ニ托セラレタル細圖、公書若クハ密事ニ係ル書類ヲ敵兵ニ交付シタル時ハ之ト異ナル可シ此場合ニ於テハ其者日本ニ住スルヲ以テ重罪ヲ組成スル元素トス何トナレバ其犯罪ヨリ生スル社會損害ノ主タル原因ハ其日本ニ住スル事タレハナリ故ニ眞ニ反應ヲ爲シタルモノトス然ルニ最初ノ場合ニ於テハ日本ニ住セサル外國人ト雖モ同シク容易ニ同シキ結果ヲ以テ日本ニ敵シ外國ノ軍隊ニ加入スルヲ得可シ故ニ必ズ此所爲ヲ以テ之ヲ罰スルヲ得サル可シ

第百五十四條ノニ示シタル場合即チ政府ノ命ヲ受ケスシテ遠征スルノ罪ニ至リテハ日本ニ於テ其兵隊ヲ編成シタル外國人ハ爰ニ定ムル如ク一等ヲ減ジテ以テ該條ニ記載スル刑ヲ適用セラレ可シ

○第百五十六條 二個以上ノ外國交戰ノ際日本ニ於テ局外中立ヲ布告シタル時其局外中立ヲ破ル所業ヲ爲シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

近世ニ至テハ二國ノ間ニ戰爭起ル時諸國ノ政府ハ自國ノ利益又ハ國威ヲ害セラレントスル時ノ外其戰爭ニ加ハラサルヲ務メタリ而シテ自國ノ利益又ハ國威ヲ害セラレサル場合ニ於テハ局外中立ニ止マルナリ其局外中立ニ止マリタル國ニ於テハ其人民自カラ局外中立ヲ守リテ以テ交戰國ヘ兵器彈藥等ヲ給セサルヲ緊要トス是レ國民其私利ヲ謀ルノ慾ニヨリテ敢テ爲スニ至ル可キ所ノ事タリ若シ國民兵器等ヲ給セシ時ハ其投機商ノ屬スル國ハ之レガ報復ヲ受ルノ難ニ遇ヒ其交戰國中ノ一ヲ助クルヲ疑フ受ケ且ツ其國ニ於テハ戰ヲ欲セスト雖モ遂ニ交戰ニ至ル可ケレバナリ

是レガ爲メ局外中立ニ止マル國ニ於テハ公然其局外中立ノ布告ヲ爲スノ慣習アリテ又其同時ニ局外中立ヲ破リタル國民ニ對シテ刑罰ヲ示セリ而シテ若シ其國從來ノ法律上ニ於テ根本ノ律トシテ其刑ヲ定ムル時ハ局外中立ノ布告書ニ之ヲ追記シテ以テ國民ニ示スナリ

本邦ハ文明諸國中ニ於テ名譽アル地位ヲ占メント欲スルヲ以テ將來若シ遠近諸國ノ間ニ戰爭起ル時ハ必ズ萬國公法上ノ慣例ニ倣フ可キナリ

又本邦ニ於テハ交戰國ヲシテ必ズ其局外中立ヲ犯サバラシムルヲ注意ス可キナリ是レガ爲メニハ自國ノ人民其交戰國ノ一方ニ兵器及ヒ彈藥ヲ給シテ以テ自カラ其局外中立ヲ破ラサルヲ注意ス可シ

局外中立ヲ破リタル罪ノ刑ヲ刑法中ニ記載スレハ局外中立ヲ布告スル場合ニ於テハ其布告書ニ之ヲ追記スルヲ以テ足ル可シ

本條ニ關スル犯罪ハ尙ホ國事犯罪ノ種類ニ屬セリ故ニ其刑ハ輕禁錮ニシテ苦役ナキモノタ

本法ニ於テハ局外中立ヲ破リタルモノトス可キ行爲ノ性質ヲ定メサルナリ  
 歐米ニ於テモ此局外中立ヲ破ルト云ヘル語ノ區域ニ就テハ尙ホ頗ル重大ナル異説アリトス  
 一般ニ戰時密賣品ヲ給スルノ所爲ヲ稱シテ局外中立ヲ破ルモノト云フ然レモ戰時ノ密賣品  
 タルモノト密賣品ニ非サルモノトヲ定ムルニ方テ再ビ困難ヲ生セリ  
 其他局外中立國ノ船艦封鎖セル港口ニ闖入スル時ハ何ホ局外中立ヲ破リタルモノトス  
 爰ニ又萬國公法上此事件ヲ論スル著述者中ニテ大ニ議論アリトス  
 故ニ本案ノ起草者ハ此犯罪ニ對シ其刑典ノ原則ヲ記載シテ止メリ  
 若シ其場合生ジタル時ハ最も確實ナル萬國公法上ノ慣例ニ據テ之ヲ判決ス可シ而シテ罪ノ  
 疑ハシキニ於テハ其被告人放免ス可シ

○第百五十七條 此章ノ規則ニ依テ禁錮ヲ言渡シタル場合ニ於テハ都テ裁判所ニ於テ該犯  
 ヲ一年以上三年以下ノ監視ニ付スルヲ得  
 本條ハ毫モ解釋ヲ要セサルナリ

○第四章 萬國公法ニ對スル重罪輕罪

本章ハ初次ニ於テハ司法省委員之ヲ討議シテ收用シタリト雖モ後收尾ノ校訂ノ時ニ至リ委  
 員少數ノ反對説アルニ拘ハラス遂ニ削除セラレタリ  
 之ヲ削除スルノ第一旨趣ハ本章ニ記スル犯罪即チ海賊罪及ヒ黑奴ノ賣買ハ別段ノ性質アリ

テ例外ニ屬ス可キモノト論シタルナリ而シテ其論者ハ佛國ノ刑法中此事項ニ關スル規則ナ  
 キノ適例ヲ引證セリ

固ヨリ佛國ニ於テ此事項ハ別段ノ法律ヲ以テ規定セリ即チ海賊罪ハ千八百二十五年四月十  
 日ノ法律ヲ以テシ又黑奴ノ賣買ハ千八百三十一年三月四日ノ法律ヲ以テセリ  
 然レモ千八百三十二年ニ改訂シタル刑法即チ右二法律ノ後ニ改訂シタル刑法ニ於テ如何ナ  
 ル原由ヲ以テ其規則中ニ之ヲ加入セザリシカヲ討究スルハ無用ト謂フ可シ其最も簡單ニシ  
 テ最も信スルヲ得ベキ道理ハ即チ千八百十年制定ノ刑法中ニ此二項ニ關スル明文ヲ見サル  
 ヲ以テ之ヲ其規則中ニ加入スルヲ思考セザリシト是レナリ夫レ然リ而シテ千八百十年ニ方  
 テハ佛國未ダ其藩屬地ニテ奴隸ノ使役ヲ許セシガ故ニ黑奴ノ賣買ヲ禁スルヲ思考セザリ  
 シナリ其他海賊罪ニ至テハ既ニ以前ノ海上律ニ於テ嚴ニ之ヲ罰セリ而シテ千八百三十二年  
 刑法改訂ノ時ニ方テ其刑ヲ寬ニスルヲ思考セス又毫モ之ヲ加重スルヲ得ザリシナリ何  
 トナレハ都テ海賊罪ニ付テハ殆ト皆テ死刑ヲ用ヒヌレバナリ  
 歐洲數國ノ刑法ニ於テモ亦佛國ノ刑法ニ於ケルガ如ク其規則中ニ海賊罪及ヒ黑奴ノ賣買ヲ  
 掲載セズ然レモ限ヲ轉シテ之ヲ觀レハ更ニ新キ刑法ニシテ之ト異ナル方法ヲ以テ制定シタ  
 ルモノアリ即チ英領印度ノ爲メニ設ケタル英ノ刑法ノ如キハ黑奴ノ賣買ヲ禁スル規則ヲ明  
 記セリ又填國ノ刑法ニ於テモ其規則中ニ黑奴ノ賣買及ヒ海賊罪ヲ加入セリ又最も新シキ法

タル黒西哥ノ刑法ニ於テモ之ト同様ニ制定セリ和蘭ノ刑法ハ未タ頒布ニ至ラスト雖モ斯ノ如キ海國ノ法ニ於テハ此二罪ノ如キ深ク航海ニ關スルモノヲ其刑法ニ明記スルヲ懈ラサル可キハ殆ト確實ナリトス

故ニ元老院ノ審査ニ付シタル本按ニ於テ此削除アルハ遺憾ナリト謂フ可シ  
其他此削除ニ付テハ又一ノ旨趣アリタリ即チ日本ニ於テハ海賊罪殊ニ黒奴賣買ノ犯罪ハ曾テ知ラサルトノ事是レナリ

此道理ハ甚ク國ニ諷フモノナリト雖モ之ニ從フ時ハ刑法ニ於テ此二犯罪ヲ論セサルノミナラス別段ノ法律上ニ於テモ之ヲ論セサルニ至ル可シ是レ尙ホ一層痛歎ス可キ事タルナリ蓋シ此道理ハ既往ニ在テハ果シテ然カリト言フチ得可シト雖モ將來ニ於テハ決シテ然ラサル可シ

日本ノ舊制ニ於テ全ク外國ト交通ヲ絶ナシ時ニ方テハ日本ノ漁船又ハ此港ヨリ彼ノ港ヘノ沿岸航行若クハ輪漕ヲ爲セル船舶ヘノ外海賊ノ所業ヲ行ヒ得サリシナル可シト雖モ是等ノ船ハ海岸ヲ離ル、ト少キカ故ニ之ヲ襲フト危險タマシナラン又一方ニハ海賊ハ遠洋ニ於テ外國ノ船舶ヲ襲フ爲メニ微弱ノ小舟ニ乘シテ危險ヲ冒スヲ得サリシナル可シ況ヤ其知ラサリシ所ノ奴隸國ニ於テ黒奴ノ賣買ヲ爲ストフハ考ヘ得サリシナル可シ  
然レモ今日ハ日本海及ヒ其周圍ノ海ニ於テ貨物ヲ積載シタル外國船ノ往來スル時ニシテ又

加フルニ昌險ノ徒遠ク其惡業ヲ及ホス爲メニ十分堅牢ナル船舶ヲ容易ニ備フルヲ得可キ時ニ在テハ論者ノ唱フルカ如ク此危險ハ空妄ナルモノニ非ルナリ加フルニ又謀叛ニ於テ失敗シタル大膽ナル徒逃走スルノ手段ヲ得テ以テ其内乱ニ於テ失フタル勝利ヲ海上ノ昌險ニ求ムルニ至ルナリト謂フ可ラス

故ニ此二罪ヲ削除スルノ第二旨趣ハ妄リニ來時ヲ往時ト同視シタルニ基クモノトス人若シ日本ニ於テ持兇強盜行却及ヒ人身ニ對スル暴行アルト稀ナルヲ主張スルヲ得ハ此旨趣ニ價ヲ増ス可シト雖モ是等ノ事ニ關シ日本ハ他國ト同様ナリト看認メサル可ラサルナリ  
故ニ此二犯罪ニ付テハ日本ハ他ノ海國ト同シク免レサル所ニシテ之ヲ律條ニ明記シ至當ノ嚴刑ヲ以テ之ヲ罰スルハ賢良ナル立法者ノ本分ナリト謂フ可シ

又此犯罪ノ稀ナルトヲ許シ且ツ之ヲ希望スト雖モ此刑典ヲ別段ノ法律ニ掲載スルヨリモ寧ロ之ヲ一般ノ法典ニ掲載ス可キナリ何トナレバ其刑ヲ一般ノ法典ニ掲載ルカ若クハ別段ノ法律ニ掲載ル所以ノモノハ犯罪ノ屢々ナルカ又ハ其稀ナルガ爲メニ非スシテ其刑罰ノ一定不變ナルカ否ルカニヨレハナリ

出版及ヒ公衆ノ集合ニ關スル犯罪ニ付テハ既ニ述タルカ如ク之ヲ別段ノ法律ニ讓ル所以ノモノハ此事項ニ於ケル法律上ノ規則ハ國ノ政治上ノ情狀ニ基ヒテ設ルモノニシテ屢々之ヲ變更セサルヲ得サルニアルナリ



然則海賊罪及ヒ黒奴ノ賣買ニ至テハ常ニ同様ニ惡ム可キノ犯罪ナリトス何トナレハ海賊ノ所業ハ航海上ノ安寧ニ重大ナル妨害ヲ與フレハナリ又黒奴ノ賣買ハ人生ノ最モ貴重ス可キ權利ニ於テハ人他人ノ所有物ト爲リテ獸類ノ如ク賣買セラル、ヲ許サ、ル所ノ理ヲ害スルモノタレハナリ

本章ニ論スルニ犯罪ハ之ヲ國ノ内部ノ安寧若クハ外部ノ安寧ヲ害スヲ犯罪中ニ列スルヲ得ザリキ此ニ犯罪ハ本章ノ標題ニ言ヘルカ如ク恰モ萬國公法即チ國際自然法ニ對スル重罪ナリトス

以上既ニ本章ノ削除ス可ラサル所以ヲ論了シタルヲ以テ是ヨリ各條ノ明文ヲ解説スルヲ得可シ

○第一節 海賊罪

○第一條

凡ソ日本又ハ外國ノ船舶ニ乘リ海上ニ於テ脅迫若クハ暴行ヲ用ヒ自國ノ船舶若クハ外國ノ船舶ヲ強奪劫掠シテ以テ強盜ノ所業ヲ爲シタル者ハ海賊トシテ左ノ如ク處斷ス

第一 艦船者又ク船長若クハ司令長ハ無期ノ徒刑ニ處ス

第二 其他該船ノ士官ハ有期ノ徒刑ニ處ス

第三 都テ乘組人ハ重懲役ニ處ス

其船舶及ヒ船中ニ在ル所ノ諸物件ハ諸般若シ犯者又ハ其附從ニ屬スル時ハ都テ之ヲ沒收ス

海賊罪ハ本條ニ定ムル該犯罪組成ノ性質ニ據レハ恰モ海上ノ行劫ニシテ乃チ陸地ノ持兇器盜又ハ強盜ニ類スルモノナリ

殺人ハ海賊罪ノ本然ノ性質ニ非ザル、夫ノ強盜ニ於ケルガ如シ而シテ其事タル次條ニ記スルガ如ク海賊罪ノ變更ニシテ之レガ刑ヲ加重スルモノナリ

本條海賊罪ヲ逐次分析スレハ其犯者ハ必ス船ニ乗ル可キ、ヲ要シ并ニ海上ニ於テ劫掠ヲ爲シ即チ日本國他國ノ別ナク其沿陸海ノ外ナル遠洋ニ於テ劫掠ヲ爲シタルヲ要スル、ヲ見ル可シ

故ニ若シ港内又ハ河川ニ於テ劫掠ヲ爲セシ時ハ通常ノ規則ヲ之ニ適用シ強盜トシテ之ヲ罰ス可キノミ并ニ若シ外國ニ於テ劫掠ヲ爲セシ時ハ其犯者日本人タルニ非レハ日本裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルノ權ナカル可シト雖モ日本管内ニ於テ之ヲ犯セシ時ハ其所犯ノ場所ノ故ヲ以テ内外國人ノ別ナク都テ日本裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルノ權アル可シ之ニ反シテ若シ遠洋ニ於テ其劫掠ヲ爲シタル時ハ之ヲ裁判スルノ權ハ其海賊ヲ捕獲シタル國ニ屬スルナリ何トナレハ海上警察ハ都テ海賊ヲ見出シタル國ノ船艦ニ屬スル、近世萬國公法ノ原則タルハナリ

又第一ニ海賊ノ襲ニ遇フタル船舶日本ノ船タルカ若クハ外國ノ船タルカテ區別スルニ及ハザル事モ同シク海上警察ノ權ニ由ル所ナリ  
其刑ニ至テハ本法之ヲ犯罪ノ輕重及ヒ犯者中ノ各人其犯罪ニ加功シタル度ニ照シテ差等ヲ立テリ

此第一條ノ區別ハ本法ニ於テ謀反及ヒ一揆ニ關シテ爲シタル所ノ區別ニ同シ故ニ該船ノ司令長及ヒ艦船者又ハ該船ノ所有者若クハ該船ヲ借りテ海賊ノ所業ヲ行ハンガ爲メ之ニ武器ヲ備ヘ諸人ヲ乗組マシメタル者ヲ其最モ重キ者ト爲シ其他ノ士官即チ該船ニ於テ威權行フタル者ヲ其次ト爲シ而シテ尋常ノ乗組人ハ發言ノ權ナキニ依リ道德上ヨリ論スレハ罪ノ輕キヲ以テ之ヲ第三ト爲セリ

此三等ノ罪人ニ對シテ記シタル刑ハ陸地ニ於テ犯シタル強盜ノ刑ニ比スレバ更ニ重キモノトス

其船舶ヲ沒收スルニ常律上ノ規則ニ適スルモノナリ何トナレバ其船舶ハ乃チ犯罪ノ器械タルハナリ

然レモ本法其沒收ヲ明記セサルヲ得ザル所以ニアリ先ツ第一ニ尋常ノ場合ト異ナリテ此沒收ノ重大ナルガ爲メナリ又此沒收ハ該船中ニ在ル所ノ諸物件ニ之ヲ及ボスガ故ナリ實ニ法律ノ眼ヲ以テ之ヲ觀レハ該船中ニ在ル所ノ諸物件ハ其犯罪ノ器械或ハ其犯罪ノ所獲タルモノナレバナリ

○第二條

若シ一人又ハ數人ヲ殺害シタル時直接ニ其殺害ニ加功シタル諸人之ヲ命令シタル者及ヒ之ヲ制止スルヲ得テ制止セザル船長ハ死刑ニ處ス

其他ノ士官ハ無期ノ徒刑ニ處シ乗組人ハ都テ有期ノ徒刑ニ處ス

本法海賊ノ犯シタル殺人罪ヲ死刑ニ處スルニ於テ一ハ殺人罪ノ常律ニ適スルモノアリ一ハ常律ヲ雖ル、モノアリトス

其殺人罪ヲ犯シ若クハ命令シタルカ故ニ恰モ盜奪ヲ遂ケ易カラシメ若クハ其刑ヲ免カル、ヲ目的ト爲シタル殺人罪ノ罪人ト成リタル者ニ對シテハ常律ニ適スルモノナリ又殺人罪ヲ命令シタルトナシト雖モ之ヲ制止スルヲ得テ制止セザリシ事ノミヲ以テ死刑ニ處セラル、所ノ船長ニ關シテハ常律ヲ離ル、モノナリ蓋シ船長ハ都テノ乗組人ニ對シテ殆ト無限ノ權ヲ有スルガ故ニ其制止セザリシ事ハ命令シタルトテ看做スヲ得レバナリ

○第三條

前二條ニ記載シタル重罪着手ニ止リタル者ハ其各本條ニ記スル所ノ刑ニ照シテ一等或ハ二等ヲ減ス但シ前條ニ記スル船舶等ノ沒收ニ觸ル、コナカル可シ

茲ニ又本法ハ常律上ノ重罪ニ比スレバ更ニ其刑ヲ嚴ニセリ常律上ノ重罪ハ着手ニ止マリ

ル場合ニ於テハ二等或ハ三等ヲ減シテ之ヲ罰スレハナリ  
茲ニ其刑ヲ嚴ニシタルノ目的ハ次條ニ記スルカ如キ唯犯罪豫備ノ行爲ニ止マリタル場合ニ  
於テ尙ホ頗ル重刑ヲ科スルノ餘地ヲ存センカ爲メナリ

○第四條

凡ソ船舶ノ保安ノ爲メニ必要ナル員數ヲ超過シ且ツ其種類ニ勝レル兵器ヲ備ヘタル日本  
若シハ外國ノ船舶ニ乘リ其政府ノ旅券及ヒ合規ノ委任狀ヲ有スルコトナク航海スル者ハ海  
賊罪豫備ノ行爲ヲ犯セル者ト看做スヲ得可ク而シテ此罪事ノミヲ以テ左ノ如ク之ヲ處斷  
ス

第一 艦船者及ヒ船長ハ重懲役ニ處シ百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ科ス

第二 其他ノ士官ハ輕懲役ニ處シ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科ス

第三 乗組人ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科ス  
本條ハ第百五十四條ノ二ト類似スルヲ以テ須ラク之ヲ該條ニ近接ス可キナリ

第百五十四條ノ二ニ於テハ政府ノ允許ヲ受ケスシテ外國ニ對スル陸海軍ノ遠征ニ用ヒ若ク  
ハ用ヒントシタル兵備ヲ罰スルナリ此罪事ハ國事犯ニ屬スルモノニシテ且ツ其同時ニ海賊  
罪ノ性質タル所業ヲ爲シタルコト非レハ海賊罪ノ所業ト爲ルモノニ非ス  
茲ニ論スル所ノ條ニ於テハ其備ヘタル兵器ノ用方ハ別段定マリタルモノニ非ス或ハ第百五

十四條ノ二ノ場合ニ於ケルト同一ノ事ニ之ヲ用ユルヲ得又或ハ海賊ノ所業ヲ企テタル豫備  
ノ行爲タルコトヲ得ルナリ

本法ニ於テハ毫モ裁判所ニ決定ヲ命スルコト非ス裁判所ニ於テ海賊罪豫備ノ行爲タルモノト  
宣告スルヲ得可シト言ヘルノミ若シ之ニ反スル場合ニ在テハ裁判所ニ於テ第百五十四條ノ  
二ニ記シタル犯罪豫備ノ行爲タルコトヲ看認ム可シ

又茲ニ論スル所ノ條ニ於テハ巨額ノ罰金ヲ科ス元來法律上ニ於テ重罪ニ對シテ罰金ヲ科ス  
ルハ稀ナリト雖モ然レモ本條ハ貧欲ヨリ起リタル犯罪ニ關スルモノニシテ且ツ一般ニ多少  
大ナル金高チ動カス者ノ犯セル所ナリ故ニ其財産ニ付テ之ヲ罰スルコト至當ニシテ又有益ナ  
リ尤モ海賊罪ノ既遂又ハ着手ノ場合ニ於テハ罰金ヲ科セサルニ其豫備ノ行爲ニ在テ罰金ヲ  
科スルヲ見テ或ハ怪ム者アル可シト雖モ此差別アル所以ハ既ニ遂ケタルカ又ハ着手シタル  
海賊罪ノ場合ニ於テハ其船舶ノ沒收ヲ爲スト雖モ豫備ノ行爲ノ場合ニ於テハ其沒收ヲ爲サ  
ルニアリトス

○第五條

凡ソ情ヲ知テ艦船者若クハ船長ノ爲メニ該船ノ保險ヲ爲シ又ハ該船ヲ賃貸シ若クハ之ニ  
其金ノ爲メ資金ヲ貸シタル者ハ前數條ニ記載シタル區別ニ從ヒ該犯ノ附從ト看做シ以テ  
處斷ス

本條ニ論スル所ノ者ヲ海賊罪ノ附從ト宣告セシムルニハ第二百二十二條ノ一般ノ原則ヲ以テ是レリトス然レモ斯ノ如キ異常ノ事項ニ關シテハ立法者之ヲ明記セサル可カラスト信シタリ  
其海賊罪ノ企ニ付テ船舶ヲ賃貸シタル者ハ第一條ノ尾項ニ倣フテ其船ヲ沒收セラレヘシ

○第六條

遠洋ニ於テ犯シタル海賊罪ノ處分ハ日本人ニ對スルモハ勿論日本船艦ニテ捕獲シタル外國人ニ對シテハ本案總則ノ第五條ニ要スル所ノ條款ヲ遵守スルコトナク日本ニ於テ之ヲ爲ス可シ但シ該犯未タ外國ニ於テ終審ノ處斷ヲ受ケサルヲ要ス

日本管外ニ於テ犯シタル重罪ヲ日本ニ於テ裁判スル事ニ付キ本案總則ノ第五條ニ記スル所ノ條款ハ定マリタル外國管內ニ於テ其重罪ヲ犯シタル場合ニ關スルモノナリ然レモ本條ニ論スル重罪ハ遠洋ニ於テ犯シタルモノナルガ故ニ毫モ定リタル外國ノ裁判ニ之ヲ付ス可ラズ故ニ此第五條ノ條款ヲ遵守スルコト能ハザル可シ

然レモ其海賊ヲ捕獲シタルノ故ヲ以テ裁判スルノ權ヲ有スル外國ニ於テ既ニ其海賊ノ所斷ヲ爲シタルコトアル可シ此場合ニ在テハ日本ニ於テ再ヒ之ヲ裁斷スルヲ得ザル可シ加之本論ノ生スル所以ハ初ヨリ人ノ解セサル所ナリ何トナレハ若シ既ニ外國ガ其海賊ノ捕獲者タル時ハ日本ハ其捕獲者タルヲ得ザレハナリ然レモ其捕獲セラレタル海賊日本人タル

時ハ日本ニ於テ缺席ノ儘之ヲ裁判セントスルコトアルモ知ル可ラズ然リト雖モ其海賊未タ外國ニ於テ處斷ヲ受ケザリシ時ノ外日本ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得ザル可シ

○第二節 奴隸賣買及自由人ヲ賣ル事

奴隸賣買ハ常ニ奴隸ヲ驅役スルノ制ヨリ起リシモノナリ凡ソ此惡ムベキ制ヲ認可シタル諸國ニ於テハ奴隸ノ所有者ニ其奴隸ヲ賣ルコトヲ許シ奴隸ヲ有セザル者若クハ更ニ多ク奴隸ヲ有セント欲スル者ニ之ヲ買フコトヲ許サザルヲ得ザリキ

抑々奴隸ノ賣買ヲ其國中ニ限リテ之ヲ他國ニ及ボサリマシ間ハ奴隸ノ驅役ノ外他ニ毫モ其賣買ノ爲メ不便ヲ生セシコトナクシテ奴隸ノ身體及ヒ道義上ノ有様ハ是レガ爲メ必スシモ更ニ惡シク成リタルニ非ラヌ何トナレハ其奴隸ハ更ニ惡シキ持主ノ手ニ移ルノ危險アリシト雖モ亦更ニ善良ナル持主ニ遇フコトヲ得レハナリ

然レモ海ヲ經テ奴隸ノ賣買ヲ爲セシニ至テ惡ムヘキ事ト成リタリ南北兩亞米利加ノ發見ノ後西班牙人及ヒ葡萄牙人ハ爰ニ廣闊ナル奴隸殖民地ヲ創立シ以テ大ニ増進シテ人類ノ賣買ニ從事シタリ

此二國人ニ亞弗利加ノ西方海岸ニ於テ黑奴ヲ買入レ最モ殘忍ナル取扱ヲ以テ之ヲ亞米利加ニ搬運シタリ其取扱ハタルヤ之ヲ空氣ナキ船中ニ堆積シ鍵ヲ以テ之ヲ繋キ纜カハ食物ヲ與

へ而シテ若シ聊カ抵抗ノ舉動アルニ於テハ極メテ之ヲ虐待シ或ハ之ヲ死ニ致シタリ  
且ツ夫ノ如ク賣買セラレタル人類ハ生レナガラ奴隸タルモノニ非ス亞弗利加諸種族ノ  
戰爭中ニ捕ヘタル俘虜ナリ而シテ其諸種族ノ長ハ爾來必ス其俘虜ヲ賣ルコトヲ得ルカ故ニ  
尙ホ一層互ニ相激スルニ至リタリ  
千七百年代ノ未年中理學士等此惡ムヘキ貿易ヲ駁シテ寛仁公止ノ激論ヲ吐キ或ハ此不幸ナ  
ル奴隸ノ艱難ヲ誌シタル最モ傷心スヘキ書ヲ作レリ又國民會議ニ於テ佛國藩屬地ノ奴隸驅  
役ヲ廢スルノ論ニ頗ル與カツテカアリタル「ミラボウ」氏ノ感ズベキ演説アリタリ  
其後驅役ヲ脱レタル黒奴不幸ニシテ白人種ニ對シ一揆ヲ起シテ復讐ヲ爲シタルニ依リ再ヒ  
舊制ヲ復スルニ至リタリ而シテ佛國ニ於テ愈々其藩屬地ノ奴隸驅役ヲ廢シタルハ漸ク千八  
百四十八年ニ至リ第二共和政府ニテ之ヲ爲シタルナリ  
然レ英國ニ於テハ諸國ニ先ツテ從來既ニ久シク海ヲ經テ黒奴ヲ賣買スルヲ禁セントスル寛  
仁ナル企テ爲シ諸國ノ商船ニ就テ視察ノ權利ヲ掌握シ以テ奴隸ヲ運送スル諸船ヲ差押ヘ其  
奴隸ハ本國ニ送還シ又ハ屢々英ノ領地ヘ護送シテ其地ニ於テ自由ノ生活ヲ得セシメタリ佛  
國モ亦頗ル重大ナル爭論ノ後遂ニ英國ト共ニ此寛仁ナル企業ニ加ハリ爾來黒奴ノ賣買ハ殆  
ト全ク其跡ヲ絶チタリ  
兩亞米利加洲ニ於テモ奴隸ノ驅役漸次消滅セントセリ故ニ千八百年代ノ未ニ至ラザル前ニ

全地球上其跡ヲ絶ツ可キトハ我儕ノ希望シ得ル所ナリ  
英佛ニ於テハ海上警察ノ權利ヲ以テ黒奴ノ商船ヲ差押ユルト同時ニ又内國ニ於テ自國ノ人  
民中黒奴ノ海上貿易及ヒ其運送ニ從事セル者ヲ罰スルノ法律ニ設ケタリ  
佛國ニ於テ此件ニ關スル第一ノ法律ハ千八百二十七年ニ係レリ其後千八百三十一年三月四  
日ノ法律ヲ以テ之ニ代ヘタリ  
日本ニ於テモ此人心ノ向フ所ニ與ミスルヲ解ル可カラズ必ス奴隸驅役ヲ非トスル黨タルコ  
トヲ表スルノ榮譽ヲ保ツ可キナリ且ツ日本ハ未タ曾テ自國ニ於テ奴隸ノ驅役ヲ許サ、リシ  
所ナリ

日本ノ舩船西洋諸國ノ船船ノ如ク海上ヲ往來スルノ今日ニ在テハ日本ノ國旗ヲシテ一ハ斯  
ク惡ムヘキ貿易ヲ決シテ保庇セサルモノトシテ尊敬セラレ一ハ他國ニ在テ此貿易ヲ遏制ス  
ルモノトシテ尊敬セラレシムルコト必要ナリトス  
日本ハ既ニ有名ナル「マリニア」事件ニ於テ眞ノ成蹟ヲ表シタリ此事件ニ於テ(若シ余  
ヲシテ誤謬ナカラシメハ)日本ハ大ニ奴隸賣買ニ類似セシ取扱ヲ以テ白露國ヘ向ケ乘船セシ  
メラレタル支那人ニ自由ヲ與ヘタルナリ是レカ爲メ永キ仲裁、裁判ノ後遂ニ日本ハ近世ノ萬  
國公法ニ倣フテ處分シタルモノト宣告セラレタリ  
元老院ニ於テハ解シ難キ旨趣ノ爲メニ削除シタル左ノ語則テ刑法中ニ復、ルヲ以テ榮譽ト

セラル可シ是レ余ノ罔信スル所ナリ  
本節ノ標題ニ之ヲ示スカ如ク本法ニ於テハ奴隸ノ賣買罰スルノミナラス又自由人ヲ賣ル者  
ヲ罰スルナリ

○第一條

凡ソ日本人本國若クハ外國ノ船ニテ航海シ而シテ某國ニ於テ奴隸ヲ買ヒ以テ海上之ヲ運  
輸シテ他國ニ於テ之ヲ再賣スル爲メ奴隸賣買ニ從事シタルノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ如ク  
處斷ス

第一 賊船者船長該船ノ諸士官及ヒ都テ其金ノ首魁及ヒ黨類ハ重懲役ニ處シ百圓以上  
千圓以下ノ罰金ヲ科ス

第二 都テ乗組人若クハ其金ニ用ヒラル、者ハ輕懲役ニ處ス

本法玆ニ論スル所ハ奴隸賣買ノ刑ニ關スルノミニシテ彼ノ國際政略上ニ屬スル所ノ臨船視  
察ノ權即チ海上警察ノ權ヲ論スルニ非ス讀者先ツ主トシテ之ヲ注意セヨ

是レ本條ノ明文ニ於テ先ツ主トシテ該犯ノ日本人タルコトヲ想像シタル所以ニシテ外國人  
犯罪ヲ犯シタルノ場合ハ後ニ之ヲ論スルナリ然レモ此場合ニ於テハ本法及ヒ日本裁判所ニ  
テ裁判スルノ旨趣ト成ル爲メ日本ノ港ニ於テ其罪ヲ犯シタルコトヲ想像スルナリ  
故ニ遠洋ニ於テ奴隸ヲ船載シタル外國人ヲ襲ヒシ時日本ノ船舶ハ該船ヲ差押ヘ其奴隸ヲ自

由國ヘ護送スルヲ得ヘシト雖モ其權利爰ニ止マルヘシ  
本條ニ據レハ奴隸ノ賣買ハ本條ニ明示スル左ノ性質ヲ表スル時ノ外之ヲ罰スルヲ得可カラ  
ス

第一 某國ニ於テ奴隸ヲ買入レタル事

第二 其買者ノ目的ハ他國ニ於テ其奴隸ヲ再賣スルニアリタル事

第三 其再賣ニ付テハ海ヲ經テ運輸スルヲ要スル事

是ノ故ニ奴隸國ニ於テ奴隸ヲ買ヒ以テ同國ニ於テ之ヲ再賣スル爲メ加之海上運輸スルコト  
ク近國ニ於テ之ヲ再賣スル爲メ奴隸賣買ニ從事シタル者ハ本法ヲ適用ス可カラサルベシ此  
第一ノ場合ニ於テハ縱令ヒ其所爲ハ道德上ニ於テ罰ス可シト雖モ是レカ爲メ奴隸ノ有様ヲ  
加重スルモノニ非ス當ニ奴隸國ニ於テ之ヲ爲スニ依リ奴隸其持主ヲ變スルノ故ヲ以テ其有  
様ヲ變スルニ非ス故ニ此惡ムヘキ賣買ノ取次人ノ所爲ハ毫モ所有者自カラ爲シ得キ所ニ  
異ナラサルナリ又此第二ノ場合ニ於テハ此國ヨリ彼ノ近國ヘ奴隸ヲ移ラシムルモノニシテ  
是レ亦畢竟同一ノ景狀ナリトス蓋シ其二國共ニ奴隸ノ驅役ヲ許スカ故ニ其取次人ハ自カラ  
奴隸ヲ賣ル所ノ所有者ガ生シ得ルヨリモ更ニ大ナル害ヲ生セサレハナリ  
之ニ反シテ海ヲ經テ此國ヨリ彼國ヘ奴隸ノ運輸ヲ爲ス時ハ此害アル奴隸驅役ノ制大ニ弘マ  
ルナリ何トナレハ之ヲ賣ル所ノ國ニ於テハ其奴隸賣捌ノ手段ヲ得ルガ故ニ戰爭ヲ爲シ停邊

ヲ獲テ以テ奴隸ノ數ヲ増サントスベキナリ  
 其他運輸ノ爲メニ奴隸ノ身體ノ有様ヲ加重スベシ何トナレハ運輸ニ依テ費用ヲ生スルカ故  
 ニ之ニ與フル食物及ヒ居室ニ就テ頗ル吝嗇ヲ極メテ以テ運輸ヲ爲ス可ケレハナリ是レ屢々  
 航海中奴隸ヲ死ニ致スモノナリ且ツ奴隸ノ船中ニ於テ暴動ヲ爲サンコトヲ恐ル、ガ故ニ殆  
 ト常ニ鍵ヲ以テ之ヲ繫グニ依リ殊ニ其運輸ヲ爲セル地方ノ炎熱ヲ想像セバ一層其艱難ナル  
 有様ヲ加重スルナリ是レ即チ本法ニ禁スル奴隸賣買ノ眞ノ性質ナリトス且ツ犯人日本人タ  
 ル時ハ其船ニ日本ノ國旗ヲ揚ルガ若クハ外國ノ國旗ヲ揚ルカテ論スルニ及ハサルナリ加之  
 其犯人必スシモ日本人クルヲ要スルニ非ス何トナレハ後ニ論スルガ如ク犯人外國タリトモ  
 日本ニ於テ其罪ヲ犯シタル時ハ同シク之ヲ罰スルヲ得レハナリ  
 然レ奴隸國タルニ非サル日本ニ於テ其罪ヲ犯セシコトヲ了會センニハ須ラク奴隸賣買ノ罪  
 ヲ犯シタル外國人日本ノ港ニ碇泊シタルカ若クハ後ニ論スルカ如ク日本ノ港ニ於テ自由人  
 ヲ買フタルコトヲ想像ス可キナリ  
 本條ニ記スル所ノ刑ハ常律上ノ刑ニシテ國事犯ノ刑ニ非ザルナリ實ニ此犯罪ハ毫モ國事犯  
 ノ性質アルニ非ス全ク人身ハ對スル常事犯ノ惡ムベキ性質アレハナリ  
 此企ノ首魁ト尋常乗組人トノ間ノ區別ハ全ク自カラ然ラサルヲ得サルモノニシテ之ガ證明  
 ヲ要セサルナリ

○第二條

一人若クハ數人ノ奴隸ヲ殺害シ若クハ故ラニ打撃毀傷シタル時ハ之ヲ爲シタル者之ヲ命  
 令シタル士官及ヒ之ヲ制止シ得テ制止セザリシ船長若クハ首魁ハ此重輕罪ノ常刑ニ處ス  
 本條ニ論スル所ノ刑ハ奴隸賣買ノ本刑ヨリモ更ニ此刑ノ重カル可キ時ノ外之ヲ適用ス可ラ  
 ス故ニ殺害ニ付テノ外此刑ヲ適用スルノ場合アラサル可シ何トナレハ打撃毀傷シタルニ付  
 テハ輕懲役ヨリ重キ刑ヲ科スルコト稀ニシテ多クハ之ヨリ輕キ刑ヲ科スレハナリ  
 殺害及ヒ暴行ヲ制止セザリシ船長ノ責任ハ既ニ前節海賊罪ニ於テ明記スル所ニシテ又之レ  
 ガ證明ヲ要セサルナリ

○第三條

凡ソ日本人日本若クハ外國ノ港ニ於テ情ヲ知テ奴隸賣買ニ用ユル船ノ修理其糧食ノ充備  
 若クハ其船ヲ航海シ得ヘキ景狀ト爲ス事ヲ取扱ヒ又ハ加功シタル者ハ奴隸賣買預備ノ行  
 爲ノ犯罪人ト看做シ左ノ如ク處斷ス  
 第一 船艙者船長及ヒ該船ノ諸士官ハ六月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓  
 以下ノ罰金ヲ科ス  
 第二 都テ乗組人并ニ職工及ヒ辨備人ハ四月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上二  
 十圓以下ノ罰金ヲ科ス

本法ニ於テ若シ明ニ此預備ノ行爲ヲ科罰セザレハ之ヲ罰スルコトヲ得サルヘシ何トナレハ凡ソ重罪若クハ輕罪ノ預備ノ行爲ハ十分ニ定リタル輕罪ヲ表スルノ性質ナキニ於テハ之ヲ罰スルヲ得サルノ規則タレハナリ

然レ本條ノ如キ場合ハ十分確實ニ此罪スヘキ企ノ預備ヲ表スルモノト看認ムルヲ得且ツ本條十分ニ此性質ヲ有スベキ行爲ヲ明記セリ

此刑ハ必スシモ輕カラサルヲ得ス是レ輕罪ノ刑タレハナリ

然レ茲ニ論スル所ノ行爲ハ輕罪ト看做ス可カラズ此點ニ付テハ既ニ其理由ヲ説明シタルカ如ク重罪ノ着手及ヒ其預備ノ行爲ハ禁錮ヨリ重キ刑ニ處スルヲ得ズト雖レ其罪ハ尙ホ着手又ハ預備ヲ爲シタル重罪タレハナリ

是ノ故ニ重罪裁判所ニ於テ之ヲ裁判スベキナリ

○第四條

凡ソ情ヲ知テ艤船者及ヒ船長ニ其船ノ保險ヲ爲シ又ハ其船ヲ貸貸シ若クハ之ニ其企ノ爲メ資本ヲ貸シタル者ハ艤船者及ヒ船長ノ附從ト看做シテ之ヲ所斷ス

本條ニ論スル者ノ附從タルノ性質ヲ認メシムルニハ附從罪一般ノ原則ヲ以テ足ルヲ得ヘシ

然レ此點ニ論スル如キ特別ノ事項ニ在テハ本法其附從ニ付テ説明スル事裁度ヲ得タリトス且ツ其船ノ保險ヲ爲セルノ場合ニ至テハ若シ本法之ヲ明記セサル時ハ或ハ疑ヲ生ス可ケレ

バナリ

○第五條

凡ソ日本人奴隸驅役ヲ准許スル國ニ於テ奴隸トシテ自由人ヲ賣リ若クハ之ヲ賣ランカ爲メ本人ノ承諾ナクシテ之ヲ其國へ運送セシメタル者ハ有期ノ徒刑ニ處シ百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ科ス

其十二歳以下ノ幼者ニ關スル時ハ此最上限ヲ科ス

本條ニ論スル所ノ罪事ハ奴隸ヲ賣リタル罪ヨリモ尙一層重キ者トス奴隸賣買ニ在テハ之ヲ爲シタル罪人ハ其賣ラル、者ノ身分ヲ變スルニ非スシテ唯其身分ヲ倍々惡カラシムルノ媒介ヲ爲スノミ

然レ自由人ニ關スル時ハ其自由ヲ失ハシムルモノナリ

固ヨリ法律上ヲ以テ論スレハ此賣買ハ其効ナキモノニシテ其買者ハ假令ヘ本人承諾スト雖レ自己ノ自由失フ可カラサル自由人ノ所有主ト成ルヲ得サルヲ疑ヲ容レサル所ナリト雖レ若シ奴隸國ニ於テ之ヲ爲ス時ハ奴隸トシテ賣ラレタル自由人ノ其自由恢復スルコト甚タ難

カルベクシテ多シハ其自由人タル證據ヲ失フベシ而シテ自由人奴隸トシテ所有セラレハ其眞ノ身分ハ固ヨリ奴隸タルモノト思置セラルベシ

奴隸ノ驅役ヲ許セシ羅馬法制ニ於テ此件ニ關シ甚タ緊要ナル許多ノ決定ヲ遺留セリ是レ探



テ以テ原則トス可キ所アリ

若シ其賣ラル、者十二歳以下ノ幼者タル時ハ其危険尙最モ大ナリトス蓋シ幼者ハ其舊身分ヲ曉ル爲メ猶未タ十分ニ道理ト實驗ヲ有セサルヲ以テ本國ノ隔絶スルト歲月ノ久シキトニ依リ其紀念ヲ失スル時ハ舊身分ノ證據ヲ供スルヲ得ザレバナリ

又幼者ニ關シテハ外國へ運送スルコトヲ承諾スト雖モ其效ナカル可クシテ賣者又ハ買者之ヲ以テ其運送ノ罪ヲ辨解スルヲ得サル可シ且ツ幼者ノ兩親ノ承諾ト雖モ同シク其效ナカル可キナリ何トナレハ兩親ト雖モ幼者ニ關シテ斯ノ如キ權ヲ有セサレハナリ

本法ニ於テハ自由人ヲ買フモ之ヲ奴隸國へ運送シタルコトナキ者ニ刑ヲ科セサルナリ買者ナクテ賣買成ル可カラズト雖モ買者ヲ以テ此行爲ノ共犯ト信ス可カラサルナリ若シ之ヲ共犯ナリトセハ賣却ヲ禁シタル物件ノ買者ヲハ悉ク其犯トシテ論スルニ至ルベキ危険ノ原則ヲ立ルモノト謂フ可シ

若シ自由人ヲ買フタル者ヲ其賣者ノ如ク罰ス可キ時ハ本法其旨ヲ明記セシムバアル可カラズ

然レモ本法之ヲ明記セサルナリ何トナレハ買者ノ之ヲ買フハ保護ト仁慈ノ意ヨリ起ルコトアルベケレハナリ元來奴隸國ニ於テ爲セル賣買ニ關スルカ故ニ買者ノ目的ハ眞ノ持主タル取扱ヲ爲スベキ他ノ買者へ自由人ノ賣渡サル、ヲ救ハンガ爲メニスルコトアルベシ

○第六條

本節ニ記シタル刑ハ日本ニ於テ同罪ヲ犯シタル外國人ニ之ヲ適用ス

此規則ハ都テ外國人ニ關スル諸則ノ如ク治外法權ノ制ヲ廢シタル上ニテ實施スルモノトス且ツ外國人ニ關スル時ハ其罪事ヲ日本ニ於テ犯シタル時ノ外日本ノ法律ヲ以テ之ヲ罰スルヲ得ズ是レ宜シク注意スベキコトナリ

○第七條

外國ニ於テ本節ニ記スル罪事ヲ犯シタル日本人ノ處置ハ外國政府ヨリ公然ノ告發ナク其他本案總則ノ第五條ニ要スル條款ナキモ日本ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

奴隸賣買若クハ自由人ヲ賣ル所爲ハ奴隸國ニ於テ爲シタルモノト想像ス可キガ故ニ其罪人ヲ日本ニ於テ處置スル爲メニ該地政府ノ告發ヲ要スルヲ得ベカラズ此所爲ハ該政府ヲ以テ之ヲ觀レハ罰ス可キ事ニ非サルガ故ニ該政府ハ之ヲ告發セサル可シ

加之外國ニ於テ之レカ終審ノ裁判アリタル場合ヲ除クコトヲ得サルナリ何トナレハ其裁判ハ決シテ之レアル可カラサレバナリ

○第八條

第一條ニ記シタル奴隸賣買ノ場合ニ於テ其船舶若シ日本法律ヲ以テ裁判ス可キ者ニ屬スル時ハ其附屬具并ニ其船中ニ在ル所ノ貨物ト共ニ之ヲ沒收スベシ

本條ハ直チニ第一條ノ後ニ置シコトヲ得ベシ實ニ其沒收ハ唯奴隸賣買ノ爲メ修理シテ用意シタル船并ニ奴隸トシテ賣リ若クハ賣ラントスル一人又ハ數人ノ自由人ヲ運送シタル船ニハ之ヲ適用セサレハナリ

○第四章 公ケノ靜謐ヲ害スル重罪輕罪

本按ハ此總稱中ニ頗ル許多ノ犯罪ヲ聚記セリ此犯罪ノ普通ノ性質ハ官憲ヲ蔑如シ以テ官憲ニ於テ主トシテ保護セントスル所ノ平穩ヲ妨害スルニ外ナラザルナリ

本章ニ論スル所ノ重罪輕罪ハ國ノ内部ノ安寧ヲ害スル重罪輕罪ニ連續スルモノ、如シ然レモ一般ニ之レヨリ其罪ノ輕キ事ハ本章中八節ノ標題ヲ通觀シテ知ルチ得ヘシ

○第一節 往來通信ノ路ヲ毀壞損傷スル罪

○第百五十八條 故意ヲ以テ道路橋梁堤防若クハ河溝ヲ毀壞損傷シテ往來ノ自由ヲ妨害シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ科ス

何レノ國ヲ問ハス都テ往來通信ノ路ハ上下一般ノ爲メニ甚々貴重ナルモノトス何トナレバ政府及ヒ諸官署ニ於テ監察ヲ執行シ命令ヲ傳フルハ往來通信ノ路ニ依ル所ニシテ又人民ニ在テ各自ノ利益各自ノ感情ノ爲メニ相ヒ交通スルモ亦之ニ依ル所ナレハナリ  
本邦ニ於テハ他國ヨリモ更ニ往來通信ノ路ヲ保護シテ都テ其妨害ヲ防カサル可カラス何トナレハ本邦往來通信ノ路ハ過多ナルヨリモ寧ろ不足ナリト謂フ可ケレハナリ

此第一條ニ於テハ故意ニ出タルノミナラス其目的當ニ往來ヲ妨害スルニアリテ通路ヲ損壞シ以テ往來ヲ不通ニ致シタル事ヲ想像セル者ナリ故ニ私有地ノ水流ヲ便ナラシメ若クハ私有地ニ爲セル工業ノ執行ヲ便ナラシムルヲ目的トシテ故ラニ通路ニ工ヲ起シ爲メニ圖カラズ道路ヲ損壞シ若クハ河川ヲ妨害スルニ至リタル時ハ行政上ノ處分ニ屬スヘシ又違警罪ノ罰ニ處スルヲアル可シト雖モ本條ヲ適用スルヲナカル可シ  
本條ニ記載スル通路中ニ鐵道アラザルヲ宜シク注意スヘシ鐵道ニ付テハ更ニ嚴ナル別段ノ規則ヲ設ル所ニシテ後ニ之ヲ見ルヘシ

○第五十九條 偽計威力若クハ脅迫本按ノ明文ニ此二字ヲ追加セリ以テ郵便ノ事務ヲ妨害シ又ハ之ヲ阻止シタル者ハ前條ノ刑ニ處ス

郵便事務ノ緊要ナルハ極メテ大ニシテ假令道路ヲ損壞セシトナシト雖モ該事務ヲ妨害セシ時ハ本法之ヲ道路ヲ損壞シタルト同一ノ刑ニ處スルニ至レリ  
斯ノ如キ場合ニ於テ偽計トハ偶然ノ事ニ依テ尋常ノ通路絶ヘシ旨ヲ偽ツテ郵便脚夫ニ信セシメ以テ迂路ヲ取ラシメ若クハ其事務ヲ遲滯セシムルヲ云ヘシ  
本按ノ明文ニ於テハ偽計又ハ威力ヲ以テセシトヲ言ヘルノミ故ニ脅迫ヲ明記セサレハ恐ラカハ之ニ脅迫ヲ入ラシムルヲ得サルヘシ故ニ脅迫ヲ之ニ明記セント欲スルナリ  
但シ郵便事務ヲ阻止セシ時間ノ長短如何ヲ區別スルニ及ハサルナリ

○第六十條 惡意ヲ以テ電信ノ柱木ヲ拔倒毀壞シ又ハ電信局ノ器械ヲ損壞シタル者ハ六月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科ス

唯電信線ヲ絶チ若シハ其通信ノ妨害ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス  
電信ノ器械ハ公務中他ノ諸器械ニ比スレハ罪スヘキ所業ニ遇フ居多ナリ何トナレハ多ク  
ハ人ノ往來稀ニシテ人家ナキ地ニ之ヲ設レハナリ此器械ヲ毀壞損傷スル者ハ其所爲公ケノ  
信用ヲ欺テ以テ道德上ニ背キ又甚タ緊要ナル公務ヲ缺カシメテ以テ社會ノ公益ヲ害シ併セ  
テ更ニ費用ヲ生スル監察ヲ要セシムルモノナリ

本法ハ電信器械ノ總體中損壞シタル部分ノ間ニ刑ノ等差ヲ立テリ柱木若クハ通信發受ノ器  
械ヲ損壞シタル時ハ唯條線ヲ絶チタル時ヨリモ其刑更ニ嚴ナリ其旨趣ハ第一ノ場合ニ於テ  
ハ第二ノ場合ニ於ケルヨリモ修復ノ時間長フシテ且ツ更ニ難ケレハナリ

本法ニ於テハ條線ヲ絶チタル事ノ外又他ニ通信ノ妨害ヲ論セリ蓋シ電信線ニ鐵線ヲ懸ケ之  
ヲ地中ニ埋メ以テ電氣ヲ地中ニ移シテ通信ヲ妨ルノ所爲アルコトヲ想像スルヲ得レハナリ  
○第六十一條 惡意ヲ以テ鐵道ノ線路又ハ其標識ヲ毀壞シ若クハ何ノ手段ヲ以テスルチ問  
ハス瀛車ヲシテ線路外ニ軌出セシメ又ハ衝突セシメ若クハ其他重大ナル災害ニ遇ハシメ  
タル者ハ重懲役ニ處ス

本條ニ論スル所爲ハ其刑ノ性質ニ於テ之ヲ示スカ如ク重罪タルナリ實ニ此所爲ノ社會公益  
ヲ害シ道德上ニ背ク事ハ十分ニ重ヲ加フレハナリ

鐵道ハ其運輸器械ノ勢力ト其用ニ依テ一齊ニ許多ノ人命ヲ害シ得ルモノタ  
レバ惡意ヲ以テ瀛車ヲ重大ナル災害ニ遇ハシムル者ハ縱令其災害到ラサル時ト雖モ重罪ヲ  
犯セルナリ  
本條暗ニ示ス所ノ第一ノ注意ハ此犯罪ハ遂ケザリシモノ又ハ着手ニ止マリシモノニシテ既  
遂犯罪タルニ非スト見ユル事ニアリ然モ是レ誤見ナリトス

本法ニ於テハ他ノ點ヲ以テ觀察スレバ更ニ重キ重罪ノ着手トスルヲ得可キ所爲ト雖モ之ト  
全ク異ナレル別段ノ重罪ノ名稱及ヒ性質ヲ歸スルヲ得ルナリ  
抑々刑罰ノ須要ナル基礎中ノ一タル社會公益ノ損害ハ唯社會ニ於テ受ル處ノ危險ノミヲ以  
テ成立チ得ルヲ許セハ是レ本案總則ニ定即チ其危險ヲ以テ更ニ重キ實害ノ着手ノ性質ト  
スルニ及ハサルナリ唯社會ニ危險ヲ受ケシムルニ過キサルノ所爲ト雖モ本法之ヲ既ニ遂ケ

タル重罪又ハ輕罪トシテ罰スルノ場合太ク多シ故ニ兇器ヲ携帯スル者及ヒ住居ナクシテ諸方  
ニ徘徊スル者如キハ其社會ニ受ケシムル所ノ危險ノ外社會ノ損害アルニ非ラスト雖モ次節  
ニ於テ之ヲ既遂輕罪トスルヲ見ルヘシ  
又次ニ多ク此他ノ場合ニ際會スヘシ例ハ刑事ノ被告人ヲ曲庇シ若クハ之ヲ陷害スル爲メ  
偽證ヲ爲シタル者ハ其偽證ニ反シテ裁判ノ見渡ヲ爲シタル時ト雖モ必ス之ヲ別段ノ輕罪ト

シテ罰スルカ如キ是ナリ  
本條ノ場合ニ於テ若シ眞ノ危険ヲ表スルニ非スシテ現ニ災害ヲ生シタル時ハ該犯ハ其生セシメント欲シタル害ノ爲メ之ヲ罰スルニ非スシテ現ニ生シタル害ノ爲メニ之ヲ罰ス可キト後ニ之キ規定スルカ如シ

本法ハ斯ノ如ク危険ニ遇ハシタル瀛車旅客ノ瀛車タルカ又ハ荷物ノ瀛車タルカニ區別スルニ非ス且ツ之ヲ區別ス可カラサルナリ蓋シ荷物ノ瀛車へ本條ヲ適用スルノ理由二箇アリ第一此瀛車ハ必ス二人以上ノ者之ヲ導クヲ以テ其者ノ生命ヲ危険ナラシムベク第二若シ此瀛車傾覆セシ時ハ僅カニ距離ヲ隔テ、其次ニ來ル所ノ旅客ノ瀛車モ亦傾覆スルカ若クハ其前ニ横ハル所ノ障礙ニ依テ毀壞スルコアル可キヲ以テナリ

尙ホ建築中ノ鐵道ニシテ材料ヲ運輸スル瀛車ニ關スル時ハ此第一ノ理由ノミニ際會スヘシト雖田本條ヲ此場合へ通用スルノ旨趣トスル爲メ此理由ヲ以テ足ルヘシ

其他此罪スヘキ所業ハ鐵道劍設ノ際ニ在テハ稀ナルモノニ非ス蓋シ此迅速ナル通路ハ各自ノ利益ヲ害スルト多ケレハナリ佛國ニ於テモ爰ニ記載セル類ノ罪事ヲ企テタルコトシハ、ナリキ日本ニ於テモ必ス此罪事ヲ生スルコトナシト謂フ可カラス

本法ハ犯罪ニ用ヒタル手段ノ明記セサル者ノミニ限ルニ非ス都テ何等ノ手段ヲモ預見セルコトニ注意スヘキ例へハ鐵道ノ器械ヲ僞用シテ以テ線路ニ障礙アリト雖田其障礙ナキヲ僞

ルノ信號ヲ傳ル如キ是ナリ

○第六十二條 船舶ノ往來ヲ害スル爲メ燈臺浮標其他都テ航海ノ安寧ヲ保護ス可キ標識ヲ毀壞損傷シタル者ハ前條ノ刑ニ處ス

船舶ノ安寧ハ鐵道列車ノ安寧ヨリモ緊要ナルト渺シトセス故ニ本法ハ前條ニ類スル手段ヲ以テ船舶ヲ災害ニ遇ハシムル者ニ對シテ同一ノ刑ヲ科セリ但シ其災害ハ類別多カク可キヲ以テ本法之ヲ預定セスト雖田多クハ船舶ノ暗礁ニ乗上ル事其沈没若クハ其衝突ノ如キ是レナリ

本按第三篇第二章ニ於テ罪スヘキ所爲ニ依テ船舶ヲ衝突シ之ヲ暗礁ニ乗上ケ若シクハ之ヲ沈没シタル罪ヲ記載シテ其ノ第九節ニアリ此罪ハ私人ニ對シテ犯シタル重罪ノ部ニ之ヲ置ケリ實ニ定マリタル船舶ニ對シテ罪スヘキ所業ヲ爲シタレハ則チ既ニ其所業ハ公クノ靜謐又ハ安寧ヲ害スル重罪ノ部類ニ屬セサレハナリ

本條ノ明文ハ損壞ノ預見ヲ一般ニシテ以テ航海ヲ保護スヘキ標識ヲ論スルニ過キサルヲ以テ能ク此區別ヲ存セリ

故ニ船舶ヲ覆没セシムル爲メ其舵其螺旋形若クハ蒸氣器械ヲ損壞セシ者ハ私人ニ對スル重罪ヲ犯セルモノタルヘシ

并ニ此第六十二條ニ於テハ鐵道ノ爲メ前條ニ記スル所ノ保護ノ規則ヲ以テ航海ニ適用ス

ル目的ニ外ナラサルカ故ニ須ラク玆ニ船舶ヲ覆没スヘキ都テノ手段ヲ用ユルノ罪ヲ増補スルヲ要ス是レ宜シク注意ス可キナリ

○第百六十三條 道路郵便電信鐵道若クハ海上ノ標識ニ關スル吏員又ハ雇人職工自カラ前

五條ニ記シタル重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ各本條ノ刑ニ照シテ一等ヲ加フ  
或ル犯罪ハ之ヲ犯セル者ノ身分ニ依テ之ヲ加重セリ特ニ其者該犯罪ニ反スル直接ノ責任ヲ有スル時又ハ之ニ關スル別段ノ信用ヲ受ケシ者ニシテ其信用ヲ欺キタル時ハ其罪ヲ加重スルナリ

既ニ總則ニ於テ之ヲ記シタルカ如ク或ル官吏其職務ニ於テ他人ノ犯罪ヲ制止スヘキ責任アリテ自カラ其罪ヲ犯シタル時ハ其身分ヲ以テ犯罪ヲ加重スルノ情狀トスルナリ  
又僕婢管店人等竊盜ヲ犯シタル時ハ其信用ヲ欺キタルノ故ヲ以テ更ニ嚴科ヲ以テ之ヲ罰スルヲ後ニ(第三篇第二章第一節ニ於テ)之ヲ見ルヘシ

本條ハ則チ之ト同一ノ論理トス本法爰ニ掲載スル所ノ者ハ通路ノ監守人ニシテ其自然ノ保護人ヌレハ都テ通路ニ妨害ヲ加ヘタル他ノ者ヨリモ更ニ罪ス可キモノタルナリ  
唯其一等ヲ加重スルハ前數條ノ刑ニ適用スルノミニシテ次條ノ場合ニ於テ科スル所ノ刑ニ之ヲ適用スルニ非サルヲ注意ス可キノミ

○第百六十四條 前數條ニ記載シタル場合ニ於テ其損壞ニ因テ人ヲ殺傷シタル時ハ豫メ謀テ毆打殺傷シタルノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

テ毆打殺傷シタルノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

本條ニ記スル所ノ原則ハ既ニ際會シタル所ニシテ尙屢之ヲ見ル可シ殊ニ本節ニ於ケルカ如ク犯罪ヨリ生スル社會ノ損害ハ實害ナラズシテ危險ニ止レル場合ニ於テ之ヲ見ルヘシ此場合ニ在テハ法律ニ於テ更ニ重キ損害即チ現ニ生シタル損害ヲ預見スルニ至ルヲ自然適當ニシテ其刑モ亦現ニ生シタル損害ノ刑ト成ルナリ

本法ニ於テ此殺傷毆打ヲ豫メ謀テ爲シタルモノトシテ罰スヘシト定ムト雖モ是レ嚴ニ過ルモノニ非ス此罪事ハ一大災害ヲ生セシメントセシモノニシテ爲メニ人命ヲ害ス可キコトハ確信スルヲ得ケレハナリ且ツ該犯ハ重罪ヲ犯サントスル意ナカリシニ非サルノミナラス豫メ此意アリタルナリ

○第百六十五條 内亂若クハ暴動ノ際ニ於テ本節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル時ト雖モ唯征討ヲ抗拒スルノ手段トシテ之ヲ犯シタルニ非サレハ本節ノ刑ニ處ス

本條ハ直接ノ解釋ト間接ノ解釋ヲ爲スコトヲ得其間接ノ解釋ノミヲ記載スルコトヲ要ス  
通路ヲ害スル所業ノ犯人若シ暴動ニ與ミセシ者ニシテ其返逆ノ成切ヲ確實ナラシノンカ爲メニ鎮撫兵ノ到着ヲ妨害シ若クハ官憲ノ命令及ヒ公書ノ傳達ヲ妨ケントシタルニ出テタル時ハ其行爲ハ暴動ノ緒餘タルニ過キスシテ此罪ニ入ルナリ此場合ニ於テハ毆傷ハ勿論殺害ト雖モ前條ニ據テ之ヲ罰ス可キニ非ス何トナレハ主タル罪事ノ必要ナル緒餘ノ如キモノト

シテ之ヲ看做スヲ得可ケレハナリ  
之ニ反シテ通路ヲ塞スル所業ノ目的暴動ノ成功ヲ確實ナラシムルニ在ラスシテ怨恨復讐若クハ人民ヲ恐怖セシムルノ意ヨル起リタル時ハ常律上ノ刑ヲ適用ス可キニ至ルヘシ是レ本條ノ直接ノ規則ナリトス

○第六十六條 本條ニ記載シタル輕罪ハ着手ニ止マル者ト雖モ之ヲ罰スヘシ  
前數條ハ都テ重罪ヲ論スルニ非ス初メノ三條ハ輕罪ヲ論シテ之ヲ罰スルノミ  
凡ソ輕罪ノ着手ハ律條ニ明記シテ之ヲ罰スル場合ノ外刑ヲ加フ可カラサルヲハ總則ニ記スル所ナリ今爰ニ論スル所ノ場合ハ即チ此中ニアリトス

刑法草案註解第六

○第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

○第六十七條 官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官憲ノ命令ヲ執行スルニ當ク重大ナル暴行若クハ脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル罪ヲ犯セル者ハ六月以上四年以下ノ重禁錮十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

其暴行若クハ脅迫ノ目的官吏ヲ強ヒテ其執行スルヲ欲セサル處置ヲ執行セシムルニ在リ、ルル時モ亦同シ

本條ノ規則ハ一觀シテハ稍々嚴ニ過ルカ如シト見ユ然レモ若シ人此輕罪ヲ組成セルニ元素即チ其目的及ヒ手段ヲ熟思セハ直チニ其嚴ニ過キサルヲ認定スルヲ得ン

蓋シ其目的ハ法律行政規則若クハ裁判宣告ノ執行ヲ妨礙ルニ在リ是レ何レノ國ヲ問ハス社會ノ重害タルモノナリ

又其手段ハ暴行若クハ脅迫ニシテ即チ何レノ場合ヲ問ハス責罰ス可キ所爲ニシテ特ニ此場合ニ在テハ然リトス

本法ハ唯服從ヲ拒ム者ヲ罰スルニ非ス何トレナハ此抗拒ハ官憲ニ於テ容易ニ之ヲ挫折スルヲ得レハナリ例ヘハ人民ヲシテ或ル負債ノ義務ヲ盡サシムルノ處置ニ關スル時ハ其財産ヲ差押エ可ク又兵役ニ於ケルカ如キ服行ス可キ所業ニ關スル時唯働カサルニ止ル者若クハ遁

逃スル者ハ軍律ヲ以テ之ヲ罰シ又爲ス可カラサル行爲ニ關スル時ハ官憲威力ヲ以テモ之ヲ制止スルヲ得可シ而シテ此時ニ方リ人民若シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ抗拒スルニ非レハ官憲ハ之ヲ見テ十分ニ服従シタルト思フ可シ

且ツ其暴行若クハ脅迫ハ重大ノモノタルヲ要ス此重大ト云ヘル語ハ本法中ニ屢々之ヲ見ル可シ人或ハ本條ニ於テ十分ナル明文ヲ揭ケズシテ裁判所ニ委スルノ度ニ過ルヲ非トスル者アル可シト雖モ夫ノ目的ヲ把握テ論セズ唯所爲ノミヲ以テ罪ヲ定メタル暴行及ヒ脅迫ニ關シテハ第三篇ニ於テ許多ノ區別ヲ見ル可キヲ以テ今コ、ニ此レニ論及スルヲ得サルナリ唯其暴行ニ因テ永久ノ疾病ヲ生セシ時ハ此暴行中ノ最モ重キ刑ヲ以テ之ヲ罰ス可キヲ注意ス可キノミ此場合ニ於テハ本法之ヲ明記セズ是レ論ヲ待タスシテ明カナリト思ヘバナリ然リト雖モ此原則ハ許多ノ場合ニ於テ適用シタルモノナリ

又此刑ハ國事犯ノ刑ニ非サルヲ注意ス可シ故ニ其禁錮ハ必ス重禁錮ナリトス蓋シ其國事犯ニ非サル事ハ本條犯罪ノ爲メ用ヒタル手段ノ性質ニ關セサルヤ明カナリ何トナレハ凡ソ國事犯ハ多クハ皆ナ之ヨリ頗ル重大ナル行爲ヲ以テ之ヲ犯セルカ故ナリ其國事犯ニ非サルノ理由ハ本條ニ論スル所ノ抗拒ハ通例各自ノ利益即チ負荷若クハ義務ヲ免レント欲スルノ念ヨリ起ルモノニシテ第二章ノ始ニ於テ記述シタルガ如キ國事犯ヲ發セシメタル心意ヨリ起ラサルヲ以テナリ

然レモ或ル場合ニ於テハ之ニ反シテ犯者國事犯ヲ發セシムルノ心意ヨリ其罪ヲ犯セルヲナキヲ保ス可ラス然ル時ハ裁判所ニ於テ減輕ス可キ情狀ヲ准許スルノ方法ヲ有スルヲ以テ其刑ノ性質ハ變セサル可シト雖モ之ヲ減輕ス可シ

又猶ホ本條ニ關シテ主タル注意ヲ爲ス可キモノアリ即チ本條ニ論スル犯罪ハ暴行若クハ脅迫ヲ受ケタル官吏其職務ヲ以テ取扱ヒシ時ニ係ルノ外眞ニ之ヲ犯セルモノニ非サルト是レナリ故ニ本條ハ其官吏ガ法律規則ヲ執行スル爲メ必要ナル權限若クハ名義ヲ有シ且ツ其執行セント欲スル所置ニ付テ法律上ニ要スル法式期限及ヒ其他ノ條款ヲ遵守セントシテ想像セラルモノナリ

外國ノ法律モ亦此點ニ付テハ明文アルニ非ス殊ニ佛國ニ在テハ屢々裁判所ニ於テ人民官憲ニ抗拒スル者ハ常ニ罪人タルヲ免レサルモノト判決シ人民ハ必ス先ツ官憲ニ服従ス可ク然ル後之ニ對シテ訴願ヲ爲セルハ格別ナリト斷決シタリ

本案ハ更ニ公平且ツ寛大ナルモノニシテ官憲自カラ法律規則ニ循ヘル時ノ外人民ノ官憲ニ服従ス可キヲ要セサルナリ

蓋シ斯ノ如キ場合ニ於テ官憲自カラ惑ヘルヲ稀ニシテ暴行ヲ以テ抗拒シタル人民自カラ惑フテ以テ本條ノ刑ヲ招クノ危險ヲ受ク可キヲ疑フ容レサル所ナリト雖モ法律上ニ於テハ須ラシ官吏ノ誤謬ナキヲ假定ス可カラサルナリ

此件ニ付テ頗ル困難ナル場合ヲ生スルコトアル可シ蓋シ執行ヲ任セラレタル官吏自カラ法律規則ニ違ヘルニ非スシテ其執行ス可キニ係ル處置ヲ命シタル官憲ニ於テ法律規則ニ違ヒシコトナキヲ保ス可ラス譬ヘハ州長ヨリ行政上ノ處置ヲ命令シタル時其處置州長ノ權限内ニ入ラサルコトアリ若クハ其處置或ル場合ニ於ケルノ外爲ス可ラザルカ又ハ或ル條款ヲ以テスルノ外爲ス可カラサルモノニシテ其條款ヲ遵行セサルコトアラハ是レ少クトモ其處置ヲ適用セラズル、人民カ口實トシテ之ヲ拒ムコトアル可キモノナリ然リト雖モ此所置ヲ執行セント欲スル官吏ハ其權限ヲ有シ且ツ其法式及ヒ條款ヲ遵守セルモノト看做サンニ此場合ニ於テハ人民暴行若クハ脅迫ヲ以テ之ヲ抗拒スト雖モ刑ヲ免除セラレ、ヤ如何ヲ問ハ、決シテ然ラズト答ヘサル可カラス何トナレハ其違法ハ執行官吏ヨリ出テタルニ非スシテ且ツ其官吏ハ上長官憲ノ處置不規則ナルコトヲ知ルモ之ヲ間然スルノ權ナキヲ以テ自カラ其執行ヲ拒ムノ權利ヲ有セサレハナリ

故ニ此場合ニ於テハ人民ハ抗拒スルコトナク服從セサル可カラサルナリ尤モ其後ニ於テ當該ノ官憲ニ之ヲ訴願スルハ格別トス

○第六十八條 前條ノ罪ヲ犯スニ當リ左ニ記載スル情狀アル者ハ各々一等ヲ加フ

一 其犯人八十人以上タル時

一 其犯人若クハ其中ノ者兇器ヲ持シタル時

此二個ノ場合ニ於テハ頗ル社會ノ危難ヲ増加セリ何トナレハ官吏此無法ナル拒抗ヲ遏制スルコト前條ニ比スレハ更ニ難キヲ以テナリ

此他許多ノ事項ニ在テ犯人ノ多人數ナルト其兇器ヲ持スルトニ依リテ此ノ如ク一等ヲ加フルヲ見ル可シ加之時トシテハ十人マテノ人員ヲ要スルコトナク且ツ其携帯セル武器兇器タルニ非スト雖モ危險ノ武器タルヲ以テ足レリトシ以テ一層嚴刑ニ處スルコトアル可シ

其他該犯悉ク兇器ヲ持スルコトヲ要スルニ非ス唯其一人之ヲ持スルヲ以テ足ル可シ又其兇器ヲ用ヒシトシテ脅迫シタルヲ要スルニ非ス并ニ其兇器ヲ陽ニ携帯セシコトヲ要スルニ非ス或ハ陰ニ之ヲ携帯セルコトアル可シ此場合ニ於テハ其兇器ヲ恐嚇ノ手段タルニ非スト雖モ一層大ナル社會ノ危險ヲ爲スハ陽ニ之ヲ携帯セルト異ナラサレハナリ

○第六十九條 官吏其職務ヲ行フニ當リ又ハ其職務上ニ關シ其官吏ニ對シテ其面前ニ於テ手勢若クハ言語ヲ以テ公然オツフアンズ「アンシュール」ウー「トラー」シ何レモ不敬凌辱ノアルヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科ス

官吏ノ面前外ニ於テ刊行ノ文書公衆ニ對スル演說其他都テ公布ノ方法ヲ以テ不敬凌辱ノ所爲ヲ犯シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ科ス本條ハ天皇陛下ニ對シテ犯セル同種ノ輕罪ヲ預見シテ之ヲ罰スル所ノ第三百三十二條ニ類似スルコト其文面ヲ以テ之ヲ見ル可シ



本條ニ於テモ亦「オッフアンス」「アンヂェール」「ウィートラーシ」何レモ不敬ノ三語ヲ記載セリ此三語ハ唯能ク輕重ノ差ヲ示スト雖モ其刑ヲ變スルモノニ非ス

又玆ニ被害人ノ面前ナルト其面前ニ非サルトノ間ニ區別アルヲ見ル可シ此區別ハ右ニ反シテ頗ル刑ヲ變スルモノナリ何トナレハ被害人公衆及ヒ凌辱者ノ面前ニ在ル時ハ其凌辱ヲ受ルト更ニ多ケレバナリ

此二個ノ場合ニ於テハ公然其凌辱ヲ爲シタルヲ要ス此輕罪ヨリ生スル道德上及ヒ社會公益上ノ損害ハ其凌辱ニ依テ被害人ヲシテ他人ノ尊敬ヲ失ハシメントスルヨリ生スルモノナリ蓋シ甲人乙人ニ對話シ傍ニ人ナキニ於テハ重大ニ乙人ヲ凌辱スルヲ得ヌ何トナレハ乙人ヲシテ自カラ其身ヲ輕侮セシムルヲ得サレハナリ加之其傍ニ人アリト雖モ被害人ノ最近ノ親族ニシテ即チ其尊屬親卑屬親配偶者兄弟姉妹且ツ其以外ノ者タル時ハ公然凌辱ヲ爲シタルモノトス可カラサル可シ實ニ此諸人ハ自己ノ面前ニテ被害人ノ凌辱セラレタルヲ見ルト雖モ是レガ爲メ其者ノ智愚善惡ヲ制セザル可ケレバナリ

僕婢若クハ雇人其主人ヲ凌辱シタルニ關スル時ハ之ト異ナル可シ都テ此場合ニ在テハ裁判所ニ於テ其公然ニ係ルヤ否ヤヲ鑒定シ被害人ノ親族ノ外其場ニ在ラサル時ト雖モ公然凌辱ヲ爲シタルモノト認ムルヲ得可シ

他人凌辱ヲ爲セシ時其凌辱ノ證人一二ニ過キサルモ猶ホ公然凌辱ヲ爲シタルモノトス可

キヤ如何ン蓋シ裁判所ニ於テ之ヲ決定スルヲ得可シ然レモ僅カニ一人ノ面前ニシテ且ツ私ノ場所ニ係ル時之ヲ公然ノモノト看ルハ道理ニ適セザル可シ故ニ都テ此場合ニ於テハ其凌辱ヲ爲サントスルノ意確實タルヲ要ス何トナレハ凌辱セントスルノ意ナシト雖モ忿怒活潑若クハ無學ニ依テ惡言ヲ發スルヲアレハナリ

若シ本人ノ面前ニ於テ凌辱ヲ爲ス時ハ其手段ハ言語又ハ舉動ヲ以テスルノ外毫モ之レ有ラサルナリ其面前外ニテ之ヲ爲ス時ハ凌辱ノ手段更ニ多クシテ言語、著書、圖畫、誹謗等皆ナ其手段タルヲ得

本案最初ノ明文ニハ其他都テ公布ノ方法ト云ヘル語ヲ記載セシガ不注意ニ依テ之ヲ削除シタリ故ニ之ヲ復スルノ適當ナル可キトハ疑ヲ容レサル所ナリ

官吏ノ面前ニ於ケル凌辱又ハ其面前外ノ凌辱ニ共通スル條件ハ其職務ヲ行フニ當テ凌辱ヲ爲シ若クハ其職務上ニ關シテ凌辱ヲ爲スト是レナリ唯官吏其場ニ在ラサル時ハ其凌辱ハ決シテ職務上ニ關スルノ外アラサル可シ何トナレハ其凌辱ハ官吏其職務上ニ於テ爲シタル事又ハ爲サ、リシ事ヲ誹謗シ若クハ其職務ヲ行フニ於テ其正直、才智、勇氣ノ如何ヲ誹謗スルモノタル可ケレハナリ

其不敬若クハ凌辱、官吏ノ職務ニ關スルニ非サル時ハ之ヲ私人ニ對スル不敬ト看做ス可シ

(第三篇第一章第十二節)

○第七十條 公衆ニ對スル演説、刊行ノ文書其他都テ公布ノ手段ヲ用ヒテ官吏ノ職務上ニ於テ不正ノ所爲アリト誹謗シタル者ハ其誹謗ノ事實ヲ證明スルニ非レハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科ス

其職務上ニ關セサル事件ニ係ル時ハ私人ニ對スル讒毀ノ規則ヲ以テ之ニ適用ス可シ  
本條ニ論スル輕罪ハ官吏ニ對スル讒毀ナリ私人ニ對スル讒毀ニ付テハ第三篇第一章第十二節ニ於テ之ヲ論ス可シ

此二個ノ讒毀ノ間ニ存スル大ナル差別ハ左ノ如シ官吏ニ關スル場合ニ於テハ其事實ニ相違アル時ノ外其讒毀ヲ罰スルヲ得ス是ヲ以テ其讒毀眞ノ誣言ト成リタル時ノ外之ヲ罰セサルニ在リ之ニ反シテ私人ニ關スル時ハ其事實タルノ證據アリト雖モ之ヲ立ルヲ許サズシテ常ニ其讒毀者ヲ罰スルナリ何トナレハ其者ハ自カラ知り若クハ知リタリト信スル他人ノ惡事ヲ告發スルノ利益ヲ有セス故ニ其權利ヲ有セサレハナリ

若シ其者他人ヨリ害ヲ受ケタル時ハ之レカ償贖ヲ得ンニハ裁判所ニ訴フルノ手段アル可シト雖モ其手段ヲ讒毀ニ求ム可カラサルナリ

之ニ反シテ官吏其職務ヲ行フニ於テ不正ノ處置ヲ爲シタル時ハ都テ人民ハ其處置ノ害ヲ受ル者ト看做サル、ヲ得可シ然レモ裁判所ニ民事ノ訴ヲ爲ス可キニ非ス故ニ公然官吏ノ過失ヲ摘發スルノ權利ヲ有スルモノト言フニ至ルヲ得スト雖モ少クモ其所爲ハ罰スヘキモノニ

非スト言フヲ得可シ何トナレハ其所爲ハ官吏ヲ害スルノ意ヨリ出テタルヨリモ寧ロ一般ノ利益ヲ謀ルヨリ出テタルモノト思量スルヲ得レハナリ

讒毀シタル事件ノ事實及ヒ其不正ナルコトヲ證明ス可キ責アル者ハ則チ其讒毀者ニシテ官吏ハ其所爲ノ事實ニ違フト又ハ其公正ナル事ヲ證明スルニ及ハサルトハ論ヲ待タズ唯官吏ハ讒毀者ノ供シタル證據ヲ駁撃シ之ヲ辨駁ス可キノミ

此ノ如ク人民ヲ許シテ官吏ニ對スル讒毀ノ事實ヲ證明セシムルノ法ハ反覆熟慮シタル後ニ定メタルナリ官憲ニ對シテ盡ス可キ尊敬ノ爲メニ之ヲ危險ナルモノト見ル可カラズ歐巴羅中殊ニ佛國ニ在テハ法律上ニ於テ十分ニ官憲ヲ保護スルト雖モ多年來此論理ヲ收用セリ蓋シ官憲ハ讒毀者ノ誣言ヲ罰シ且ツ事實ノ證據ヲ立ルニ至ル迄其處置ヲ公正ナルモノト思量セ

ルヲ以テ十分ノ保護ヲ受レハナリ  
○第七十一條 第三百三十五條ニ記シタル官署中ノ一若クハ其職員ニ對シテ前二條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各々一等ヲ加フ

第三百三十五條ニ記シタル官署ハ天皇陛下ノ次ニ在テ威權最モ高キモノナリ故ニ更ニ嚴ナル方法ヲ以テ誣言ヲ防グ可キナリ

譬ハ元老院若クハ大審院ニ於ケルカ如ク全キ一官署ニ對シテ讒毀ヲ爲スヲアル可ク又其職員中ノ一人若クハ數人ニ對シテ之ヲ爲スヲアル可シ此二個ノ場合ニ於テハ本刑ノ一等ヲ

加フ可キナリ

○第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲシテ其刑ヲ免レシメントスル罪

○第七十二條 凡有期ノ刑ニ處セラレタル囚徒獄舎獄具又ハ護送具ヲ毀壞シテ逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

暴行又ハ脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ二月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ無期ノ刑ニ處セラレタル囚徒本條ノ罪ヲ犯シタル時ハ諸刑執行規則ニ定ムル懲戒ノ刑ニ處ス

已決ノ囚徒逃走ヲ謀リ及ヒ之ヲ遂ルノ所爲ハ其所爲ノミヲ以テ輕罪ト看做スヲ得ス有形若クハ無形ノ苦痛ヲ免カレントスルハ人ノ自然ノ性情タレバナリ

是故ニ囚徒巧ニ監護人ノ懈怠ニ乘シテ逃走シタルハ更ナリ詐欺ヲ用ヒ巡察人ニ假扮シテ以テ逃走ヲ遂ケタル者ト雖田罰ス可キニ非ス其所爲ハ獄舎ヲ破壞シ閉鎖、護送具、其他、罪囚ノ自由ヲ妨碍スル器具ヲ毀壞シタル時ノ外罰ス可キモノト成ラサルナリ

本條ニ於テ囚徒ハ此所爲ナキヲ證明スルニ非レハ逃走ヲ宥恕スル所ノ性法ヲ引援スルヲ得ズ本法若シ獄舎ヲ破壞シタルノ罪ヲ罰セザレバ囚徒容易スク逃走センカ爲メ獄舎ニ放火シ又ハ監護人ヲ殺サントセザルノ道理ナカル可シ故ニ逃走ノ手段ヲ破獄又ハ暴行ニ求メタル囚徒ハ其監獄人ノ懈怠アリシヲ以テ逃走ヲ謀ルニ至リシヲ引證スルヲ得サルナリ

本法ハ囚徒逃走ヲ遂ル爲獄舎メヲ破壞シ器具ヲ毀損シタル場合ト人ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル場合トノ間ニ刑ノ等差ヲ立テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル場合ニ於テハ其刑ヲ倍セリ但シ本條ノ刑ニ於テ罰金ヲ附加スルトナキヲ注意ス可シ蓋シ囚徒ハ殆ト皆罰金ヲ拂ヒ得サル者タルヲ以テ之ヲ拂ヒ得サルニ於テハ是レガ爲メ多クハ皆禁錮ヲ増加スルニ至ル可ケレバナリ此理ハ最モ了解シ易シ

然レ而縱令日本法ニ之ヲ明記セスト雖囚徒ハ必ス其毀壞シタル器具ノ損害ヲ償フ可キナラザルニシテ本條ニ在テ其効力ヲ失ハシムル得サルモノナリ(佛蘭西民法第千三百八十二條)

已決ノ囚徒既ニ無期ノ刑ニ處セラレタル時ハ更ニ之ヲ禁錮ニ處スルヲ得ス其新ニ犯シタル犯罪ノ刑ハ懲戒ノ刑ノ外科ス可キモノナリ此刑ハ諸刑執行規則ニ於テ之ヲ預定ス可シ  
○第七十三條 已決囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト雖再々逃走シタル場合ノ外再犯ノ例ニ照シテ刑ヲ加重ス可カラズ

本條ハ人之ヲ一觀シテ或ハ怪ムトナキヲ保ヒズ何トナレバ其逃走シタル囚徒ハ既ニ犯罪ノ處刑ヲ受ケ爲メニ獄舎ニ繫カレタルモノニシテ更ニ犯罪ヲ犯セルニ依リ第一百一條及ヒ第一百二條ノ明文ニ從ヒ必スシモ再犯者タラザルヲ得ザルガ如キヲ以テナリ然レ而此再犯ニシテ刑ヲ加重スルノ情狀ト成ラサル所以ノモノハ其必ス逃走ト相古離ル可

ガラザルモノニシテ乃チ其犯罪ヲ構成スル所爲中ノ一ナルガ故ナリ若シ之ヲ再犯ナリトセバ獄舎ヲ破壊シテ逃走シタル已決ノ囚徒ニシテ再犯者ダラザル者アルヲ想像スルヲ得ザル可シ何トナレハ該犯ヲ囚徒ト爲シテ以テ逃走スルノ場合ニ至ラシメタルモノハ則チ原犯ノ處刑ニアレバナリ

凡ソ再犯チシテ犯罪加重ノ情狀タラシメントスルニハ該犯ニ限り其同種ノ他犯ト異ナリテ惡事ヲ固執スルノ狀ヲ表シ以テ別段ノ場合ヲ構成シタルヲ要ス然リ而シテ再度逃走シタル者ニ於ケルノ外此別段ノ情狀アラザルナリ故ニ獨リ此者ノミ逃走ト相ヒ離ル可ラサルニ非ザル惡事固執ノ狀ヲ表スルヲ以テ之ヲ再犯者トス可キナリ

又第八十四條ニ於テモ之ニ類似セル場合ニ付テ之ト同一ナル別格ノ規則ヲ見ル可シ佛國ニテモ法律上ニ於テハ此點ノ説明ナシト雖モ裁判斷例ニ於テ余カ開陳シタル理由ノ主義ヲ以テ其缺ヲ補フナリ

○第七十四條 凡ソ嫌疑又ハ告訴ヲ受ケテ未決中ノ囚徒第七十二條ニ記載シタル手段ノ一ヲ用ヒテ逃走シタル者ハ該條ニ記載スル刑ニ處ス  
然レモ原犯罪ノ判決ニ至ルマテ逃走罪ノ判決ヲ延引シ以テ原犯無罪ニ歸スル時ハ止メ逃走ノ刑ヲ科シ原犯有罪ニ決スル時ハ數罪併發ノ例ニ照シテ處斷ス  
逃走者ノ原犯罪猶ホ未決ナリトノ情狀ヲ以テ其逃走ノ罪ヲ減輕ス可キニ非ス故ニ其刑ハ已

決ノ囚徒ニ於ケルト同一ナリ

蓋シ純萃ノ正理ヨリ論ズレバ未決ノ原犯罪判決ノ前直チニ逃走ノ刑ヲ科スルニ於テ毫モ障礙ナカル可シト雖刑ヲ併科セザルノ原則即チ刑ヲ混淆スルノ原則ニ依テ單ニ最重ノ刑ヲ科センガ爲メ寧ロ此二件ノ裁判ヲ合併スルヲ可トス

本條ニ於テハ再犯ノ事ヲ論ズルヲ得ズ何トナレハ其二犯罪トモ處刑後ニ犯シタルモノニ非レバナリ

○第七十五條 已決又ハ未決ノ囚徒三人以上通謀シテ逃走ヲ爲シタル時ハ第七十二條ニ記載シタル刑ニ照シテ一等ヲ加フ

犯者ノ多人數ナルハ其刑ヲ加重ス可キ情狀ト成ルコト多シ何トナレハ是レカ爲メ更ニ社會ノ危險ヲ増加スレハナリ

本條ニ於テモ亦第七十二條ニ記載シタル手段ノ一ヲ以テ逃走シタル者ヲ罰スルコトハ論ヲ俟タス故ニ數人通謀シテ逃走スト雖モ唯詭計巧術ヲ用ヒタルモノハ同シク罰ス可キニ非ス  
○第七十六條 凡ソ囚徒ヲ逃走セシムル爲メ或ル器械ニ與ヘ若クハ兇器其他暴行及ヒ恐嚇ノ手段ヲ授ケタル者ハ此所爲ノミヲ以テ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ科ス

囚徒其手段ヲ用ヒテ逃走シタル時ハ本刑ニ照シテ一等ヲ加フ

囚徒ニ逃走ノ手段ヲ授ルノ所爲ハ其性質ヲ以テ之ヲ觀レハ他人ノ輕罪ヲ助ル預備ノ行爲タルニ過キサルナリ之ヲ預備ノ行爲ナリトセハ之ヲ罰ス可カラサルニ似タリ然レモ本法ニ於テハ凡ソ道德上ニ背キ以テ社會ニ害アル可キ性質ヲ表スル所爲ヲハ常ニ輕罪ノ名稱ヲ下シ以テ輕罪トシテ之ヲ罰スルヲ得然ル時ハ其結局ノ關係ハ措テ論セス其所爲ノミヲ以テ之ヲ熟思シ若シ其所爲ニ於テ罪ス可キ惡意ヲ表シ併セテ社會ノ危難ヲ構成スル時ハ之ヲ別段ノ輕罪ト爲スヲ得ルナリ

人若シ本條ニ記載シタル刑ト逃走者ノ刑トヲ比較セハ本條ニ記シタル刑ノ嚴ナルヲ怪ムテ得ン人身ニ對シテ暴行ヲ加ヘタルトナク唯獄舎ヲ破壞シテ以テ逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ禁錮ニ過キサルニ囚徒ニ逃走ノ手段ヲ授ケタル者ハ其逃走セサル時ニ於テスラ二月以上二年以下ノ禁錮ニ處ヒラレ其逃走ヲ遂ケタル時ハ尙ホ其刑ノ四分ノ一ヲ增加セリ但シ逃走ノ手段人ヲ殺シ又ハ人身ニ暴行ヲ加フルノ具タル時ナリトモ法律上其刑ニ等差ヲ定メス然レモ其刑ノ最下限ト最上限ノ間ニ縣隔アルヲ以テ裁判官此所爲ノ社會公益ヲ害シ及ヒ道德ヲ害スルノ輕重ヲ酌量スルヲ得可シ

是ニ由テ之ヲ觀レハ本條ニ論ズル所爲ハ本法之ヲ逃走罪ノ預備ノ行爲トシテ考テ非ス又其附從トシテ考ルニモ非サルナリ何ナリ此三個ノ場合ニ於テハ何レモ其主ナル輕罪ヨリモ其刑ノ輕ナル可キヲ以テナリ

蓋シ本法之ヲ逃走罪ノ預備ノ行爲及ヒ其附從ト看做サマル所以ノモノハ左ノ二個ノ理由ヲ熟思セバ其旨趣ヲ證明スルヲ得可シ

其一 凡ソ囚徒ハ他ヨリ之ニ逃走ノ手段ヲ授ケザレハ多クハ皆テ逃走スルヲ能ハサル可キノ理

其二 逃走シタル囚徒ハ人ノ天然ノ性情ニ從ヒ且ツ殆ト忍フ可カラサル自由ヲ愛スルノ情ニ從フモノナリト雖モ自ラ繫獄セラル、ニ非スシテ囚徒ニ逃走ノ手段ヲ授ル者ハ公ケノ安寧ニ重大ノ妨害ヲ加フルノ理

之ヲ論了スルニ臨テ注意ヲ要ス可キ一事アリ即チ若シ其囚徒逃走スル爲メ殺人罪ヲ犯シ若クハ重大ノ毆打毀傷ヲ加ヘタル時ハ此重罪又ハ輕罪中ノ最モ重キ刑ヲ科ス可シ而シテ殺人器械ヲ與ヘタル者ハ其附從トシテ之ヲ罰ス可キ事はレナリ

○第七十七條 暴行脅迫ヲ爲シテ以テ監守又ハ護送ノ任アル者ヨリ囚徒ヲ劫奪シ又ハ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科ス

若シ左ニ記載シタル三個ノ情狀アル時ハ各々本刑ノ一等ヲ加フ

- 其一 其囚徒既ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル時
- 其二 二人以上ニシテ此輕罪ヲ犯シタル時

其三 此犯人又ハ其中ノ一ハ兇器ヲ持セシ時

囚徒ノ友朋友又ハ附従ノ者其囚徒ヲ逃走セシメ若シハ劫奪スルヲ稀ナルニ非ス特ニ國事犯ノ囚徒ニ關スル時ハ然リトス此所爲ハ當ニ嚴罰ヲ科ス可キモノニシテ特ニ監護人ニ對シテ暴行若クハ脅迫ヲ加ヘタル時ハ嚴ニ之ヲ罰ス可キナリ

本法ハ唯獄舎ヲ破壞シテ以テ囚徒ヲ奪フタル場合ヲ預見セズ且ツ此場合ハ稀ナルモノナリ何トナレハ都テ獄舎ハ嚴重ニ之ヲ監守スルガ故ニ此所爲ヲ遂ゲンニハ殆ト常ニ人身ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲サマルヲ得ザレバナリ

然レモ若シ唯獄舎ヲ破壞シタルノ場合アラバ必ス適用ス可キノ刑アル可ク其刑ハ則チ第七十二條ノ刑ニシテ逃走罪ノ共犯又ハ附従トシテ犯者ニ科ス可キナリ

本條ノ輕罪ヲ加重ス可キ三個ノ情狀ノ趣旨ハ論ヲ俟タズシテ明カナリ況ンヤ其第二及ヒ第三ノ情狀ハ既ニ之ヲ説明セルニ於テオヤ其第一ノ情狀ニ至テハ其囚徒既ニ重刑ニ處セラレシモノナレハ社會ノ損害更ニ大ナルトノ主意ニ基クモノナリ

○第七十八條 囚徒ヲ監守又ハ護送スルノ任アル者其懈怠ニ因リ囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ關スルモノハ五圓以上二十五圓以下ノ罰金ヲ科シ又輕罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒若クハ輕罪重罪ノ未決囚徒ニ關スルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ科ス

本條ニ論スル罪ハ頗ル輕シ何トナレバ其意ノ罪ス可キモノアラザレバナリ故ニ社會公益上ノ害アルノミ且ツ其害タルヤ囚徒自己ノ盡力ヲ以テ逃走シタル時ヨリモ尙ホ輕キモノナリ何トナレバ囚徒逃走セントスルノ盡力ハ絶ヘズ之ヲ爲シ又屢々之ヲ爲シ得ルト雖モ監守人ノ懈怠ハ必ス偶然ノモノタレハナリ

唯本法ニ爲セル一ノ區別ハ其囚徒入檻ノ原因ニアルノミ若シ其入檻重罪ノ刑ニ處セラレタルニ因ル時ハ監護人ハ更ニ警戒ノ多キヲ加フ可キ責アルヲ以テ其囚徒ノ刑、懲治禁錮ニ過キサルカ又ハ唯未決中ノ入檻ニ關スル時ヨリモ更ニ其懈怠ヲ責罰ス可キナリ重罪ノ未決囚ト輕罪ノ未決囚トノ間ニハ區別ヲ爲ス可キニ非ス何トナレハ其底查中該犯罪ノ罪ハ多少確實ナラサシハナリ況ンヤ監護人ハ其罪ノ輕重ニ付テ精密ニ之ヲ知り得ル者ニ非サルニ於テヤ

○第七十九條 懈怠ニ依テ囚徒ヲ逃走セシメタル監護人又ハ護送人一月内ニ逃走者ノ捕獲ヲ助ケテ之ヲ捕縛セシメ且ツ其間逃走者別ニ重罪又ハ輕罪ヲ犯セシトナキニ於テハ其罪ヲ論セス

本法ハ懈怠ニ依テ囚徒ヲ逃走セシメタル監護人又ハ護送人ヲ獎勵シテ其罪過ヲ贖フニ盡力セシメシカ爲メ若シ其者一月内ニ逃走者ノ捕獲ヲ助ケテ之ヲ捕縛セシメタル時ハ其刑ノ免除ヲ許セリ

此規則ハ佛蘭西刑法第二百四十七條ヨリ取リシモノト雖モ該刑法ニ比スレハ稍々之ヲ嚴ニセリ何トナレハ佛律ニ於テハ捕獲ノ期限四ヶ月ナリト雖モ本法ニ於テハ其期限一ヶ月ニ過キサレハナリ且ツ本法ニ於テハ逃走者ノ捕獲必ス懈怠シタル監護人ノ盡力ニ歸スルヲ要セリ然ルニ佛國ニ於テハ其捕獲他人ノ手ニ成ルトモ監護人ニ同一ノ恩惠ヲ與フ可ケレバナリ但シ此二律共ニ逃走者別ニ犯罪ヲ犯サ、ルコト即チ其逃走ニ依テ社會ノ實害ヲ生セサルコトヲ要ス

尤モ逃走者唯違警罪ヲ犯シタルノ故ヲ以テ監護人ニ本法ノ恩惠ヲ失ハシムルコトナカル可シ

○第百八十條 監護人又ハ護送人若シ囚徒ト通謀シテ逃走セシメタル時ハ左ノ如ク處斷ス

第一 拘留ノ囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ二月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ科ス

第二 輕罪ノ囚徒又ハ未決ノ囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科ス

第三 有期ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ輕懲役ニ處ス

第四 無期ノ刑ニ處セラレタル囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ重懲役ニ處ス

○第百八十一條 監護人又ハ護送人若シ囚徒ノ破獄暴行又ハ脅迫ヲ助ケテ逃走セシメタル時ハ前條ノ刑ニ照シテ一等ヲ加フ

懈怠ニ依テ囚徒ヲ逃走セシメタル監護人ト故意ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル監護人トノ間ニ大ナル差別アルハ自然ノ理ニシテ第一ノ場合ニ於テハ罪ス可キ惡意ヲシト雖モ第二ノ場合ニ於テハ其惡意ヲ存スルヨリ出ルモノナリ

然リ而シテ爰ニ附從罪ノ論理ヲ適用スベキヤ否ヤヲ論ズ可ラサルノミナラス其犯助力ノ論理ヲ適用ス可キヤ否ヤヲ論ズ可ラサルナリ

其證據ハ則チ監護人ハ逃走罪ノ附從ニ比ズレハ更ニ重ク罰セラル、ノミナラズ其共犯ヨリモ更ニ重ク罰セラル、ニアリ且ツ監護人ニ對シテハ其刑重罪ノ刑ト成ルヲ得ルト雖モ逃走者ニ對シテハ決シテ然ラサルナリ加之監護人第百八十條ノ刑ニ處セラレンニハ必シモ獄舎ヲ破壊シ又ハ暴行ヲ爲シテ逃走シタルカ爲メニ逃走者ノ罰セラル可キコトアルヲ要スルニ非サルノミナラス却テ第百八十條ノ場合ニ於テハ逃走者破獄ノ罪ヲ犯セシイナカリシモノト想像セサル可ラス何トナレハ逃走者獄舎ヲ破壊シテ逃走シタルノ場合ハ唯第百八十一條ニ於テノミ之ヲ預見シ監護人ニ對シテ刑ヲ加重スルモ亦該條ニ屬スレハナリ

囚徒ノ逃走ヲ助ケタル監護人ニ付テ此ノ如ク大ニ其刑ヲ嚴ナラシムルノ趣旨ハ之ヲ證明スルニ難カラズ其犯罪ニ依テ現出スル道德上及ヒ社會ノ損害ハ頗ル大ナレハナリ抑囚徒躬カラ之ヲ犯ス如キハ其自由ヲ得ントスル天然ノ性情ニ出ルヲ以テ道德上ノ損害少シ而シテ社會ノ損害ハ監護人ノ巡察ヲ以テ之ヲ防禦シテ容易ニ之ヲ遏制スルコトヲ得ルト雖モ其犯罪監護

人ノ所爲ニ係ル時ハ非常ニ囚徒ヲ憐憫スルノ念ヨリ起リ又ハ其囚徒ノ親族之ヲ犯シタルニ非レハ道德上ノ本分ヲ破リタルノ罪ヲ宥恕ス可ラス且ツ社會ノ損害ハ其極ニ至レリ何トナレハ監護人ヲ監守スルハ得テ爲ス可ラズ而シテ其者ハ司法及ヒ行政官ニ於テ信任シタル所ノ信用ヲ誑クテ以テナリ

○第百八十二條 公權剝奪ノ刑ニ處セラレ若クハ公權ノ全部又ハ一部ヲ停止セラレタル者其禁セラレタル權利中ノ一個又ハ數個ヲ詐テ行フタル時ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ科ス

逃走シタル囚徒獄舎ヲ破壞シ又ハ暴行ヲ爲シタルニ非スシテ唯其監護人ノ懈怠ニ乘シタルニ過キサル時ハ法律之ヲ罰セスト雖モ公權即チ政權ヲ剝奪セラレタル者ニシテ官署ノ懈怠ニ乘シテ之ヲ行フタル者ニ當テハ法律之ヲ寬恕セズ其之ヲ嚴ニシタルノ旨趣ニ據リ其一ハ官署ニ於テ公權ヲ行フ防クハ獄内ノ囚徒ヲ監守スルニ比スレハ爲シ難キ事其二ハ剝奪セラレタル公權ヲ詐テ行フ者ハ其自然ノ性情ニ從フノ宥恕ヲ得サル事是レナリ

本條ニ於テハ官吏處刑人ト通謀シ又ハ自己ノ懈怠ニ依リ處刑人ナシテ公權ヲ行ハシメタル者ニ對シテハ毫モ罰則ヲ記セザルナリ  
若シ處刑人ト通謀シタル場合ニ於テハ一般ノ原則ニ依テ附從罪ノ論理ヲ適用ス可シト雖モ其懈怠ニ出テタル場合ニ於テハ其所爲ノ輕キヲ以テ不問ニ付ス可シ

本條ノ犯罪ハ政事上ノ犯罪ニ係ルガ故ニ之ニ科スル禁錮ハ輕禁錮ニシテ即チ定役ナキモノナリ

○第百八十三條 監視ニ付セラレタル者擅ニ法律又ハ規則ニ定ムル所ノ義務ヲ破リタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

監視ノ附加刑タル禁制即チ誡令ヲ破ルノ罪ヲ罰スルノ旨趣ハ前條ノ旨趣ト同一ナリ但シ此刑期ハ前條ノ刑ヨリ短シ其刑期ノ短キ所以ハ該犯ハ自己ノ完全ナル自由ヲ享有セントシ監視ノ爲メニ受ル所ノ妨碍ヲ免レントスル自然ノ性質アルヲ稍宥恕ス可キヲ以テナリ然レモ其禁錮ハ重禁錮ヨリ何トナレハ該犯罪ハ毫モ國事犯ノ性質ヲ有スルコトナケレハナリ且ツ其監視國事犯ノ刑ニ附加スルモノタル時ト雖モ亦然リトス

○第百八十四條 前二條ニ記載シタル場合ニ於テハ再ヒ同罪ヲ犯シタル時ニ非レハ再犯ヲ以テ論ス可ラス

本條ノ規則ハ第百七十三條ノ規則ニ類似シ其旨趣モ亦之ト同一ニシテ即チ其再犯罪ノ性質ニ依リ必スシモ前ニ處セラレタル刑ノ存スルヲ想像セザルヲ得ザルニ於テハ其再犯ノ爲メニ刑ヲ加重スルヲ得ザルナリ  
此情狀ハ常ニ現出スルモノニシテ別段ノ場合ニ於ケルモノナラザルヲ以テ輕罪ヲ構成スル所ノ元素ト成ルナリ故ニ裁判官ハ此情狀ヲ酌量シテ以テ其刑ヲ定ムルニ及ハズ立法者ニ於



之ヲ定メタルナリ

之ニ反シテ若シ逐次類似ノ二犯罪ヲ犯シタル時ハ其再犯ハ前犯ノ在ルヲ以テ其罪重カル可ク而シテ其罪惡ヲ改メサルノ故ヲ以テ再犯ノ爲メ刑ヲ加重スルコトヲ得可シ

○第百八十五條 逃走シタル囚徒又ハ監視ヲ脱シタル者ヲ故テニ藏匿シ若クハ其隠避ヲ助

ケタル者ハ其拘留又ハ禁錮ニ處セラタル囚徒ニ係ル時及ヒ未決ノ囚徒ニ係ル時ハ并ニ十

一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ科ス

重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

捕縛セントスル搜索中ノ者ニ係ル時ハ未決ノ囚徒ヲ藏匿シ又ハ隠避セシメタル時ノ刑ニ

同シ

往時日本ニ於テハ往時ノ佛國ニ於ケルカ如ク他人ノ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタルヲ知リテ温順、

柔弱、恐怖ニ依リ若クハ憐憫ヲ以テ故意ニ之ヲ告發セザリシ者ハ法律上ニ於テ之ヲ罰シタリ

シガ後ニ此制度ヲ廢棄シタリ蓋シ眞ノ疑惑ニ基キ又ハ貴ム可キ謹慎ニ基ヒテ告發セザリシ

カモ知ル可カラザル怠慢等閑ノ爲メニ人ヲ罰スルノ危險ナルニ以テナリ然レモ之ヲ以テ人

民ハ決シテ犯罪彈壓ニ與關スルノ義務ナシト言フ可キニ非ス

先ツ首トシテ法律上ニ於テ人民犯罪ヲ告發スルノ權利ヲ存セリ且ツ現行犯罪ノ確タルモノ

ニ遭遇シタル者ニ當テハ此權利ハ義務ト爲ル可キモノト言フモ可ナリ然レモ告發セサルモ

之ヲ罰スルノ制定アルニ非サルナリ(治罪法草案第百十九條ヲ見ル可シ)

又法律上ニ於テ裁判官、檢察官若クハ刑事ノ被告人ヨリ證人トシテ喚出サレタル者ハ必ス出

頭シテ其知ル所ヲ提供ス可キヲ命セリ而シテ這般ニ方テハ其義務ニ背キタル者ハ刑ヲ以テ

之ヲ罰ス

然レモ法律上ニ於テ猶ホ一層嚴ニ要求スル所ノモノハ何人ト雖モ罪人ノ跡ヲ陰藏シテ以テ

裁判所ノ探索ヲ妨碍ス可カラザル事即チ竊ニ罪人ヲ藏匿シテ以テ犯罪彈壓ヲ妨ク可カラザ

ル事是レナリ是レ即チ本條ノ目的ナリトス

本條ノ刑ハ前條許多ノ場合ニ於ケルカ如ク本犯處刑ノ輕重又ハ發覺シタル犯罪ノ輕重ニ依

テ其等差ヲ立テリ

但故意ヲ以テ藏匿又ハ隠避セシメタルヲ論テ俟タサルナリ

○第百八十六條 凡ソ他人ノ罪ヲ免レシメントスル目的ヲ以テ殺人、禁錮、毆打、毀傷若クハ

都テ罪ト爲ル可キ原由ニ因リテ死シタル者ノ屍ヲ隠蔽シタル者ハ二月以上一年以下ノ重

禁錮ニ處シ四圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ科ス

此犯罪ノ性質ハ前條犯罪ノ性質ト同一ニシテ裁判所ノ探索ヲ妨碍スルモノナリ本條ニ在テ

ハ罪人ヲ隠蔽スルニ非スシテ其本罪ニ關スル物件、譬ハ殺人罪ニ在テハ死屍、盜ヲ隠蔽スル

モノナリ是ヲ以テ本條ノ規則ハ前條ニ於ケルカ如ク一般適用ノモノニ罪ス唯最重ノ犯罪ト

看做セル殺人罪ニ之ヲ適用スルノミ  
此殺人ト云ヘル語ハ本條ニ在テハ須ラク故意ノ殺人即チ故殺ノ義ト解ス可キナリ是レ本法  
ノ精神ナリトス

都テ此他ノ犯罪ノ場合ニ於テハ其本罪ニ關スル物件ヲ隠蔽シタルコト付テ一般ニ毫モ罰ヲ科  
スルコトナシ蓋シ第四百四十四條以下ニ於テ盜犯ノ贓物ヲ隠蔽シタルヲ罰スル場合ノ外毫モ  
之ヲ見サル可シ

○第八十七條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者左ニ記シタル本犯ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セ  
ス

一本犯ノ配偶者

一本犯及ヒ其配偶者ノ尊屬親及ヒ卑屬親

一本犯及ヒ其配偶者ノ兄弟、姉妹、伯叔父母、甥姪

法律上ニ於テハ血屬及ヒ姻屬ヨリ生スル愛情及ヒ信實ノ自然ノ意思ヲ酌量セサルヲ得ス  
固ヨリ本法ハ本犯ノ血屬又ハ姻屬ノ親ヲ看テ其追捕又ハ刑ヲ免レシムルノ權利アルモノト  
認ムルニ非スト雖モ法律上ノ義務ト正當ノ愛情トノ間ハ在テ遂ニ愛情ノ意思ニ屈シタル者  
ニハ完全ナル宥恕ヲ與フルナリ  
此宥恕ハ本條ニ類似セル第四百四十六ノ場合ニ於テ既ニ定メタル所ナリ

○第八十八條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ遂ケザル者ハ之ヲ罰ス  
監護人眞ノ懈怠ニ因テ囚徒ヲ逃走セシメタル場合ノ外上ニ記載シタル諸犯罪ハ之ヲ遂ケタ  
ルニ非スシテ其目的ヲ達セザリシアル可ク又唯着手ニ過キサリシモノアル可シ  
然ル時ハ第二百十九條ニ據テ本刑ニ照シ一等ヨリ三等ヲ減ス可シ

○第四節 兵器及ヒ禁制ノ武器ニ關スル罪

○第八十九條 政府ノ允許ヲ受ケスシテ兵器、軍用器械、彈藥又ハ政府ニ於テ獨リ製造ス  
ル所ノ破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上二百  
圓以下ノ罰金ヲ科ス

允許ヲ受ケズシテ之ヲ日本ニ輸入シタル者亦同シ

本條ニ記シタル物件ヲ販賣シ又ハ販賣セントシタル者ハ三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處  
シ二十五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科ス

凡ソ政治ノ宜キヲ得タル諸邦ニ於テハ兵器及ヒ彈藥ノ製造ハ政府ノ獨占ニ歸ス蓋シ此事項  
ニ在テ人民ニ工業及ヒ商業ノ自由ヲ委ヌルハ甚ダ危險ニシテ反逆及ヒ内乱ノ場合ニ於テ政  
府ニ敵スル者官兵ニ抵抗スルヲ得ベキ兵器、彈藥其他戰爭器械ノ準備ヲ爲スコト屢之レアル  
可ケレハナリ

政府ハ此物件ノ製造ヲ獨占スト雖モ人民ニ命シテ其需要ノ全部又ハ一部ヲ製造セシムルコ

トテ得尤モ然ル時ハ製造ヲ命シタル工場ニ屬スル官吏ヲシテ其製造ヲ監察セシメ以テ政府ヨリ命シタル量數ヲ超テ毫モ製出セサル事及ヒ其一部分ヲモ竊取セサルコトヲ検査セシムルナリ

政府ニ於テ此製造ヲ獨店スル權ハ大ニ公ケル安寧ヲ保護スルモノナレハ立法者ハ人民ヲシテ之ヲ犯サシメラシメシカ爲メ之ニ妨害ヲ加フル者ニ對シテ嚴刑ヲ科セサルヲ得ザリキ  
本法ハ爰ニ兵器及ヒ彈藥ノ製造ヲ以テ國事犯ノ預備ノ行爲ト看做セルニ非ス然レモ此製造ニシテ國事犯ノ性質ヲ有スルコトナキヲ保ス可カラズ若シ其性質ヲ有スルモノトセバ第三百二十九條ヲ適用スベシト雖モ其兵器ヲ使用スル目的ノ確證ヲ要スベキニ其確證ヲ得ルハ常ニ難カルベシ

本法ニ於テハ茲ニ製造ノ目的ヲ措テ論セス其製造ノ所爲ヲ以テ之ヲ罰セリ實ニ法律ハ常ニ或ル行爲ヲ未定ノ性質ヲハ論スルヲナク又該犯ノ企ツベキ後來ノ目的ヲハ不問ニ付シ以テ唯其本來ノ性質及ヒ其現害ヲ論スルモ決シテ正理公道ニ背カザルヲ得ベシ

其他之ニ類似スル場合ニ於テ重大ナル犯罪ノ預備ノ行爲トシテ觀察スルヲ得ヘキ所爲ヲ一種ノ輕罪ト看做シテ罰スルコト頗レ多シ  
此適例ハ之ヲ本章外ニ求ムルヲ要セス直チニ人ノ住所ヲ侵ス罪及ヒ官ノ封印ヲ破棄スル罪(本章第六節及ヒ第七節)ヲ引證スルヲ得ベシ本條ニ記スル罪ヲ罰スルニ國事犯ノ刑ヲ以テ

セスシテ常律上ノ刑タル重禁錮ヲ以テスル所以ハ即チ此旨趣ニ因ル所ナリ

又外國ニ於テ製造シタル同一ノ物件ヲ日本へ輸入スルノ罪ヲ以テ之ヲ日本ニテ製造シタル罪ト同等ニ置ケルハ適當ナリト謂フベシ

并ニ本法ハ自カラ兵器又ハ彈藥ヲ製造シタルニ非スシテ唯之ヲ販賣シ若クハ販賣セントシタル者アル場合ヲ預見セサルヲ得ザリキ而シテ其刑ハ本刑ノ半ヲ減輕セリ

若シ該物件ヲ製造シタル者ニシテ之ヲ販賣シタルモ別ニ其刑ヲ增加セス是レ蓋シ本法ハ最大ナル社會ノ損害、該物件ヲ造ルニアリテ之ヲ販賣スルガ爲メ社會ノ危險ヲ增加スルニ非スト看做シタルヤ疑ヲ容レサル所ナリ且ツ之ヲ販賣セントスレハ實際其製造ノ罪ヲ發覺セシムルノ媒ト成ル可ケレハナリ

○第九十條 一般禁制ノ武器ヲ製造シ又ハ之ヲ日本ニ輸入シタル者ハ二月以上一年以上以下ノ重禁錮ニ處シ二十五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科ス

唯其武器ヲ販賣シ又ハ之ヲ販賣セントシタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科ス

本條ニ於テハ兵器ヲ論スルニ非ス禁制ノ武器ニ關スルナリ即チ佛國ニ於ケル風銃、懷劍、裝劍杖等ノ如キ是レナリ

禁制ノ武器ノ種類ヲ刑法中ニ掲目スルハ宜キヲ得タル者ニ非サルナリ且ツ其種類ハ新發明

ヲ以テ變スベキナリ

攜帶又ハ所有ヲ禁セラルベキ諸種ノ武器ハ法律及ヒ警察規則ヲ以テ之ヲ定ムベシ  
其武器ハ固ヨリ禁制ニ係ルモノタルカ故ニ允許ヲ得サル如何ハ論スベキニ非ス其允許タル  
決シテ之レアル可カラザレバナリ

此罪ノ刑ハ前條ノ刑ヨリ輕シ何トナレハ此物件ハ暴動反逆ノ場合ニ於テ前條ノ兵器ニ於ケ  
ルカ如ク官兵ニ對シテ攻撃又ハ抵抗ニ用ユルノ勢力アラサルヲ以テ社會ノ損害少ケレハナ  
リ

本條ニ於テモ亦前條ノ輕罪ニ於ケルカ如ク武器ノ製造ト其販賣トヲ區別シ販賣ノ場合ニ於  
テハ其刑ノ半ヲ減輕セリ

○第九十一條 前二條ニ記載シタル犯罪ニ關スト雖モ職工又ハ雇人ノ身分ニシテ情ヲ知  
テ該物件ノ製造、輸入若クハ販賣ニ從事シタルニ過キサル者ハ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス  
此犯罪ニ於テ毫モ發言ヲ爲シタルニ非スシテ唯其助手タルニ過キザリシ者ノ爲メ刑ヲ減輕  
スルハ至當ナリト謂フヘシ  
勿論此類ノ助力ナキニ於テハ多クハ皆ナ此罪ヲ犯スコト能ハサルナル可シト雖モ此助力ハ  
甚タ得易キ性質ノモノニシテ之ヲ爲スヲ得可キ人甚タ多ケレハナリ  
唯其二等ヲ減輕スルハ過多ナレバ一等ヲ減スルヲ以テ足ラント言フヲ得ベシ

○第九十二條 此節ニ記シタル犯罪ニ着手シタル者ハ之ヲ罰ス

兵器又ハ禁制ノ武器ヲ製造シタル罪ノ性質ハ極テ明瞭ナル事情ヲ表シ有形ノ證據ヲ表スル  
者ニシテ假令該犯其犯罪執行ノ始メニ於テ捕獲セザル、ト雖モ該犯ノ目的ニ就テ疑ヲ容ル  
、ヲ得サルナリ且其執行ヲ始メタルニ於テハ既ニ甚タ鑑定シ易スキ社會ノ損害ヲ存セリ故  
ニ或ル場合ニ於テ輕罪着手ノ罪ヲ論セザルノ原由ハ茲ニ現出セサルナリ此解釋ハ都テ本法  
ニ輕罪ニ着手ヲ罰スル諸般ノ場合ニ適用ス可キモノタルヲ以テ向後ハ或ル別段ノ思考ヲ加  
フ可キ事アラザルニ於テハ之ヲ再釋セス

行フテ遂ケサル犯罪ニ至テハ或ル事變ニ依テ其兵器ヲ損廢ニ至ラシメタル場合ノ外製造ノ  
罪ニ於テハ此事決シテナカルベシ

○第九十三條 前數條ニ依テ禁錮ニ處セラレタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付スル  
コトヲ得

此場合ニ於テハ容易ニ監視ノ旨趣ヲ證明スルヲ得ベシ何トナレバ此節ニ記載シタル輕罪ヲ  
犯セル者ハ多クハ皆ナ國安ヲ害スル敵ニ與ミスルヲ以テ懲通セラレテ再ヒ其類ノ犯罪又ハ  
之ニ類似スル他ノ犯罪ヲ犯スコトアルハキカ故ニ之ヲ監視ニ付スレバ其此ニ至ルヲ妨グ  
ヲ得可ケレハナリ

○第九十四條 前條ニ記載シタル物件ヲ販賣セス唯之ヲ所有シタルニ止ル者ハ五圓以上

凡ソ物件中唯之ヲ所持スルノミヲ以テ輕罪ト成ルモノアリ何トナレハ之ヲ所持スル社會ノ危險ヲ構成シ併セテ道德上ノ或ル罪過ヲ存スルヲ以テナリ兵器及ヒ禁制ノ武器ハ乃チ此場合ニアリトス然レモ之ヲ製造シ若クハ之ヲ輸入シ若クハ之ヲ販賣シタルニ非ラサル者ニ在テハ其刑大ニ輕フシテ罰金ニ過キサルナリ

本法ハ禁制ノ武器及ヒ兵器ヲ製造シタル者ノ外罰セサルヨリハ寧ロ唯之ヲ所持スル者ヲモ罰スルニ於テ更ニ克ク其目的ヲ達セリ何トナレハ凡テ人民ハ罰金ヲ科セラルノ恐アルヲ以テ畢竟珍奇ノ物件タルニ過キサル可キ此武器類ヲ買フゴト稀ナル可シ而シテ買者ノ稀ナルヲ以テ其製造ヲ獎勵セサル可ケレバナリ

但シ此輕罪ハ現行犯シタル時ノ外之ヲ罰セサルコトヲ注意スベシ犯者現ニ武器ヲ所持スル者タルコトヲ要スルナリ故ニ其者ノ手ニ於テ此物件ヲ見タル旨ヲ口實トシテ證據ヲ立ル者アリト雖モ是レカ爲メ其罪ヲ論スルハ本法ノ許サレル所ナリ  
其他之ト同シシ現行犯ノ外罰スルヲ得サル他ノ諸輕罪アリ

○第九十五條 上ニ記載シタル諸物件并ニ其物件ヲ製造スルニ用ユ可キ器械ハ何人ノ所有ニ係ルヲ論セス都テ之ヲ沒收ス  
本條ハ則チ常律上ノ規則及ヒ本法第五十五條ノ規則ヲ適用シタルモノナリ

本條之ヲ明記セル所以ノモノハ此事項ニ關涉スルハ本法ヲ恒例タルヲ以テ若シ此規則無カリセハ人之ヲ怪ム可ケレハナリ  
本條ハ二個ノ沒收ヲ明示スルノミ即チ本罪ニ關スル物件ノ沒收及ヒ其犯罪ノ用ニ供シタル器械ノ沒收是レナリ然レモ第五十五條ノ第三項ニ倣フテ直チニ該犯罪ヨリ生シタル利益ヲ沒收スルヲ得ルヲ疑フ可カラサルナリ

○第五節 浮浪ノ罪并ニ乞丐ノ罪  
○第九十六條 自己ノ家又ハ常住ノ家ナク職業或ハ其他ノ正當ナル營生ノ手段ナキ者ニシテ公ケノ道路公ケノ場所或ハ無人ノ場所ニ浪遊スル時ハ浮浪ノ罪トシテ十一月以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ兇器偽鑰又ハ家屋ヲ毀壞スルノ具及ヒ其他犯罪ノ用ニ供ス可キ器械ヲ持スル時ハ一等ヲ加フ  
何ノ場合ニ於テモ浮浪人ハ一年以上二年以下ノ監視ニ付ス  
外國ノ刑法浮浪人ヲ罪スルモノ多シ今其罪ノ性質ヲ陳述セシ  
別ニ惡事ヲ爲サレ浮浪人ヲ罪スルハ人ノ或ハ怪シム所トナラン實ニ常住ノ家ナクシテ道路ニ浪遊スルハ不正ノ事業タルヨリ寧ロ不幸ノ結果タルカ如シ  
然リト雖モ立法者ハ常居定業ナキ此有様ヲ見テ常ニ社會ニ危難ナルモノト倣セリ尤モ此有

縁ニ就テ刑罰ノ第二ノ原素タル道德上ノ損害ヲ見ルコト頗ル難シト雖也之ヲ以テ唯懶惰放蕩ヨリ生シ來ルノ有様ナリト認定スルヲ得ヘシ何トナレハ開化ノ國ニ在テ唯不幸ノ故ヲ以テ家ヲ失ヒ産業ニ離レタル者ハ其再ヒ産業ヲ得ル迄必ス公私ノ扶助ヲ得ヘキヲ以テナリ然レモ此罪ヲ罰スル所以ノモノハ唯道德上既往ノ損害ト社會公益上將來ノ危難トヲ臆測シタルニ出ツルカ如シ故ニ此罪ハ特別ニ論述スヘキ性質アリトス  
 佛國ノ立法者モ異例ノ方式ヲ以テ浮浪ハ一個ノ輕罪ナリ〔第二百六十九條〕記シタルヲ見レハ亦其他罪ト異レル所アルヲ知レルナルベシ  
 今其罪ノ性質ヲ論セン

第一自己ノ家或ハ常住ノ家若クハ少シトモ屢々止宿スルノ家ナキモノタルヲ要ス若シ此性質ヲ欠ク時ハ浮浪ノ罪ヲ論セス其第二ノ性質ハ職業ヲ行ヒ若クハ公私ノ年賦金又ハ扶助ヲ受クル等ノ正當ノ營生手段ナキモノタルヲ要ス

然リト雖モ眩人、藥商、歌兒、俳優等ノ諸所ニ浪遊スル者ハ假令ヒ卑賤ナルモ公然ノ職業アルヲ以テ浮浪人トスベキニ非ス

〔又公ケン場所又ハ原野森林ノ如キ無人ノ場所ニ浪遊スル者タルヲ要ス故ニ其既ニ私ノ小屋、庭欄、穀倉、タリトモ〕三入り所有者又ハ其僕婢ノ之ヲ隠シタル時ハ追捕スベカラズ  
 又其現ニ浪遊スル者タルヲ要ス法律ノ文ニ浪遊スル時之ヲ罪スベシトアリ〔第九十四條〕ニ

於テ禁制ノ武器ヲ所持スル時之ヲ罰スル同例トナリトス此罪ノ如キハ其犯罪後ニ證據ヲ舉ケテ之ヲ罰スルハ實益ナクシテ誤謬ノ患アルヲ以テナリ  
 其刑ハ甚ク重クスルヲ得ス故ニ禁錮ノ最寡限タル十一月ノ刑ニ處シ罰金ヲ科セス必ス拂フヲ得サルベキ人ニ之ヲ科セサルハ當然ナレハナリ  
 社會ノ危難更ニ大ニシテ惡意ノ臆測更ニ明カナル場合ニ於テハ其刑ヲ加重ス其場合ハ浮浪人ガ武器又ハ危難ノ器具ヲ有シタル時ニアリトス其器具ハ本法頗ル明ニ之ヲ掲載セリ此場合ニ於テモ亦其捕縛ノ際ニ於テ現ニ武器ヲ有シタルヲ要ス  
 監視ニ付スルハ大抵裁判所ノ權内ニアリト雖モ本條ノ罪ニ至テハ法律ニ從ヒ必ス之ヲ科セサルヲ得ス

○第九十七條 浮浪人過分ノ貨幣又ハ珠玉其他價額アル物品ヲ所持シ所持ノ理由ヲ證明スルコト能ハサル時ハ假ニ此物件ヲ差押ヘ置キ監視ノ期限間他ヨリ其返還ヲ求ムル者ナノレハ其期限後ニ之ヲ本人ニ還付ス  
 本條ニ言フ所ハ刑罰ニ非ス預防ノ處置ナリ而シテ他人ノ權利ヲ推測シテ之ヲ保全スルモノトス實ニ此物件ハ竊盜シタルモノト思量スルヲ以テナリ  
 假令ハ法律上ニ於テ他ヨリ此物件ヲ求ムル者ナキ場合ニ在テスラ浮浪人ニ之ヲ還付スルヲ許サザル者トスルモ尙此差押ハ其物件ヲ還付スルノ性質ヲ有スル也唯知レサル有權人ヘ之ヲ

還付セズシテ之ヲ官ニ還付シ官ニ於テ永ク之ヲ領置スルノミ然リト雖モ本法ハ斯ク如ク遠ク竊盜ノ思量ヲ及ホシタルニ非ズ故ニ此差押ハ他ヨリ其物件ノ返還ヲ求ムル者ナキニ於テハ浮浪人ニ還付スルノ約束ヲ以テ一時之ヲ爲スニ過キサレノミ

○第九十八條 浮浪ノ罪ニ處スト雖モ邑(其他公舎)又ハ平人ヨリ作業ト住居ヲ與ヘ將來ノ行狀ヲ保證シテ其交付ヲ請フ時ハ行政上ノ處置ヲ以テ第九十六條ニ記シタル禁錮及ヒ監視ヲ停止スルヲ得

此規則ハ佛蘭西刑法第三百七十三條ニ模擬スルモノトス

浮浪ノ罪ノ如キ例外ノ事項ニ在テハ畢竟其刑ハ既往ノ罰タルヨリモ寧ロ將來ノ犯罪預防ノ處置タルヲ以テ若シ僅ニ保證ヲ提供シテ交付ヲ請フ者アル時ハ本法其刑ヲ寬貸スルナリ本條ノ明文ニ於テハ邑(但シ一般ニ浮浪人出生ノ邑タルヘシ)及ヒ慈惠アル平人ヨリ交付ヲ請フヨリ明記スルノミ然レモ慈院又ハ其他ノ公舎ヨリ交付ヲ請フヨリモ明文ニ加フレハ更ニ可ナラン歐羅巴ニ在テハ貧民救助會社及ヒ無住者庇護會社ノ數頗ル増加シテ甚ダ有益ナルモノト成リタリ日本ニ於テモ亦是等ノ會社盛大ニ至ル可シ本邦ノ如キ慈惠者甚ダ多キヲ以テ唯其所行ヲ結合スルヲ要スルノミナレバナリ

○第九十九條 身體強壯ニシテ平常乞丐ヲ爲ス者ハ十五日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス十二歳未滿ノ幼兒ヲシテ己レノ爲メニ乞丐ヲ爲サシメタル者亦同シ

乞丐モ亦輕罪ナリトス深ク考ヘザル者ハ此罪ノ道德ニ背キ社會ニ害アル所以ヲ視出サハルベシト雖モ若シ其二個ノ特別ノ性質ニ注意セバ直チニ其然ル所以ヲ信スベシ即チ第一ニ乞丐者ノ身體強壯ナルヲ要ス之ヲ詳言スルハ年齢及ヒ其力ニ於テ勞動ニ堪ユルコトヲ要スルナリ勞動ヲ以テ生活スルヲ得ル者ニシテ愁訴、偽辨ヲ爲シ若シハ宿病ヲ假伴シテ人ノ恩施ヲ得以テ生活セント欲スル者ハ懶惰ノ最モ甚クシキモノナリ何トナレバ單竟其懶惰ニ依テ人生最賤ノ品格ヲ失フタルヲ以テナリ

又其乞丐ハ平常之ヲ爲スコトヲ要ス故ニ身體強壯ナル者ト雖モ一時作業ナク且ツ資産ナクシテ他人ニ救助ヲ乞フタル者ハ此限ニ非ラス平常乞丐ヲ爲スハ則チ懶惰ノ癖ヲ改メサルノ證トス

是故ニ乞丐ハ其初メノ原因ト及ヒシヲ改メサルトニ於テ其治癒ニ苦ケルノ所爲タルヲ明ナリ

其社會ノ損害ニ至テハ二様アリ其一ハ確實ナル現在ノ損害ニシテ又其一ハ推察スルヲ得ベキ將來ノ損害ナリトス

其確實ナル現在ノ損害トハ則チ經濟上ノ害ヲ謂フナリ何トアレハ乞丐者ハ諸貨物ヲ消耗シテ之ヲ生出スルニ非ズ又生活スル爲メ自カラ勞動ヲ爲サマルヲ以テ乞丐者ノ生活シ得ンニハ他人其勞動ヲ爲セルヲ以テナリ凡ソ乞丐ノ罪ヲ寬恕スル該邦ニハ乞丐者輻湊シ其邦ハ一

般ニ貧ナルモノトス蓋シ甲者乞丐スレハ之ニ憐憫ヲ加フニ乙者ヲシテ貧ナラシムルヲ以テナリ

又第二ノ社會ノ損害ハ浮浪人ノ社會ニ受ケシムル所ノ危險ニ類スルモノナリ何トナレハ乞丐者ハ必スシモ常ニ憐憫者ニ遭遇スルニ非ス又既ニ憐憫者ヲ厭ハシメタルヲ以テ遂ニハ竊盜ト兇犯ト爲ルベキノ恐アレハナリ

故ニ本法ハ十分ニ犯罪タルノ性質ヲ示シ且猶ホ後來ニ於テ更ニ重キ犯罪ト成リ得ルモノハ正理公道ニ適ツテ之ヲ罰スルコトヲ得ルナリ

又本法ニ於テハ十二歳未滿ノ幼兒ヲシテ己レノ爲メニ乞丐ヲ爲サシタル者ヲ乞丐ノ罪トシテ罰セリ蓋シ其幼兒該犯ノ實子タルヘキヲ要スルニ非ラサルコト論チ俟タス其實子タルモ罪ヲ宥恕スベキニ非サルナリ

其幼兒ノ年齢十二歳ヲ以テ最上限ト定メリ然レモ十二歳以上ノ兒ヲ乞丐セシムル者モアルベシ而シテ之ヲ罰セサルハ奇怪ナリト謂フベシ

然レモ十二歳以上ニシテ乞丐ヲ爲シタル者ハ其年齢ニ基ヒテ等差アル宥恕ヲ除クノ外自カヲ犯者ト成ルヲ以テ其者ノ共犯若クハ附從トシテ該犯ヲ罰ス可キナリ

本條ニ於テハ裁判官適宜ノ監視ニモ乞丐者ヲ付スル事ヲ明記セス然レモ之ヲ本條ニ加フルモ不便ナカルベシ

○第六節 住居ヲ侵ス罪

○第二百條 晝間故ナク竊ニ人ノ住居セル家屋其構内又ハ其附属物内ニ入り若クハ來入ヲ許ス時間ノ外ニ公立ノ建造物又ハ寺院ニ入りタル時一タヒ之ニ去ル可キヲ命シタルニ諾セサル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上十圓以下ノ罰金ヲ科ス

左ニ記載シタル情狀アル者ハ假令ヒ去ラント云フト雖モ各々四分ノ一ヲ加フ

第一 家屋内ニ潜伏シタル時

第二 門戶牆塼ヲ踰越毀壞シ若クハ偽鑰ヲ用ヒテ家屋又ハ附属物内ニ入りタル時

第三 兇器又ハ犯罪ノ用ニ供スベキ器械ヲ持シタル時

第四 兇器ヲ持セスト雖モ人ニ對シテ暴行ヲ爲シタル時

第五 二人以上ニテ犯シタル時

是レ亦更ニ重キ犯罪ノ意アルヲ思量シ立法者ガ之ヲ輕罪トシテ罰スル所ノ所爲ナリトス人若シ此所爲ノミヲ以テ之ヲ考察シ該犯ノ惡意アルヲ措テ察セザル時ハ人ノ住居ヲ侵ス罪ニ於テ其道徳上ニ背キ社會ニ害アルノ甚タ少キヲ見ルノミ況ンヤ本條ニ明記セル加重ス可キ情狀アラザル者ニ於テチヤ

然レモ立法者ハ實驗ニ據テ此法ヲ設ケタリ且ツ他ノ罪事ヲ犯スノ意ナクシテ竊ニ他人ノ住居ニ侵入スル者ナカルベキヲ以テナリ



若シ該犯好奇ノ情ニ依テ動カサレタルトノ證據ヲ立テ又ハ該家人ト不正ナル秘密ノ交(必スシモ罪トスベキニアラス)アルヲ以テ其許可ヲ得テ入りタルトノ證據ヲ立テタル時ト雖モ本條ノ刑ニ處セラレベシ何トナレバ該家主ヨリ許サレタルニ非スシテ且ツ多少其住人ヲ驚駭セシムルヲ以テナリ

本條第一項ニ據レハ無法ニ住所ヲ侵シタル者若シ最初ノ禁止ニテ去リタル時ハ其罪ヲ論セサルナリ是レ大ニ本法ノ規則ヲ寬ナラシムルモノナリ然レモ此事ハ晝間人ノ住居ヲ侵シタル者ニ適用スルノミ且ツ加重スヘキ五個ノ情狀中ノ一アル時ハ之ヲ適用セサルナリ此加重スヘキ情狀ハ解釋ヲ要セス都テ住人ノ騷擾ヲ増加シ其驚愕ヲ甚シクシ併セテ犯罪ノ意アルノ思量ヲ増加スルノ性質アリトス

本條ニ於テハ暴行ヲ爲サスシテ唯脅迫ヲ爲シタルノ場合ヲ記セス是レ恐シハ遺漏ト謂フヘシ但シ最初ノ草案ニハ之ヲ記載シタリシカ後ノ編纂ニ至テ之ヲ除キタルナリ本條何レノ場合ト雖モ若シ第三百六十四條ニ依リ脅迫ノ所爲ノミヲ以テ更ニ嚴刑ニ處スヘキノ脅迫ヲ爲シタルカ又ハ重大ノ暴行ヲ爲シタル時ハ本條ニ依テ論スルヲ止メ以テ更ニ重キ此脅迫又ハ暴行ノ刑ニ處スルコト論ヲ俟タサルナリ

○第二百一一條 夜間故ナク人ノ住居ヲ侵シ又ハ公立ノ建造物寺院若クハ其附屬物ニ入りタル時ハ該犯退出ヲ肯スル旨ヲ述ルト雖モ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ科ス若シ前條ニ記載シタル情狀アル時ハ各々一等ヲ加フ

夜間ニ在テハ住人ノ安息ヲ要スルノ故ヲ以テ人ノ住居及ヒ公立ノ建造物ノ侵スベカラサルコト晝間ニ勝レリトス且ツ夜間ニ在テハ更ニ監察ヲ爲シ難キカ故ニ法律上ニ於テ一層安寧ヲ保護セサル可カラズ并ニ夜間竊ニ侵入スル者ハ正直ナル旨趣ヲ以テ之ヲ解シ難キカ故ニ惡意アルノ疑念ヲ増スヘシ

又該犯禁止ニ應シテ直チニ去ルヘキ旨ヲ述ルト雖モ是カ爲メニ刑ヲ免レシム可カラズ且ツ前條ニ記載シタル加重スヘキ五個ノ情狀モ爰ニ同一ノ効ヲ生スベシ

○第二百二條 故ナク皇居ノ一ニ入りタル者ハ前二條ノ刑ニ照レ各々一等ヲ加フ

舊法ニ於テハ天皇陛下ニ對スル此不敬ニ付テハ常ニ是レカ爲メ生スル所ノ嫌疑ノ故ヲ以テ大ニ其刑ヲ嚴ナラシメタリ

然ルニ今日ニ在テハ罪ノ輕重ニ依テ刑ノ差等ヲ立ルヲ以テ既ニ人民ノ住居ヲ侵シタル罪ノ刑ヲ減輕シタル上ハ本條ニ論スル場合ニ於テモ亦同シク其刑ヲ減輕セサルヲ得サリキ

然レモ其一等ヲ加フルノ旨趣ハ天皇陛下ヲ尊敬スベキノ故ヲ以テ容易ニ之ヲ知ルベシ且ツ皇居看守人ノ注意深キ容易ニ之ヲ防預スルヲ得ベシ

第七節 官ノ封印ヲ破壞シ及ヒ封印セル物件若クハ裁判所書記局所藏ノ物件ヲ竊取

セル罪

第二百三條 官ノ命令又ハ注意ヲ以テ門戶箱櫃若クハ其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ故ラニ破壊又ハ除棄シタル者ハ其所爲ノミヲ以テ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ科ス

封印ヲ施ス事ハ竊取ヲ預防スル爲メ若クハ唯知リテ害アルヘキ人ノ閱見ヲ預防スル爲メ或ル物件ヲ保護スル時佛國ニ於テ専ラ用ユル處置ナリトス

佛國ニ於テ封印ヲ用ユル主タル場合三個アリ即チ左ノ如シ

其一 遺死者アリテ其遺物相續人知レサルカ若クハ知レタルト雖モ不在ナル時

其二 商人家資分散ヲ爲シテ其債主ノ義務ニ充ルルモ足ラサル抵當物タル自己ノ財産ヲ竊取スルヲ恐レル時

其三 重罪若クハ輕罪ニ依リテ裁判所ヨリ證據又ハ罪證ト爲ルヘキ物件ヲ差押ヘタル時

是等ノ場合ニ於テ若シ嫌疑アル者此物件ヲ竊取スルヲ得ルノミナラス之ヲ閱見スルヲ得ル得セシメハ日後裁判所ノ紀問ヲ害ス可ケレハナリ

封印ハ封蠟ヲ用ヒテ物件ニ貼附スル尋常ノ帶紙又ハ羊皮紙ヲ帶紙ヲ以テスルモノナル如故ニ之ヲ以テ其物件ノ竊取若クハ閱見ヲ防ズヘキ實用ヲ爲サザルモノナリ

又時トシテハ封印ノ監守人ヲ任スルコトアリ此法式ハ少シク費用ヲ要スルノ妨アルヲ以テ常ニ之ヲ用ユルコトヲ得ス故ニ尙ホ法律上ニ於テ刑ヲ科シテ以テ封印ヲ犯サシメサルヲ得サルナリ且ツ此刑ハ監守人ニ對シテモ亦必要ナルモノトス

此等一條ニ於テハ封印ヲ破壊又ハ除棄シテ後ニ其物件ヲ竊取シタルヤ否ヤハ措論モス且ツ該犯羣モ後來ノ犯罪ヲ目的トセザリシ時ト雖モ其破壞シタル所爲ノミヲ以テ其罪ヲ罰スルナリ尤該犯機巧ナラサルニ依リ若クハ官ノ封印タルコトヲ知ラスシテ犯セルモノニ非ス即チ故意ヲ以テ之ヲ爲シタルヲ要スルナリ

此罪ヲ犯セル者ヲ罰スルノ刑ハ既ニ頗ル重シト雖モ封印ノ監守人自ラテ此罪ヲ犯ス時ハ更ニ之ヲ加重スルコト後條ニ示スカ如シ

○第二百四條 官ノ封印ヲ破壊シタル者人身ニ對シテ暴行ヲ加ヘ若クハ脅迫ヲ爲シタルトナクシテ其封印シタル物件ノ全部又ハ一部ヲ竊取若クハ損壞シタル時ハ竊盜ノ刑ニ照シテ一等ヲ加フ

封印ヲ破壊シタル者自カラテ其封印シタル物件ヲ竊取若クハ損壞シタル時ハ第一ノ犯罪ト異リタル第二ノ犯罪ヲセルモノトス然レモ之ヲ一個ノ罰スヘキ所爲トナセリ是レ總則第一百十五條ニ預見セル場合ニシテ數罪ヲ合シテ一罪ト爲セザルモノナリト雖モ亦格別ノ場合タルモノニシテ其數罪中唯最も重キ犯罪ノ刑即チ本條ニ在テハ竊盜ノ刑ヲ科スルニ非スシテ特ニ其刑ニ照シテ一等ヲ加フ是レ道德及ヒ社會ノ損害更ニ大ナルガ爲メナリ但シ本條ニ於テハ暴行若クハ脅迫ヲ爲シタルコトヲ以テ其盜犯ヲ指シテ竊盜第四百十條ヲ見ルヘシト

又本條ニ於テハ封印シタル物件ヲ竊取シタルニ非スシテ唯之ヲ損壞シタル時ト雖モ同一ノ刑ヲ科セリ其刑ハ通例他人ニ屬スル動産ヲ毀壞シタル罪ノ刑ヨリモ遙カニ重キモノナリ蓋シ他人ニ屬スル動産ヲ毀壞シタル罪ハ竊盜ニ比スレハ之ヲ罰スルコト輕ケレハナリ(第四百七十條及ヒ第四百七十一條ヲ見ルベシ)且ツ該物件ヲ竊取又ハ損壞シタル者其物件ノ所有者タル時ト雖モ尙ホ其刑ハ同一ナリ勿論此他ノ場合ニ於テ此事ハ罰ス可キ者ニアラサルナリ此三個ノ場合ハ各々個別ニ之ヲ考察スレハ甚々相異ナルモノナリト雖モ之ヲ同視シタルヲ以テ觀レハ本法ノ目的ハ首トシテ官ノ封印ヲ犯サセラシムルニアルヲ知ルヘシ

其他封印ヲ破壞シタル後ニ其物件ヲ閱見スルニ止マリ加之其書類ノ寫ヲ取りタル者ニ罰シテハ封印ヲ破壞シタル罪ノ刑ヲ加重セス

并ニ封印ヲ破壞セシ本人タカニ非スレテ唯其破壞ニ乘シテ其中ニ在リシ物件ノ全部又ハ一部ヲ竊取若クハ損壞シタル者ハ其物件ノ所有者タルニ非レハ竊盜又ハ動産ヲ毀壞シタル罪トシテ之ヲ罰ス可キノミ

○第二百五條 封印破壞ノ所業ニヨリ重輕罪裁判ノ證據即チ未タ終ラザル詞訟ニ干係シタル書類ノ書類ヲ盜奪若クハ破壞シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮并ニ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

立法者が本條ニ於テ保護セントスル物件ノ大切ナルコトヲ認定スルハ甚々難カラス此物件ハ重大ナル刑事ノ詞訟ニ干係ス而シテ其詞訟未タ了ラス故ニ社會拜ニ被告人ハ此大切ナル證據ヲ失フニヨリ爲メニ利害ヲ害セラルベシ依テ本法ハ其盜奪破壞ノ犯者ヲ罰スルニ最モ重キ輕罪ノ刑ヲ以テスルナリ

○第二百六條 前條ニ掲ケタル詞訟ノ證據トナルベキ書類ニシテ裁判所ノ書記局ニ藏メ又ハ裁判官、檢事、若クハ其補員ノ手ニ在ル者ヲ竊取若クハ毀損シタル者ハ平人ナレハ六月以上二年以下ノ重禁錮并ニ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ場合ト前條ノ場合トノ差異ハ本條ニ於テハ封印破壞ノ所業ナキニアリトス然リト雖モ其物件ハ兩條相同シク其詞訟モ亦未タ了ラス其物件散逸セルニ非スシテ書記局又ハ裁判所官吏ノ手ニ在ルモノナリ故ニ其罪タル道德上ノ點ニ於テ頗ル重大ニシテ社會ノ損害モ又大ナリ其刑前條ノ刑ヨリ稍々輕シト雖モ尙頗ル重キモノナリトス但シ罰金ハ最寡限ノ拾圓ニ改ムルヲ可ナリト思考ス

○第二百七條 前條ノ刑ヲ犯ス者若シ封印ノ看守人、書記、又ハ其他ノ裁判所官吏タルハ其刑ニ一等ヲ加フ

唯怠惰ニヨリテ此ヲ犯シタル場合ニ於テハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

他人ノ犯罪ヲ豫防スヘキ任アル官吏或ハ政府ノ信任ヲ受ケテ其罪ノ爲メニ害セラルヘキ利

益ヲ守ル人ニシテ該罪ヲ犯セルモハ其罪更ニ重テ加フルハ本法ノ一般ニシテ神聖ナル原則ナリトス

第一ノ臆測ニ從ヒ官吏ノ犯罪セルモノ、刑ヲ加重スルハ總則ニ見ユタリ(第九九條)本章第百八十一條ニ囚人ノ逃走ヲ助ゲタル看守人ハ牢獄ニ付屬セル其他ノ者ヨリ其刑ヲ加重スヘシトアリ又竊盜ハ手代若クハ奴僕ノ之ヲ犯ス其刑ヲ加重スルヲ後ニ見ユ

是ヲ以テ觀レハ封印ノ看守人ニシテ封印破毀ノ罪ヲ犯セハ平人ノ之ヲ犯シタルモノヨリ更ニ嚴罰ヲ加フヘキハ理ノ當然ナリ證據ノ書類ヲ竊取破毀テタル看守人モ又之ニ同シ

此看守人怠惰ニヨリテ此罪ヲ犯シタル時ハ罰金ヲ科スルヨリ外ニ之ヲ罰スヘキ手段ナカルヘシ何トナレハ若シ之ヲ禁錮ニ處スルトモ輕禁錮即チ苦役ナキ禁錮ノ外ニ處スルヲ得スシテ之カ爲メニ大ナル利益ヲ見ス唯其勤務上ニ不便ヲ醸生スヘキヲ以テナリ且ツ其職掌ハ給料多キモノニ非ルカ故ニ多額ノ罰金ヲ科スルヲ得ス

但シ怠惰ノ官吏ハ刑法ヨリ更ニ嚴ナル罰責ヲ加フヲ得即チ其場合ノ輕重ニヨリ官省ニ於テ職務ヲ免シ若クハ之ヲ中止スルヲ得ル是レナリ

○第二百八條 本章ニ豫定シタル竊取ニ場合ニ於テハ都テ竊盜ノ刑ヲ科シ其罪ニ屬シタル加重ノ情狀アルニ從ヒ之ヲ加重ス  
人身ニ對シテ暴行若クハ脅迫ヲ加ヘタル時ハ強盜ノ刑ニ處ス

法律既ニ竊取ノ刑ヲ以テ本章竊取ノ場合ヲ罰スル以上ハ竊盜ノ刑ヲ加重スルノ例モ亦此場合ニ於テ通常ノ效驗ヲ生スヘキモノナリトス竊盜ヲ加重シ其刑一等ヲ加ヘシムル所ノ情狀如何ハ第四百十一條ニ見ユ

暴行又ハ脅迫ニヨリテ竊取シタル時モ亦加重情狀ニヨリテ其刑ヲ加フルヲ得ヘシ(第四百一十五條參着)

○第二百九條 前數條記シタル輕罪ノ未遂犯罪ハ罰スヘシ  
輕罪ニ就テ屢々設ケタル所ノ此規則ハ別ニ註解ヲ爲スヲ要セス寧ロ此規則ナキ場合ニ於テ其何故タルヲ注釋スルニ必要トスヘシ

○第二百十條 右ノ外官府ニ屬シ又ハ宗旨ノ用ニ供シタル動産不動産ヲ盜取毀壞シタル者ニシテ特別ノ刑名ナキトキニ平人ニ對シテ犯シタル同一罪ト同ク處斷シ第三編第二章ニ記載シタル區別ニ從フ

平人ノ財産ニ害ヲ加ヘタル者ヨリハ政府ノ財産ニ害ヲ加ヘタル者ヲ嚴ニ罰スルコトハ正理ニ合セザルヘシ其國ノ安寧ニ干スルノ物件ニアラスシテ唯政府ノ所有ニ係ルニ過キサレモノヲ竊取毀害シタル犯人ニ對シテ更ニ重キ罰ヲ加ルハ決シテ褻ムヘキノ理由ナレ  
道德ニ背クノ點ヨリ見ルニ其犯人ハ平人ノ財産ヲ害スル者ニ比シテ更ニ大ナラザルノミナラズ世人動モスレバ政府ノ財産ヲ見テ平人ノ財産ノ如クニ神聖ナラズト想像スルノ弊習ア

其見ル所ニヨレバ政府ハ一種ノ想像物ノ如キノミナラズ其損失ヲ許多ノ納稅者ノ間ニ分ツテ以テ各自ノ損害ハ甚々僅々ナルガ故ナリ  
余ハ此想像ヲ眞理ナシト輕蔑スルヲ得ズ又其思想アルニ拘ラズ政府ノ財産ヲ盜ム者ハ道德ヲ損害スル相同シト云モ社會ノ損害ヲ減スルカ加シ  
此理由タル決シテ其刑罰ヲ減スベキモノニアラスト雖モ之ヲ重クセザルノ理由ト爲スヲ得ベキナリ

○第八節 公務ヲ行フヲ拒ム罪

○第二百一十一條 凡ソ陸海軍ノ將校又ハ下士タル者行政又ハ司法官署ヨリ出兵ノ要求ヲ受ケ之ヲ肯セサル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科ス一國ノ臣民中他人ヨリモ更ニ法律ヲ遵奉シ官憲ニ對シテ從服ス可キ責アル者アリトセズ其者ハ他人ヲシテ其法律及ヒ官憲ノ命ヲ遵奉セシムルノ任アル人特ニ陸海軍ノ將校是レナルベシ蓋シ到底社會ノ威力ヲ恃ムヘキハ陸海軍ノ將校ニアレバナリ  
凡ソ軍秩上ノ階級如何ヲ問ハス兵隊ノ司令官タル者若シ之ニ出兵ヲ要求シ得ル官憲ヨリ受ケタル所ノ命令ヲ破リタルヲ不問ニ付スル時ハ兵力ハ法律ヲ保護スルニ用ユルニ非スシテ却テ法律ヲ傾覆スル爲メニ用ユルニ至ルヘシ  
本條ニ記載シタル將校及ヒ下士タル者其勤務ヲ行フヲ肯セサルガ爲メニ罰セラレンニハ其

勤務ヲ正シク之ニ要求シタルコトヲ要ス即チ其要求ノ權利ヲ有スル官憲ヨリ之ヲ要求シ且ツ適當ナル法式ヲ用ヒテ其要求ヲ爲シタルコトヲ要スルナリ  
此法式ハ一般ニ甚々簡單ナルモノニシテ若シ書面ヲ以テ要求スル時ハ其要求ヲ爲セル官憲ハ二様ニ意義ヲ解シ得ルコトナク明瞭ニ自己ノ名ヲ示スヲ以テ足レリトス又其要求スル所ノ處置ヲ精密ニ示シ且ツ其處置ヲ爲スヘキ時ト場所トヲ明示スルヲ要スルトハ之ヲ記載スベシ

其命令ノ頗ル明瞭精密ニシテ執行シ得ヘキヤ否ヤ要求シタル官憲ノ其命令ヲ與フル權アルヤ否ヤハ刑事裁判所ニ於テ之ヲ判斷スヘシ

本條ニ於テハ陸海軍ノ出兵ヲ要求シ得ル行政又ハ司法官憲ヨリ其要求ヲ爲シタルコトヲ想像スルノミ

若シ其命令陸海軍ノ官憲ヨリ出タルモノニシテ之ニ服從セザリシ時ハ軍務ノ本分ヲ欠キタルノ罪ニ屬ス可キヲ以テ軍律中ニ就テ其刑ヲ求ム可キナリ而シテ其處刑モ亦同シク陸海軍裁判所ノ管轄タルヘシ本條ニ論スル將校ノ罪ハ多少國事犯ニ關スル發起心ヲ有スルカ故ニ本法ハ之ヲ一般ニ國事犯輕罪ノ刑タル輕禁錮ニ處スルノミ

又若シ陸海軍ノ尋常ノ官吏其長官ニ對シテ服從セサル罪ヲ犯セシ時ハ其刑ハ軍律上ノ刑即チ懲罰ノ刑タル可クシテ本法ノ間ハサル所タルコトヲ注意ス可キナリ

○第二百十二條 凡ソ醫師、軍醫、舎密家其他自己ノ職務ニ因テ官ヨリ解剖鑒定又ハ或ル檢査ヲ爲スコトヲ命セラレタル者正當ノ故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科ス

本條ニ論スル所ノ要求ハ行政官ヨリモ出ルコトアルベシト雖モ多クハ司法官ヨリ出ツベク而シテ鑒定ハ重罪又ハ輕罪ノ下吟味ヲ明カナラシムル爲メニ之ヲ爲スモノナリ

本條ヲ草シタル後治罪法ニ於テモ同シク鑒定人其職務ヲ行フコトヲ肯セサル場合ヲ預見セサルヲ得サリキ而シテ治罪法編纂者ハ既ニ刑法ニ於テ此場合ヲ規定セシコトヲ考ヘサリシニヤ又ハ其刑ヲ重キニ過クルモノト思ヒシニヤ此新法ニ於テハ其罰金ヲ貳圓以上拾圓以下トナシタルノミ(治罪法第二十條及第二十一條ヲ見ルヘシ)蓋シ元老院ニ於テ此二草按ヲ審查スル時其刑ヲ一様ニ歸セシムルコト容易ナルヘシ

治罪法ニ於テハ職務ヲ行フコトヲ肯セサル鑒定人ニ對シテ出頭又ハ供證ヲ肯セサル証人ニ科スル所ノ刑ヲ科シタルノミ  
鑒定人ノ刑ハ更ニ之ヲ重クセサルヲ得サルカ如シ何トナレハ鑒定ハ供證ニ比スレハ更ニ必要ナルコトアル可ケレバナリ

○第二百十三條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶ノ入港スルニ方リ醫師及ヒ軍醫其病患ヲ檢査シ又ハ其病毒ヲ撲滅スルコトヲ官署ヨリ命セラレ正當ノ故ナクシテ之ヲ肯

セサル者ハ前條ノ刑ニ同シ

獸類傳染病流行ノ際獸醫其職務ヲ行フコトヲ肯セサル者ハ前條ノ刑ニ照シテ一等ヲ減ス此場合ハ適當ニ之ヲ言ヘハ鑒定ノ場合タルニ非ラサルナリ何トナレハ此醫師ハ傳染病ヲ撲滅セシムル爲メニ之ヲ命スルヲ以テナリ

故ニ前條ノ刑ヲ減輕シテ治罪法第二十條及ヒ第二十一條ノ罰金ノ高ニ下シタル時ト雖モ之ヲ以テ本條ノ刑ヲ減輕スルノ道理ト爲ス可カラサルヘシ

且ツ此罪ハ其職務ヲ行フヲ肯セサルヨリ生スル社會ノ損害更ニ大ナルノ故ヲ以テ之ヲ加重シタルナリ

第二百十三條ノ二

(其他總テ正當ニ要求セラレタル職務ヲ故ナクシテ肯セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス)

余ヲ以テ之ヲ觀レハ本法ハ此一般ノ規則欠如セルヲ以テ此規則ヲ明記シテ其欠ヲ補フ可キニ似タリ若シ此規則ナクシハ凡ソ人民一般ノ災禍火災洪水等ノ場合ニ於テ官ニ助力シ若シハ各自ノ人民ニ助力ス可キノ要求ヲ受ケタル者其助力ヲ肯セザルト雖モ之ヲ罰スルコトヲ得サルニ至ルヘシ

且ツ治罪法ニ於テハ正當ニ要求セラレタル職務ヲ行フコトヲ肯セサル此他ノ場合ヲ預見シ

テ之ヲ罰シタリ故ニ預見セサル場合ニ付テ記シタルニ過キササル本條ヨリモ治罪法ノ規則ヲ取ル可キナリ

是ノ故ニルソ證人出頭ヲ肯セサル者及ヒ出廷セサル陪審ハ治罪法第九十二條及ヒ第四百四十七條ニ依テ罰セラレ、ナリ

刑法草案注解第七

○第五章 一般ノ信用ヲ害スル罪

本案ハ此章ニ於テ諸種ノ偽造罪ヲ聚記ス此諸罪タル歐洲諸國ノ刑法ニ於テハ多クハ散亂シテ互ニ聯合セサルモノナリ而シテ佛國ノ刑法ニ至テハ此簡慢ノ弊アルノミナラス公ケノ安寧ヲ害スル重罪輕罪ト題スル標題中ニ偽造罪ノ最ナルモノヲ混入シタルノ不條理アリ  
本案ノ標題ハ更ニ精密ニシテ且ツ明瞭ナリトス是レ本果ニ於テハ諸種ノ偽造罪ヲ悉ク合シテ一章ト爲シ之ヲ九節ニ分テルヲ以テナリ

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

○第二百十四條 内國ニ於テ合法ノ通用ヲ爲セル内國又ハ外國ノ金銀貨幣ヲ偽造シテ行使シタル者ハ無期ノ徒刑ニ處ス

其貨幣ノ實價ヲ減シ若クハ其命價ノ記額ヲ増加シ若クハ他ノ金屬ヲ燒附ケ以テ之ヲ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

凡ソ偽造罪中貨幣ノ偽造ハ社會ノ爲メニ最モ危險ナル偽造罪タルコト明カナリ是ヲ以テ猶ホ未タ古昔苛刻ノ風ヲ脱セサル法制ニ於テハ最モ恐怖スベキ刑即チ死刑ヲ以テ之ヲ罰スルナリ

今日ニ至テハ歐洲諸邦中死刑ヲ以テ貨幣ノ偽造罪ヲ罰スルノ邦ナシ日本ニ於テモ亦已ニ此

刑法ノ頒布ヲ待タズシテ此苛刻ヲ廢シ明治何年ノ布告ヲ以テ死刑ニ代ルニ終身懲役ノ刑ヲ以テシタリ蓋シ從來ノ苛刻ハ支那ノ制度ヨリ來リシナラン

此改革ハ道理上ニ於テ必要ナルモノトス抑死刑ノ刑タルヤ高ク眞理ノ點ヨリ之ヲ觀察シ同害相償ノ主義ヲ以テ裁判ノ法トハ倣サハル時ハ謀殺罪ニ付テモ既ニ死刑ヲ科スルノ正理タルヲ證明シ難キモノナレハ他人ノ財産ニ對スル犯罪若クハ公ケノ財産ニ對スル犯罪ニ關スルニ止ル時ハ之ヲ主理スルヲ得サルコト論ヲ俟タザルナリ貨幣ヲ偽造シタル重罪ノ場合ノ如キ則チ是ナリ、

故ニ爰ニ科スヘキ最重ノ刑ハ則チ無期徒刑ナリトス

且ツ此刑ヲ科センニハ同シク此犯罪ヲ構成スル左ノ三個ノ情狀ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 銅貨ニ關スルニ非スシテ金銀貨ニ關シテ偽造ヲ爲シタル事

第二 日本ニ於テ合法ノ通用〔此語ニ付テハ後ニ説明スベシ〕ヲ爲セル貨幣ニ關スル事

第三 貨幣ヲ造シタル者其偽造ノ貨幣ヲ内國ニ於テ行使シタル事

左ニ此三個ノ條件ヲ簡單ニ復論スベシ

第一 其偽造金銀貨ニ關スルコトヲ要スルナリ何トナレハ此貨幣ハ頗ル貴キ金屬タルガ故ニ其偽造ニ因リ眞貨ト信シテ偽造貨ヲ受取リタル諸人ノ爲メニ頗ル重大ナル損害ヲ生ズルヲ以テナリ然リト雖モ之ヲ以テ銅貨ノ偽造ハ不問ニ付スルモノト謂フ可キニ非

ス此偽造罪ハ第二百十七條ニ於テ更ニ輕キ刑ヲ以テ之ヲ罰スルナリ

又本法ハ後條ニ於テ紙幣ノ偽造ヲモ同シク無期徒刑ノ刑ヲ以テ之ヲ罰スベシ然レモ其之ヲ同一ニ罰スル所以ノモノハ紙幣ハ銅貨ヨリモ寧ロ金銀貨ノ代用ヲ爲セルヲ以テナリ且ツ後來日本ニ於テ例ヘハ五錢又ハ六錢ノ如キ小數ニ代用スル紙幣ヲ發行スルニ至リタル時ト雖モ銅貨ハ決シテ一二錢ヨリ多カラサル可キヲ以テ銅貨ノ偽造ニ比スレハ其紙幣ノ偽造ニ於テ更ニ大ナル損害ヲ生ス可ケレハナリ

斯ノ如ク金銀貨ト銅貨トノ間ニ爲セル區別ハ一般ニ外國ノ法制ニ於テ採用アル所ニシテ本邦ニ於テモ亦之ヲ採用シタルナリ

第二 其偽造内國ニ於テ合法ノ通用ヲ爲セル貨幣ニ關スルコトヲ要スルナリ此合法ノ通用トハ日本ノ法律ニ於テ通用ヲ許ス所ノ貨幣ニハ非スシテ通用ヲ命スル所ノ貨幣即チ通用スルヲ得ルモノニ非スシテ通用セサルヲ得サル所ノ貨幣即チ負債者其義務ヲ盡サント欲スル時債主ニ於テ其負債者ヨリ受取ラサルヲ得サル所ノ貨幣ノ義ト解ス可キナリ

唯通用ヲ爲スヲ得ル所ノ貨幣ノ偽造ニ付テハ次條ニ於テ之ヲ論ズベシ  
并ニ舊貨一分銀又ハ二分金ノ如キ全ク通用ヲ爲サスシテ其實價ノ外估價スルヲ得可ラサル日本舊貨幣ヲ偽造シタル者ニ對シテハ貨幣偽造ノ刑ヲ科スルコトナカル可シ



此偽造ハ販賣若クハ交換シタル物件ノ質ニ關シテ詐欺ヲ爲シタル罪ノ部類ニ屬スベシ其罪ノ輕重大ニ異ナルモノナリ〔第四百三十六條ヲ見ルベシ〕  
若シ日本ニ於テ合法ノ通用ヲ爲セル貨幣ヲ偽造シタル時ハ其貨幣内國ノ貨幣タルカ若クハ外國ノ貨幣タルカヲ區別スルニ及ハサルナリ

從來ハ洋銀ハ日本ニ於テ合法ノ通用ヲ得タリ今日ニ至リテハ日本ノ貿易銀ヲ洋銀ト同一ノ價格ニテ大藏省ニ收受スルヲ許シタルニ依リ其通用ノ利益恐ラクハ消滅シ去ルベシト雖モ本法其刑ノ適用ヲ擴メテ廣ク之ヲ及ホシタルハ其處置ノ宜シキヲ得タリト謂フベシ何トナレバ他日歐米ノ或貨幣ヲ日本ノ貨幣ト同等ノ價格ニテ通用スルヲ許スノ時到ル可キコト疑ヲ容レサレハナリ

歐羅巴中羅甸地方ノ稱スル諸邦ニ於テハ已ニ貨幣ノ聯合ヲ設ケ以テ其聯合各邦ノ貨幣ヲ他ノ聯合諸邦ニ於テ自由ニ通用スルコトヲ許セリ佛蘭西白耳義以太利瑞士ノ如キ是レナリ

第三 偽造者其偽造シタル貨幣内國ニ於テ行使シタルコトヲ要スルナリ故ニ此重罪ハ二様ニ涉リタルモノニシテ一人ニ在テ道德上及ヒ社會ノ損害ヲ二重ニ生スルモノナリ  
本法ハ後條ニ於テ一人ニシテ此二罪中ノ一罪ヲ犯セル場合ヲ預見セリ勿論其刑ハ二罪ヲ兼テ犯ス者ヨリ輕シ

佛國ノ刑法〔第三百二十二條〕ハ更ニ嚴刻ナルモノニシテ條理公道ニ適スルヲ抄シ何トナレハ佛律ニ於テハ此二罪中ノ一罪ヲ犯シタルニ止ル者モ亦同一ノ刑ニ處スルヲ以テナリ  
本條ノ第二段ニ於テハ其第一段ヨリモ更ニ輕キ犯罪ヲ預見セリ即チ眞貨幣ヲ變造スル罪是レナリ此犯罪タル道德ニ背クノ度ハ第一段ノ罪ト同一ナリト雖モ社會ノ損害ニ至テハ甚タ抄シ何トナレハ第一段ニ預見セル偽造ニ至テハ鑄形ヲ用ヒテ之ヲ爲スモノニシテ一度適宜ニ其鑄形ヲ製シタル上ハ許多ノ偽造貨幣ヲ製造スルヲ得ルト雖モ貨幣ヲ變造スルニ付テハ其變造セル貨幣一個毎ニ各々別段ニ多少ノ時間ヲ費シ困難ナル工作ヲ加フルヲ要スレハナリ  
本法ハ貨幣變造ニ付テ罰スベキ三個ノ變造方法ヲ示スノミ此方法ノ最モ恐ル可キモノタルヲ以テナリ左ニ逐次之ヲ論スベシ

第一 貨幣量目ノ價格則チ實價ヲ減スル事但シ此方法ハ貨幣ノ縁ヲ削リテ金分ヲ取り其空處ニ無價ノ金屬ヲ填ムルカ若クハ舍密ノ術ヲ施シテ貨幣全面ノ金分若干量ヲ取ル等ノコトナリ實ニ貨幣ノ偽造人ハ近世最美ノ發明タル「ガルフア」ノ「プラスナー」ヲ此惡業ニ利用スルニ至リタリ  
第二 貨幣ノ命價ヲ示ス數字ヲ變造スル事此所爲ハ眞價ヨリ更ニ大ナル價格ヲ示シテ以テ其命價ヲ増加スルモノニシテ他ノ所業ニ比スレハ更ニ冒險ナルモノト看做スヲ得ベ

シ何トナレハ貨幣ニ於テハ其價格ヲ示セル數字ハ各々其貨幣ノ別段ノ大サニ應シテ異ナルモノニシテ凡ソ貨幣ヲ受取ル者ハ一般ニ其貨幣ニ示セル數字ヨリモ更ニ克ク其鑄形ノ價即其大サヲ認ムルヲ以テナリ故ニ其數字查察スル者ハ外國人ノ外之アラサルナリ且ツ外國人ト雖モ其文字亞刺伯字又ハ羅馬字タル時之ヲ查察スルノミ

第三 眞貨ト異ナル金屬ヲ以テ之ニ燒附ル事即チ銅貨ニ銀ヲ燒附ケ銀貨ニ金ヲ燒附ルガ如シ

此類ノ變造ハ元老院ノ審査ニ付シタル草案ニ於テハ之ヲ記載セサリシト雖モ其後編纂委員中ニテ此虧缺ヲ補填スヘキ意見ヲ提出セル者アリキ此類ノ變造ヲ刑典ニ加フルコトハ必要ナルニ似タリト雖モ是レ甚タ危險ナルモノニ非サルナリ何トナレハ燒附ヲ爲スト雖モ之レガ爲メ貨幣ノ價格ヲ記シタル文字ヲ毀滅スルヲ得ザルベク而シテ銅貨銀貨及ヒ金貨ノ大サハ必ス各々異ナルヲ以テナリ故ニ此變造貨幣ヲ受取ル者少シク本邦ノ貨幣ヲ見之ヲ取扱フノ習慣アレバ必ス容易ニ欺カル、コトナカルベシ又其習慣ナキ外國人ニ至テハ更ニ注意シテ價格ヲ示セル數字ヲ查察スルヲ以テ欺カル、コト稀ナルベシ

爰ニ本邦ノ法律ハ佛律ニ比スレハ更ニ嚴ナリトス佛律ニ於テハ燒附ヲ以テ貨幣ヲ變造シタル罪ヲ罰スルコト甚タシ輕シ佛蘭西刑法第三百三十四條ヲ見ルベシ

本條ノ第二段ニ於テハ常ニ一人ニシテ二重ノ罪ヲ犯シ即チ變造ノ罪ト其變造貨幣ヲ内國ニ

於テ行使シタル罪トチ犯シタルコトヲ想像セルモノナリ

若シ其變造貨幣ヲ外國ニ於テ行使シタル時ハ該犯ハ其罪ヲ犯シタル國ニ於テ外國貨幣ニ關シテ科スル所ノ刑ニ處セラル可ク又本邦第四條及ヒ第八條ニ依テ之ヲ處斷スベシ

○第二百十五條 内國ニ於テ通用ヲ許サレタル(内國又ハ外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

唯其貨幣ヲ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科ス

本條ニ於テハ犯罪ノ情狀大ニ變シタリ但シ其貨幣ハ猶ホ金銀貨ナリ又内外國ノ貨幣ナリト雖モ唯適宜ノ通用即チ隨意ノ通用ヲ爲スニ過キサルモノナリ

其社會ニ損害ヲ與フルコト少キハ明カナリ何トナレハ此貨幣ヲ受取ルノ主タル原由ハ其受取人ノ意ニアルヲ以テ其人ハ大ニ注意シテ之ヲ查實スベキヲ以テナリ

本案ニ於テハ此適宜ノ通用ヲ爲シ得ルモノトシテ唯外國貨幣ヲ記載スルノミ然レモ内國ノ舊貨幣ヲモ之ニ加フベシ何トナレハ舊貨幣ト雖モ其廢止後ニ至リテ多少永ク通用シ且大都會ニ遠隔シタル地方ニ於テハ新貨幣甚ク稀ナルヲ以テ猶ホ舊貨幣ヲ甘受スレハナリ

本條第二段ニ於テモ亦此貨幣ノ變造ヲ預見シテ其刑ヲ輕減シタリ但シ其變造ノ種類ヲ爰ニ定メスト雖モ前條ニ明記シタル三個ノ變造方法ニ從フコトハ論ヲ待タサルヘシ

○第二百十六條 内外國ノ紙幣又ハ官許ヲ得テ發行シタル内外國銀行ノ紙幣ヲ偽造及ヒ變造シタル者ハ前二條ニ記シタル區別ニ從ヒ前二條ノ刑ニ處ス

近世ニ至テハ諸國ノ政府ニ於テ多クハ紙幣ヲ用ユルナリ蓋シ紙幣ハ固有ノ價格アルモノタルヨリモ寧ロ價格ノ微蹙タルモノナリ若シ之ヲ固有ノ價格アルモノトスルモ畢竟之ヲ發行シタル政府ヨリ時々之ヲ交換ス可キヲ以テナリ然リ而シテ何レノ政府ト雖モ紙幣ヲ以テ代用スル所ノ價格ノ負債者タルト自カラ看做サスシテ之ヲ發行スルコトナカルベシ本邦ノ如キハ紙幣交換ノ期限恐ラクハ定マラスト雖モ政府ハ其紙幣ノ全額ヲ國債トシテ會計豫算書ニ掲載スルヲ以テ見レハ固ヨリ自カラ其紙幣ノ負債者タルト看做セルナリ此國債ハ利息ヲ生セサルノ外他ノ國債ニ毫モ異ナラサルナリ

理財上ノ壅塞ノ時ニ方テヤ金銀貨ハ稀ナルヲ以テ紙幣ハ強ヒテ通用ヲ爲サシムルモノナリ而シテ平常ノ時ニ在テハ適宜ノ通用ヲ爲セルモノナリ其強ヒテ通用ヲ爲サシムル時ニ方テヤ紙幣ハ其相當ノ金銀貨ニ比スレハ多少下落スルコト必セリ其下落ノ度ハ全ク發行紙幣ノ多寡ト之ヲ所持スル者後來交換上ニ疑念ヲ抱クトニ關スルモノナリ之ニ反シテ紙幣ノ通用適宜タル時ハ人民之ヲ受取ルコトヲ肯セサルヨリモ寧ロ其便宜ノ爲メニ却テ之ヲ求ムルヲ以テ決シテ下落セサルナリ何トナレハ其同時ニ大藏省ニ於テ之ヲ真

貨ニ交換スルヲ得レハナリ

方今日本ニ於テハ強ヒテ紙幣ノ通用ヲ爲サシムルナリ故ニ一圓銀貨ト一圓紙幣トノ差ハ頗ル大ナリトス

蓋シ日本ニ於テハ政府ヨリ紙幣ヲ發行シ又政府ノ允許ヲ受ケテ國立銀行ヨリ之ヲ發行スルコトヲ得而シテ其發行ノ額及ヒ後來ノ交換ノ爲メニ備フベキ抵當ニ付キ政府ノ監督ヲ受ケテ以テ其發行ヲ爲スナリ

且ツ某國ニ於テ適宜ノ通用ヲ爲セル外國ノ紙幣ヲ見ルコトアリ日本ニ於テハ英國銀行手形ノ如キ是レナリ

紙幣ニ關シテ此區別ヲ舉ルコト要用ナリトス何トナレハ此區別ハ本條ヲ適用スルニ付テモ亦其關係アルヲ以テナリ

上文既ニ述タルカ如ク紙幣ニ關シテハ之ヲ以テ代用スル所ノ貨幣ノ金屬如何ヲ論スルニ及ハズ必ス金銀貨ニ代用スルモノト看做スナリ

其他ノ諸件ニ付テハ此第二百十六條ハ前二條ニ定メタル區別ニ從フモノトス是ノ故ニ紙幣ヲ偽造シタルト之ヲ變造シタルトニ依リ又其紙幣合法ノ通用(即チ強ヒテ爲サシムル通用)ヲ爲スモノニ係ルト唯適宜ノ通用ヲ爲スモノニ係ルトニ依リテ其刑ノ差等アルベシ然レモ此二件ニ就テ各注意ヲ爲スベキコトアリ左ニ之ヲ述ベシ

第一 變造ニ關シテハ第二百十四條ニ明示シタル三様ノ變造方法中唯一個ノミ紙幣ニ適用ス可キナリ即チ命價ノ記額ヲ増加スルコト是レナリ何トナレハ紙幣ニ在テハ其實價毫モ之レナキヲ以テ其實價ヲ減スルノ所爲ハ得テ論ス可キ所ニ非サレハナリ又金銀燒附ノ所爲ヲモ論スルヲ得サルナリ然リ而シテ價格ノ數字ヲ變スルヲナクシテ唯紙幣ノ深色ヲ變スト雖モ之ヲ以テ諸人ヲ欺クニ足ラサルガ故ニ此所爲ハ同一ノ刑ニ處スルヲ得サルナリ然レモ斯ノ如キ詐僞ハ固ヨリ不問ニ付ス可カラサルガ故ニ裁判所ニ於テハ斷然第四百三十四條ノ適用ニ屬スル詐欺取財ノ罪トシテ之ヲ罰ス可キナリ

第二 紙幣ノ合法ノ通用又ハ適宜ノ通用ニ關シテハ須ラク之ヲ偽造シテ行使シタル時ニ方テノ現行通用ノ制度ヲ酌量ス可キナリ當時若シ其通用合法ノモノニシテ必ス通用セサルヲ得サル時ハ其刑ハ無期ノ徒刑タルベシ又若シ其通用隨意ノモノニシテ即チ適宜ノ通用タル時ハ其刑ハ重懲役ニ止ルベシ

紙幣ノ偽造ハ其發覺スル前ニ夥シク之ヲ爲シ得ルカ故ニ甚タ公益ニ害アル可キ犯罪ナルヲ以テ右ノ場合ニ於テ其刑ノ重懲役ニ止マルハ甚タ輕キニ似タリト雖モ余ハ先ツ之ニ答テ言ハンスノ如キ誹評ハ彼ノ適宜ノ通用ヲ爲スニ止マル金銀貨ニ付テ第二百五條ニ記シタル刑ニ對シテ之ヲ下セバ幾クカ道理アルヲ得ベシト故ニ編纂委員中少數ノ説ニ此場合ニ於テ其刑ハ合法ノ通用ヲ爲セル貨幣ニ比シテ一等ヨリ下ル可カラズ即チ有期ノ徒刑タル可シト

ノ論アリタリト雖モ余ハ尙ホ之ニ答テ言ハン内國紙幣ノ偽造ニ關シテ更ニ大ナル嚴肅ヲ存センニハ政府ニ於テ紙幣ヲ交換スルヲ得ル時ニ至リ須ラク之ヲ民間ニ於テ通用セサルヲ得サルモノトシテ其運用ヲ維持シ且ツ其受取人ノ交換ヲ乞フ者ニ交換ヲ許ス可シト斯ノ如クスル時ハ甚ダ希望ス可キ情狀タルモ偽造者ノ所爲ノ道德ニ背クコトヲ減セスシテ唯少シク社會ノ損害ヲ減スルノミノ情狀ニ依テ刑ヲ減輕スルヲナカルベシ

此適宜ノ通用ニ關スル規則ハ必ス外國ノ紙幣ニモ亦適用ス可キナリ  
 本法ハ政府ヨリ發行シタル紙幣ト政府ノ允許ヲ受ケテ銀行ヨリ發行シタル紙幣トト同等ニ置ケルナリ蓋シ日本ニ於テハ許多ノ銀行ニテ政府ヨリ許可シタル雛形ニ據リ銀行紙幣ヲ發行スルノ允許ヲ受ケ政府ニ於テハ其銀行ヨリ公債證書ヲ抵當トシテ出サシムルヲ以テ公衆ニ對シ其紙幣ノ價格ヲ政府ニ擔當セルコトハ余輩ノ普ク知ル所ナレハナリ

○第二百十七條 内國ニ於テ合法ノ通用ヲ爲セル銅貨ヲ偽造シテ之ヲ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

唯之ヲ變造シタルニ止ル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上十圓以下ノ罰金ヲ科ス

○第二百十八條 内國ニ於テ唯通用ヲ許サレタル銅貨ニ關スル時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス  
 一 偽造ノ場合ニ於テハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科

ス  
一 變造ノ場合ニ於テハ三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ科ス

銅貨ノ偽造ハ金銀貨ノ偽造ニ比スレハ社會ノ損害ヲ表スルコト尠シ何トナレハ銅貨ノ價格ハ甚々僅少ニシテ各人ノ一時ニ受取ル所ノ分量モ決シテ夥多ナラサルカ故ニ此犯罪ノ犠牲ト爲リタル者ノ損害甚少ナルヲ以テナリ

且ツ此偽造ハ頗ル稀ナルモノナリ何トナレハ銅貨ヲ偽造スルニハ眞銅ノ多量ト尋常ノ金屬トヲ混合スルニ非レハ決シテ之ヲ爲スコトヲ得サルガ故ニ偽造者ノ利益頗ル薄ケレハナリ茲ニ論スル所ノ二條ニ於テモ亦既ニ前數條ニ明示シタル二様ノ區別ヲ出セリ即チ偽造又ハ變造ノ區別ト合法又ハ適宜ノ通用ノ區別是レナリ

其刑ハ合法ノ通用ヲ爲セル貨幣ヲ偽造シテ行使シタル場合ノ外重罪ノ刑タルニ非スシテ都テ其他ノ場合ニ於テハ皆輕罪ノ刑ニ止マルナリ

○第二百十九條 前四條ニ記載シタル罪ヲ犯スト雖モ左ノ場合ニ於テハ下項ノ例ニ照シテ處斷ス

第一 貨幣偽造又ハ變造シタル者本人意外ノ情狀ニ依テ之ヲ內國ニ行使スルヲ得サル時ハ各一等ヲ減ス

第二 偽造又ハ變造已ニ成テ未タ行使ニ着手セザリシ時ハ各二等ヲ減ス

第三 偽造又ハ變造ニ着手シタルニ止マル時ハ各三等ヲ減ス

第四 鑄形鑄刻シタル銅板其他貨幣ノ偽造ニ用ユベキ器械ヲ預備シテ以テ未ク偽造ニ着手セザル時ハ各四等ヲ減ス

前數條ニ於テハ偽造又ハ變造ノ重罪輕罪ヲ遂ケテ以テ其貨幣若クハ紙幣ヲ行使シタルコトヲ想像シタルナリ

本條ニ至テハ該犯罪ヲ遂ケザリシカ又ハ偽造ト行使トノ二罪ヲ兼テザリシ場合ヲ想像スルモノニシテ最モ注意シテ此罪業ノ輕重ノ度ヲ追ヒ以テ本刑ノ四等ヲ減スルニ至レリ

故ニ本條ヲ適用スルニ付テ裁判官ハ左ノ二件ヲ考究ス可キナリ第一若シ該犯罪ヲ全ク遂ケタル時即チ偽造〔又ハ變造〕ト行使トノ二重ノ目的ヲ遂ケタル時ハ其犯罪ノ刑如何ノ事第二本條ニ論スル別段ノ場合ニ於テハ該犯罪ヲ遂ケタルノ度如何ノ事はレナリ

然リ而シテ此第一ノ點ニ付テハ貨幣ノ性質其通用ノ性質并ニ其贋造ノ性質〔偽造カ變造カ〕ヲ酌量スルコトヲ要シ第二ノ點ニ付テハ其貨幣ノ行使ニ着手シタリト雖モ犯人意外ノ情狀ニ依テ之ヲ遂ケザリシカ又ハ未タ其着手ヲモ爲サザリシカ若クハ唯其偽造又ハ變造ノ着手ニ止マリシカ并ニ其偽造又ハ變造ノ預備ヲ爲シタルニ過キス即本條第四段ニ記載セル手段中ノ一ヲ以テ其預備ヲ爲シタルカヲ酌量スルコトヲ要ス

本條ニ於テハ貨幣變造ノ預備行爲ヲモ又其發行ノ預備行爲ヲモ罰セス是レ宜シク注意スベキナリ此件ニ關シテハ凡ソ犯罪預備ノ行爲ハ其犯意ノ十分確實ナラサルモノトシテ之ヲ罰セサルノ規則ニ從フベキナリ

○第二百二十條 職工ノ身分ヲ以テ直接ニ貨幣及ヒ紙幣ノ偽造若クハ變造ニ加功シタル者ハ前數條ニ記シタル區別ニ從ヒ其偽造若クハ變造ノ正犯ト同ク論ス

其偽造若クハ變造ノ爲メ止テ職工ノ補助ヲ爲シタル者ハ本刑ニ照シテ二等或ハ三等ヲ減ス

本案ノ起草者ハ貨幣ノ偽造ニ加功シタル職工ニ關シテ其刑ヲ明記セサル可カラスト信シタリ何トナレバ此職工ハ偽造者ノ附從トシテ論スルノ外之ヲ罰ス可カラスト信スル者アル可キヲ以テナリ

本法之ヲ偽造者ノ共犯ト定メタル所以ノモノハ畢竟其加功ノ直接ナルヲ以テナリ尤モ其職工偽造ノ情ヲ知テ加功シタルモノタルコトヲ要スレハ論ヲ俟タサルナリ何トナレバ其者止テ金屬ヲ溶解シ若クハ紙幣ヲ偽造スヘキ銅板ヲ磨クニ用ヒラレ而シテ本人之ヲ法律上ニ許セル使用ニ供スルモノト信シタルニ於テハ毫モ之ヲ罰ス可カラサレハナリ

之ニ反シテ本條第二項ニ論スル所ノ職工ノ補助ヲ爲シタル者ハ附從ヨリモ輕ク罰セラレ其刑ヲ減輕スルコト頗ル大ナリトス蓋シ其本罪ニ加功スルコト甚タ間接ナルヲ以テナリ且ツ

其助力ノ性質ハ極メテ尋常ノ事業ニシテ該犯罪ノ責任中大部分ヲ以テ之ニ歸スルヲ得サレハナリ畢竟是等ノ者アル無シト雖モ該犯罪ヲ遂ルヲ得ベシ彼ノ職工ノ如キハ決シテ然ラサルナリ

此二類ノ犯人ニ付テ注意スベキコトアリ即チ甲者ノ全刑及ヒ乙者ノ減刑ハ偽造ト行儀トヲ兼ネタル罪ノ刑ニ非スシテ偽造〔若クハ變造〕ノ罪ノ刑タリ故ニ其刑ノ照準ヲ取ル可キハ第二百十四條ヨリ第二百十八條ニ至ル數條ニ於テセスシテ第二百十九條ノ第二項第三項及ヒ第四項ニ於テス可キナリ

○第二百二十一條 貨幣又ハ紙幣ノ偽造若クハ變造ノ爲メニ止テ房室ヲ給與シタル者ハ第二百十九條ニ於テ場合ニ依リ規定シタル所ニ從ヒ偽造又ハ變造ノ刑ニ照シテ一等ヲ減ス本條ニ於テハ貨幣偽造ノテヲ遂ケシムル爲メ房室ヲ給與シタル者ニ對シ明白ニ附從ノ名ヲ下サスト雖モ此等ノ者ハ必ス此名稱ヲ受クベキ者ニシテ其刑モ亦附從罪〔第二百二十二條〕ノ通常ノ刑ナリトス蓋シ房室ハ此罪ヲ犯スノ器械即チ手段クレハナリ

○第二百二十二條 偽造又ハ變造ノ貨幣若クハ紙幣ヲ內國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ本犯ト同ク論ス但シ輸入者己ニ外國ニ於テ偽造又ハ變造ノ刑ニ處セラレタルト雖モ仍ホ輸入ノ刑ヲ科ス

本法ハ外國ニ於テ偽造若クハ變造シタル貨幣ヲ日本ニ輸入スルノ罪ヲ以テ偽造變造ノ罪ト

同等ニ處セリ蓋シ之ヲ同視シタルハ理ノ當然ニシテ此犯罪ノ爲メニ生スル損害ハ偽造變造ト同一タレハナリ

爰ニ緊要ナル二個ノ注意ヲ爲ス可キナリ其一ハ本條終尾ノ規則ニ關スルモノエシテ即チ偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入シタル者己ニ外國ニ於テ其偽造變造ノ刑ニ處セラレタリト雖モ之ヲ以テ輸入ノ刑ヲ免レシム可カラサル事是レナリ蓋シ此事タル本案第四條ノ第二項ニ依テ或ハ疑ヲ生スル者アルベシト雖モ偽造貨幣ヲ内國ニ輸入スル罪ハ新ニ犯シタル罪ニシテ初犯ノ罪ト本來ノ關係ヲ有セサルコト明カナリ其證據タルヤ此二犯罪ノ本犯互ニ加功セシトナクシテ各々殊別ノ者タルコトアルヲ以テナリ蓋シ輸入ノ本犯ハ初メヨリ偽造者ト關係ナクシテ其偽造貨幣ヲ得タルコトアル可ケレハナリ

又本條ニ關シテ爲スベキ第二ノ注意ハ偽造貨幣ヲ内國ニ輸入スト雖モ次テ之ヲ内國ニ行使セザリシ時ハ第二百十四條及ヒ第二百十八條ニ記シタル刑ヲ科セスシテ止タ第二百十九條ニ記シタル刑ヲ科スルニアリトス之ニ反シテ若シ輸入ニ繼イテ行使ヲ爲シタル時ハ其犯罪ハ殆ト二様ニ涉レルヲ以テ之ニ科ス可キモノハ本節ノ初頭ニアル五條ノ刑ナリトス

○第二百二十三條 直接ニ貨幣又ハ紙幣ノ偽造變造〔若クハ其輸入〕ニ加功シタルニ非スト雖モ情ヲ知テ之ヲ内國ニ行使シタル者ハ第二百十九條ノ第二項ニ倣ヒ偽造變造〔若クハ輸入〕ノ本犯其貨幣ヲ内國ニ行使セザリシ者ト同ク論ス

止ク其行使ニ着手シタル者ハ一等ヲ減ス

貨幣偽造ノ罪ハ本節中ニ於テ皆十二元素ヨリ組成セルモノト見ユルナリ其二元素ハ或ハ之ヲ具備シ或ハ分離セルコトアルモノニシテ即チ第一偽造又ハ變造ノ罪第二發行即チ行使ノ罪是レナリ而シテ一ノ犯人ニシテ此二元素ヲ具備スルモノアリ然ル時ハ其刑甚ク重キモノニシテ第二百十四條ヨリ第二百十八條ニ至ル數條ニ於テ之ヲ見ルカ如シ又此二元素ヲ分離シテ殊別ノ本犯互ニ加功シ若クハ加功スルコトナクシテ之ヲ犯セルコトアリ然ル時ハ其刑輕キモノニシテ第二百十九條及ヒ本條ニ於テ之ヲ見ルカ如シ

本條ノ明文ニ於テハ起草者ノ不注意ニ因ルカ又恐ラク文章ヲ簡約センガ爲メ偽造貨幣ヲ内國ニ輸入スルノ罪ヲ偽造罪ト同等ニ處スルコトヲ遺脱シタリ故ニ本條括弧〔 〕ノ間ニ記シタル所ノ文字ヲ加ヘテ須ラク其缺ヲ補フ可キナリ

又本條第二項ニ關シテ注意スベキハ其行使ニ着手シタル罪ノ刑ハ通常ノ場合〔第二百二十五條〕ニ於ケルガ如ク二等或ハ三等ヲ減スルニ非スシテ第二百十九條ノ第一項ニ類スル場合ノ如ク止タ一等ヲ減シタルニアリトス蓋シ此刑ノ嚴ナル所以ヲ説明センニハ該犯罪ヨリ生スル損害ノ重大ナルヨリ外他ニ其理由ヲ求ム可カラサルナリ

○第二百二十四條 前數條ノ規則ヲ適用シテ以テ禁錮ニ處シタル場合ニ於テハ一年以上二年以下ノ監視ニ付ス

貨幣ノ偽造ハ一般ニ重罪ノ刑ニ處スルモノナリト雖モ止ク輕罪ノ刑即チ禁錮ニ處スルヲアリトス即チ左ノ場合ニ於ケルガ如キ是レナリ

- 第一 第二百十五條ノ第二項第二百十七條ノ第二項及ヒ第二百十八條ニ記シタル場合
- 第二 都テ此犯罪ヲ組成スル性質中ノ一二ヲ缺キタルニ因ルト又第二百十九條ヨリ第二百二十三條ニ至ル數條ニ倣フテ一等若クハ數等ヲ減ス可キニ因ルトナ問ハス本刑ヲ減輕シタルノ場合

此諸般ノ場合ニ於テハ禁錮ノ刑期終リタル後ニ無論一年以上二年以下ノ監視ニ付ス可キナリ

此規則ハ裁判所ニ於テ輕罪ニ關シ第四十九條ニ倣フテ監視ヲ言渡スニ及ハスシテ無論監視ニ付スル事ヲ適用スル場合ノ一ナリトス

其刑若シ重罪ノ刑タル時ハ無論監視ニ付スルコト例ノ如シ〔第四十八條參看〕

○第二百二十五條 貨幣ヲ偽造鑄造及ヒ輸入シタル正犯又ハ附從タル者未ダ之ヲ行使セス且ツ未ダ全ク發覺セサル前ニ自首シテ縛ニ就キ其他ノ正犯ヲ裁判所ニ告發シタル時ハ全ク其罪ヲ宥恕シテ前數條ノ刑ヲ免シ三年以上七年以下ノ監視ニ付ス

己ニ發覺スト雖モ未ダ行使セズシテ自カヲ縛ニ就キ其重立チタル犯人ヲ捕獲スルテ助ケ且ツ其偽造又ハ鑄造ノ貨幣紙幣ヲ差押ユルヲ得セシメタル時ハ亦同シ

國ノ内部ノ安寧ヲ害スル重罪ノ共犯又ハ附從ニシテ其正犯ヲ告發シタル者ノ罪ヲ全宥スルノ恩典ハ既ニ第四百十一條ニ出ル所ナリ

本條ニ與フル所ノ恩典モ亦之ト同一ナル旨趣ニ出ルモノニシテ即チ全ク犯罪ヲ遂ルヲ豫防スルハ社會ノ大益ナリトノ主意ニアリトス

本節ノ犯罪ハ偽造貨幣ヲ行使スルニ依テ全ク之ヲ遂ルモノナルガ故ニ其未ダ行使セサル前ニ於テ告發スルヲ要スルナリ然レモ偽造貨幣ノ若干ヲ既ニ行使シタルガ如キ妨礙アル場合ヲ生スルコトアルベシ蓋シ其行使シタルモノ止タ僅々ナリシ時ハ告發者ノ爲メニ其罪ヲ宥恕スルノ恩典ヲ與フルコト本法ノ精神タルヤ必セリ元來其行使シタル分量幾許ニシテ宥恕ノ恩典ヲ失ハシム可キカ其定限ハ法律上ニ於テ定ムルヲ得サルモノト認メサル可カラズ故ニ其各般ノ場合ニ於テ審ニ行使シタル分量ヲ酌量スルノミナラス又其製造シタル分量ト告發ニ依テ行使スルヲ妨ケシレタル分量トヲ酌量シテ以テ事實ニ徴シテ宥恕ス可キヤ否ヤヲ斷定ス可キハ裁判所ニアリトス其他本條ノ尾項ニ關シモ之ニ類スル難事ヲ生スベシ即チ告發ノ時ニ方テ己ニ其犯罪ノ發覺セシ事是レナリ此場合ニテ於テハ告發者ガ裁判所及ヒ社會ノ爲メニ爲ス所アルヲ要ス之ヲ詳言スレバ其告發者犯人ノ捕獲ヲ助ケ且ツ未ダ行使セサル偽造貨幣ヲ差押ユルヲ得セシムルヲ要スルナリ但シ犯人ニ付テハ固ヨリ其重立タル者ノ捕獲ヲ得ルヲ以テ本法ノ満足スル所ナリト雖モ偽造貨幣ノ差押ニ付テハ其數個ノ現存スルコ



確實ニシテ而シテ其所在ヲ發見スルヲ得サリシ故ヲ以テ告發者宥恕ノ恩典ヲ失フ可キモノト言ハサルヲ得サルヤ如何ノ問題ニ至テハ須ラシ前段ノ疑問ニ於ケルカ如ク事實ニ徴シテ之ヲ斷決ス可キナリ故ニ若シ差押ユルヲ得サル偽貨ノ數其製造シタル景數ニ比スレハ極メテ僅少ナルニ於テハ必ス告發者ニ宥恕ノ恩典ヲ與フ可キナリ

○第二百二十六條 凡ソ内外國ノ貨幣紙幣ヲ問ハス内國ニ於テ合法又ハ隨意ノ通用ヲ爲セルモノヲ取受スルノ後ニ於テ始メテ偽造又ハ變造ナルヲ知テ之ヲ行使シタル者ハ其行使シタル價額ニ同シキ罰金若クハ之レニ倍スル罰金ニ處ス但シ其罰金ハ二圓ヨリ降ル可カラス

本條ニ論スル所ハ太々輕キ輕罪ニシテ其道德上ニ背ケルノ度モ太々輕キモノナリ何トナレハ欺ムカレテ偽造貨幣ヲ取受シタル者ハ多クハ其之ヲ取受シタルト同一ノ手段ヲ以テ其損失ヲ免カレ得ルト容易ニ信スルヲ以テナリ固ヨリ其之ヲ信スルハ法律及ヒ道德上ノ罪ナリト雖モ此過失ハ屢々之レアルモノニシテ人多クハ自カラ之ヲ怪マサルナリ

又社會ノ損害ニ至テハ固ヨリ極メテ僅少ナルモノニシテ僅カニ一二個ノ偽貨ニ關スルノミ且ツ若シ其偽貨ノ價額多少大ナルモ之ニ比例シテ罰金ヲ増科ス可ケレハナリ但シ此罰金ハ二圓ヨリ降ル可カラス是レ其刑ヲシテ輕罪ノ刑ニ止マラシメンカ爲メナリ並ニ本條ニ於テハ斯ク瑣末ノ事項ニ在テ許多ノ偽造罪ノ區別ニ涉ルヲ避ンガ爲メ金銀二貨

幣紙幣紙幣内外國貨幣并ニ合法隨意ノ通用等ニ關スル罪ヲ合シテ同一ノ罰則中ニ加入セリ然レモ銅貨ニ付テハ論ス可キ所ニ非ス本條ニ記スル罪ハ銅貨ニ關シテハ不問ニ付テ可キナリ蓋シ其罪太々輕微ナルヲ以テナリ

○第二百二十七條 偽造變造ノ貨幣紙幣及ヒ其用ニ供シタル器械ハ都テ之ヲ沒收ス其偽貨ノ下交換シタル金額物件ハ之ヲ被害者ニ還付ス此規則ハ第五十五條ノ第三項ヲ適用シタルモ別ニ立法者此附加刑ニ關シテ之ヲ明記セサル可カラスト信シタル所以ノモノハ先ツ首トシ本本法ニ定メタル所ノ原則ヲ本法中ニ時々適用スレバ其原則更ニ明瞭ヲ加フ可キガ故ニシテ又沒收ノ規則ヲ以テ此犯罪ノ利益ニ及ボシタルカ爲メナリ但シ此利益ハ種々ニ之ヲ變ズルヲ得可シト雖モ容易ニ之ヲ認ムルヲ得ズ

此犯罪ニ依テ利益ヲ得タリトセンニハ其偽造貨幣ヲ行使シタルモノト看做サバ爾可カラズ然リ而シテ之ヲ行使シタルモノハ之ニ換フルニ真正ノ貨幣又ハ物件ヲ得タルナル可シ而シテ其詐欺ノ犠牲ト爲リタル者其金額物件ノ猶ホ未タ同物ニテ偽造者ノ手ニ有ルヲ證スルヲ得ル時ハ之ヲ還付セヨルヲ以テ之ヲ復得スベシト雖モ若シ其犠牲ト爲リタル者知レスシテ而シテ其金額物件ヲ得タルノ根原確實ナル時ハ犯人ヲシテ其犯罪ノ結果タル利益ヲ得サラシメンカ爲メ之ヲ沒收ス可キナリ

終リニ此節ニ記載シタル輕罪ノ着手ハ之ヲ罰ス可シト明記スルニ及ハサリシコトヲ注意スベシ  
抑々貨幣ノ偽造ハ殆ト皆ナ重罪ナリトス然リ而シテ重罪ノ着手ハ常ニ之ヲ罰ス可キナリ若シ其偽造第二百十八條ノ場合ノ如ク輕罪タルニ過キサレハ其着手ハ第二百十九條ノ第一項ニ依テ罰スル所ナリ第二百二十六條ニ記シタル至輕ノ罪ニ至テハ其着手ヲ不問ニ付ス可シ何トナレハ之ヲ認ムルコトハ甚々難カル可ケレハナリ

○第二節 官印及ヒ官ノ記號ヲ偽造僞用スル罪

○第二百二十八條 國璽ヲ偽造シ又ハ偽造ノ國璽ヲ押シタル文書ヲ僞用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

本條ニ預見シテ罰スル所ノ偽造罪ハ何レノ國ニモ甚々稀ナルモノニシテ佛國ニ於テハ未ダ曾テ其例アラザルガ如シ蓋シ此犯罪ノ稀ナル理由ハ元來國璽ハ立法ニ關スル文書又ハ政府ニ屬スル文書ノ正本ニシテ押スモノニシテ人民ハ其文書ヲ見ルニ及ハス況ンヤ之ヲ造ルニ及ハサルヲ以テ毫モ國璽ヲ偽造セント欲スルコトナキニアリトス  
又此偽造罪ハ國書ニ關與スル所ノ高官ニ付テモ恐ル可キニ非ス何トナレハ該官ハ必ス政府ニ信用ヲ受クベキガ故ニ其他ニ偽造ノ國璽ヲ押シテ以テ國書ヲ偽造セント思フコトナル可クナレハナリ

故ニ此ノ如キ罪ハ之ヲ犯ス者無キカ如シト雖モ之ヲ不問ニ付ス可キニ非ラス可トナレハ國璽ノ偽造ヲ罰セズレテ而シテ之ヨリ緊要ナラザル官印ノ偽造ヲ罰スルハ甚々奇怪ナル可ケレハナリ

又本條ニ於テハ貨幣ノ偽造罪ニ關シテ本法ニ區別ヲ爲シタルガ如ク國璽ヲ偽造シタル罪ト偽造ノ國璽ヲ使用シタル罪トノ間ニ區別ヲ立テズ故ニ國璽ヲ偽造シタル者他人ノ偽造シタル國璽ヲ使用シタル者及ヒ此ニ罪ヲ犯シタル者皆ナ其刑同一ナリトス  
偽造ノ國璽ヲ使用スルトハ或文書ヘ之ヲ押シタルノ所爲ヲ謂フニ非ス假令ヒ他人ノ押シタルモノト雖モ偽造ノ國璽ヲ押シタル文書ヲ使用スルニアリトス但シ偽造ノ情ヲ知りテ其使用ヲ爲シタルヲ要スルコト論ヲ俟タサルナリ即チ本條ニ僞用ノ語ヲ用ヒテ以テ十分ニ之ヲ説明セリ

○第二百二十九條 官院省使府縣及ヒ各裁判所ノ官印ヲ偽造シ又ハ其僞印ヲ押シタル文書ヲ僞用シタル者ハ重懲役ニ處ス

本條ニ記載シタル官印ノ偽造ハ前條ノ罪ニ比スレハ之ヲ犯ス者多カルヘシ  
本條ノ罪ヲ論スルニ有期徒刑ニ非スシテ重懲役ニ處スルヲ以テ之ヲ驚怪スル者アルベシト雖モ其旨趣ハ本條ニ預見シタルカ如キ偽造罪ハ發覺セサルノ患少キヲ以テ社會ノ危險大ナラサルニアリトス但シ本條ノ刑モ亦同シク官印ヲ偽造シタル罪ト之ヲ僞用シタル罪トニ通

スルナリ

第二百三十條 前二條ニ記載シタル以外ノ官印及ヒ或ル文書、產物、商品等ニ押用スル官ノ記號極印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ押タル文書ヲ僞用シタル者ハ輕懲役ニ處ス  
本條ハ郡區役所、郵便局、電信局、稅關、其他ノ收稅局ノ如キ前條ニ掲載シタル官署ヨリ降レル官署ノ印ニ之ヲ適用スルモノトス

凡ソ記號トハ或ル官署ニ於テ箱、車、產物、若クハ商品ヘ附スル所ノ標識、文字又ハ數字ノ謂ニシテ例ヘハ府縣廳ヨリ公私ノ諸車ニ附スル所ノ記號、其他稅關ニテ商品ノ荷物ニ附スル所ノ記號ノ如キ則チ是レナリ極印トハ金銀細工物ノ品位ヲ確保スルカ爲メニ鑿錐ヲ用ヒテ是等ノ物件ニ打ツ所ノ細微ナル記號ヲ云フ

金銀細工物ノ品位ヲ保證スル事務ハ本邦未タ其設ナシト雖モ既ニ其爲必要ナルヲ知リタルヲ以テ早晚之ヲ設ルニ至ルベシ此極印ノ偽造者ニ科スル刑ハ則チ本法ニ於テ之ヲ見ルベシ凡僞用ノ所爲ハ官印ニ關スルト又官ノ記號及ヒ極印ニ關スルトニ依テ全ク同一ナルモノニ非ス

官印ヲ僞用スルノ罪ハ僞用ノ官印ヲ文書ニ押シタルヲ以テ足レリトスルニ非ス其文書ヲ使  
用シタルコトヲ要スルナリ  
又僞造ノ記號若クハ極印ヲ僞用スルノ罪ハ情ヲ知テ之ヲ產物又ハ商品ニ打チタルヲ以テ足

レリトス何トナレハ此時ニ方テ該犯ハ僞造ノ爲メニ自己ノ希望セシ所ノ不正ノ利益ヲ收メタルヲ以テナリ故ニ該犯ガ後ニ國產物若クハ商品ヲ自用シタルカ之ヲ賣却シタルカ又ハ之ヲ蓄藏シタルカヲ論スルニ及ハサルナリ

本案ハ元ト左ノ如ク記シタル一項ヲ載セタリキ  
曰ク「官ノ記號ヲ附スベキ商品又ハ產物ヘ僞造ノ記號極印ヲ打チタル所爲ノミヲ以テ罰スベキ使用ヲ爲シタルモノトス」ト

然レモ編纂委員多數ノ說ニヨリ此一項ハ意言外ニ顯ハル、ヲ以テ之ヲ削除セサル可カラスト決シタリ蓋此削除ハ痛歎ス可キナリ

○第二百三十一條官ヨリ發出スル各種ノ印紙及郵便切手又ハ證券界紙ヲ僞造シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

其僞造印紙ヲ行使シ又ハ之ヲ僞用シタル者亦同シ

凡ソ證券界紙ハ官ノ證印ヲ押セルモノナリ郵便切手及ヒ其他ノ印紙ハ則チ爲替手形又ハ賣買スルヲ得ヘキ商業上ノ手形類ニ附スルカ爲メニ官ヨリ人民ニ賣ル所ノ官ノ證印ナリトス此諸證印ヲ僞造スル罪ハ立法者ニ於テ殊ニ輕キ刑ヲ科スルヲ以テ至當ト思ハサリシ時ハ前條ノ場合ニ屬ス可キニ本條ノ刑ハ輕罪ノ刑タルニ過キサルナリ尤モ此刑ハ輕罪中最重ノ刑ニシテ二年以上五年以下ノ重禁錮二十圓以上五十圓以下ノ罰金ナリトス

又其偽用ニ至テハ偽造ノ證券界紙ヲ用ヒテ證書ヲ記シ若クハ爲替手形或ハ商業上ノ手形類  
ヘ偽用ノ印紙ヲ貼用スルニアリトス  
其他偽用ニ類スル一種ノ所爲アリトス即チ發賣又ハ其他ノ方法ヲ以テ偽造ノ證券界紙若ク  
ハ印紙ヲ行使スルモノ是レナリ

○第二百三十二條不正ノ所爲ヲ以テ真正ノ國璽官印若クハ極印ヲ押シテ之ヲ偽用シタル者  
ハ偽造ノ刑ニ照シテ各々一等ヲ減ズ

不正ノ所爲ヲ以テ國璽官印ヲ押シタルニ加功セシコトナシト雖モ斯ノ如ク贋造シタル文書  
ヲ偽用シタル者亦同シ

若シ監守者自カラ之ヲ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

本條ニ預見セル社會ノ危險ハ或ル點ニ關シテハ偽造ノ罪ヨリモ更ニ大ナルモノアリ何トナ  
レハ本條ノ犯罪ハ之ヲ犯スト易クシテ之ヲ發見スルコト難ケレハナリ

然リト雖モ本條ノ罪ハ發見スルヲ得サルモハ日後他ノ犯罪ノ用ニ供スルコトアル可キ偽印  
ヲ造リタルモノニ非ス故ニ國璽及ヒ官印ヲ監守スルニ於テ一層注意ヲ加レハ再ヒ不正ノ押  
用ヲ爲スヲ防グコト得ベシ且ツ本條ニ論スル犯罪ハ偽造者ノ罪ヨリモ惡意ヲ表スルコト少  
何トナレハ此犯罪ハ即時ニ犯シ得ルモノナリト雖モ偽造ニ至テハ時間ヲ要シ且ツ頗ル勞力  
ヲ要スレハナリ

故ニ本條ノ刑ハ偽造ノ場合ニ於ケルヨリモ輕シト了會ス可キナリ但シ本條ニ於テハ不正ノ  
所爲ヲ以テ官印ヲ押シタル所ノ文書ヲ偽用シタルニ非レハ實ニ罰セサルコトニ注意ス可シ何  
トナレハ本條第一項ニ於テハ不正ノ押用ヲ爲シタル者并セテ其文書ヲ使用シタルコトヲ要ス  
且ツ其第二項ニ於テハ押用ニ加功シタルコトナシト雖モ其文書ヲ利用シタル者ヲモ同一ノ刑  
ニ處スルヲ以テナリ然レモ唯不正ノ押用ヲ爲シタルニ止マル者ハ毫モ刑ヲ科セサルナリ此  
事タルヤ畢竟妄想ニ過キスシテ不正ニ官印ヲ押用シタル者ハ必ス其文書ヲ偽用スルノ罪ヲ  
犯シ又ハ其附從罪ヲ犯ス可ケレハナリ

若シ不正ノ所爲ヲ以テ官印ヲ押用シタル者官印ノ監守者タル時ハ本法其刑ノ一等ヲ陞シテ  
偽造ノ刑ト同シセリ蓋シ此場合ニ於テハ社會ノ危險一層大ニシテ其所爲ノ道徳上ニ背ケル  
度モ亦更ニ大ナレハナリ

○第二百二十三條 真正ノ國璽官印記號ノ影蹟ヲ得テ或ル手段ヲ以テ之ヲ他ノ文書物品ニ  
移シ以テ偽造シタル文書ヲ偽用シタル者ハ前條ノ刑ニ同シ

其文書ノ偽造ニ加功シタルコトナシト雖モ情ヲ知テ之ヲ偽用シタル者亦同シ

本條ニ論スル所ノ偽造ハ容易ニ之ヲ爲スコト得ルモノニ非ス何トナレハ此偽造ハ公正ニ官  
印ヲ押シタル所ノ文書ヨリ其官印ヲ切取シ而シテ次節ニ記載セルカ如ク偽造シタル所ノ他  
ノ文若者クハ真正ノモノナリト雖モ猶ホ未ダ官印ヲ押ス可カラサル所ノ他ノ文書ヘ之ヲ貼